

IV. 調査結果の分析

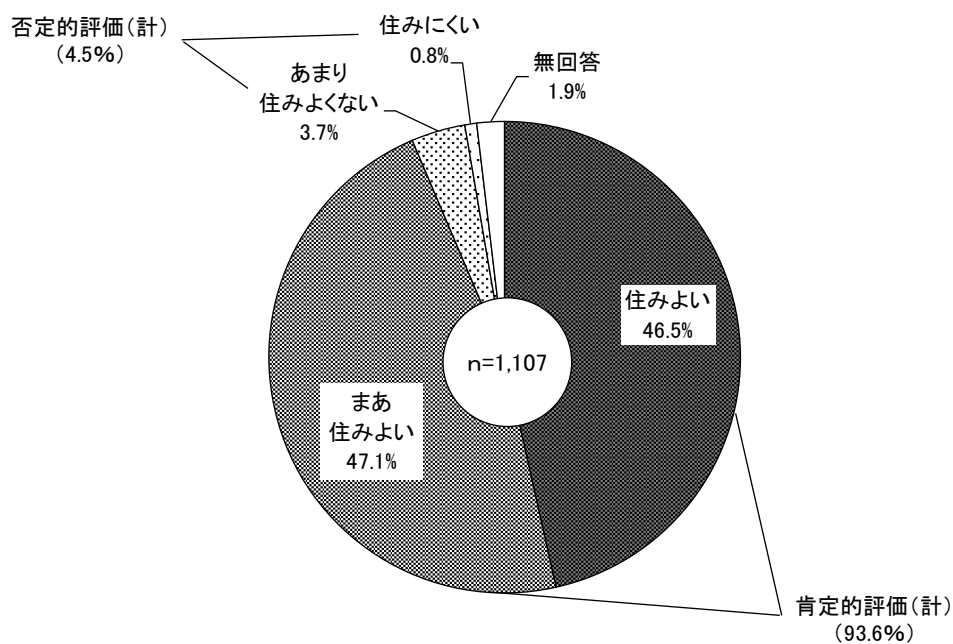
1 区の施策および評価について

(1) 住みごち

◇『肯定的評価』が9割を超える

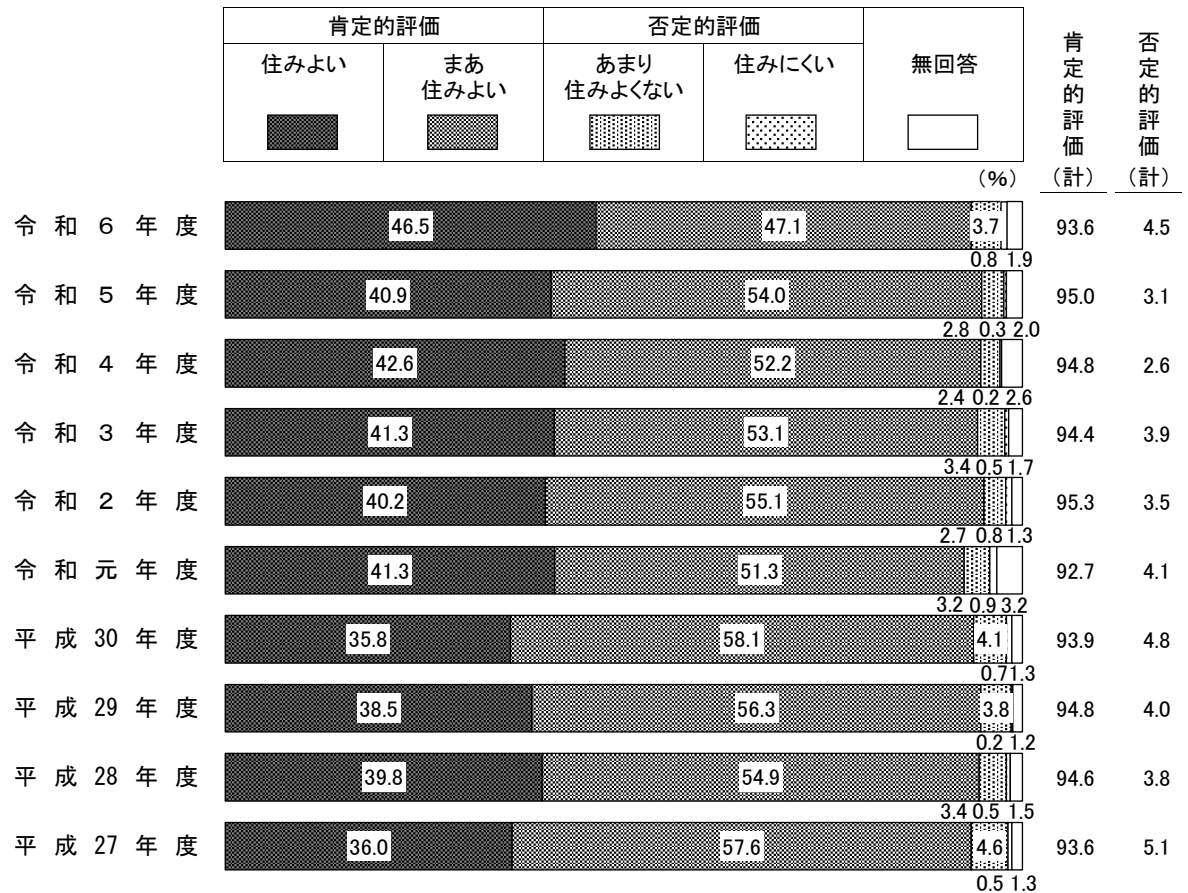
問1 あなたは、練馬区の住みごちをどう思いますか。(○は1つ)

図1-1-1 住みごち



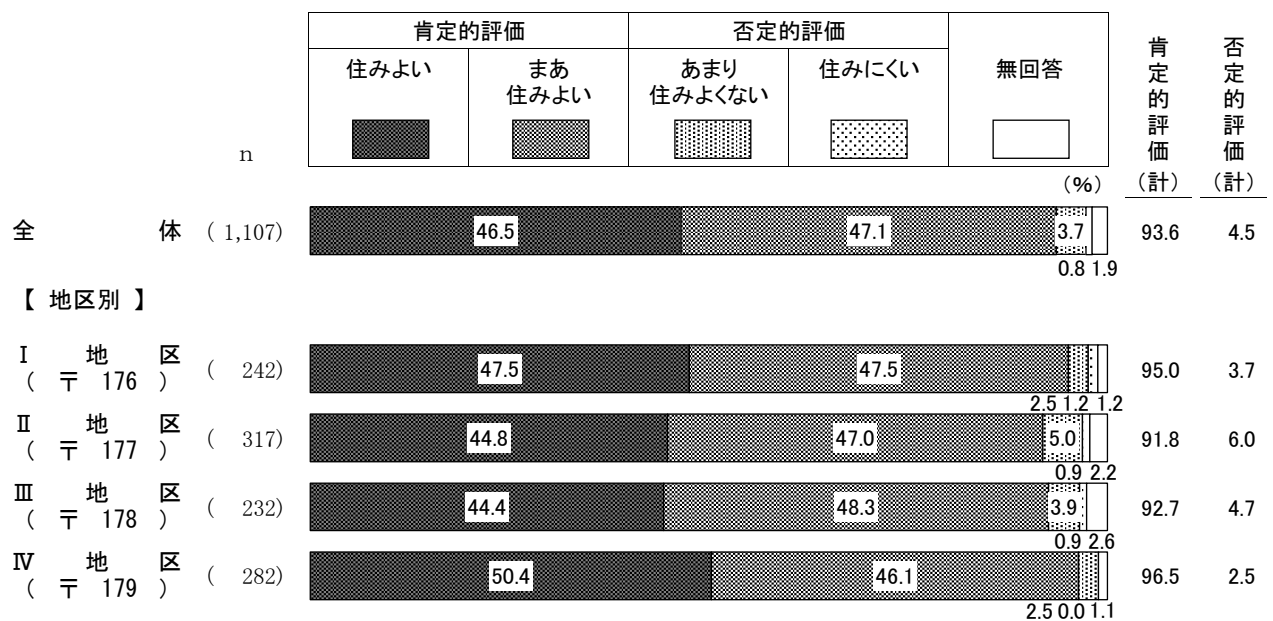
練馬区の住みごちを聞いたところ、「住みよい」(46.5%)が5割近く、「まあ住みよい」(47.1%)が5割近くとなっており、この2つを合わせた『肯定的評価』(93.6%)が9割を超えている。一方、「あまり住みよくない」(3.7%)、「住みにくい」(0.8%)を合わせた『否定的評価』(4.5%)はわずかとなっている。(図1-1-1)

図 1-1-2 住みごこち一過年度比較



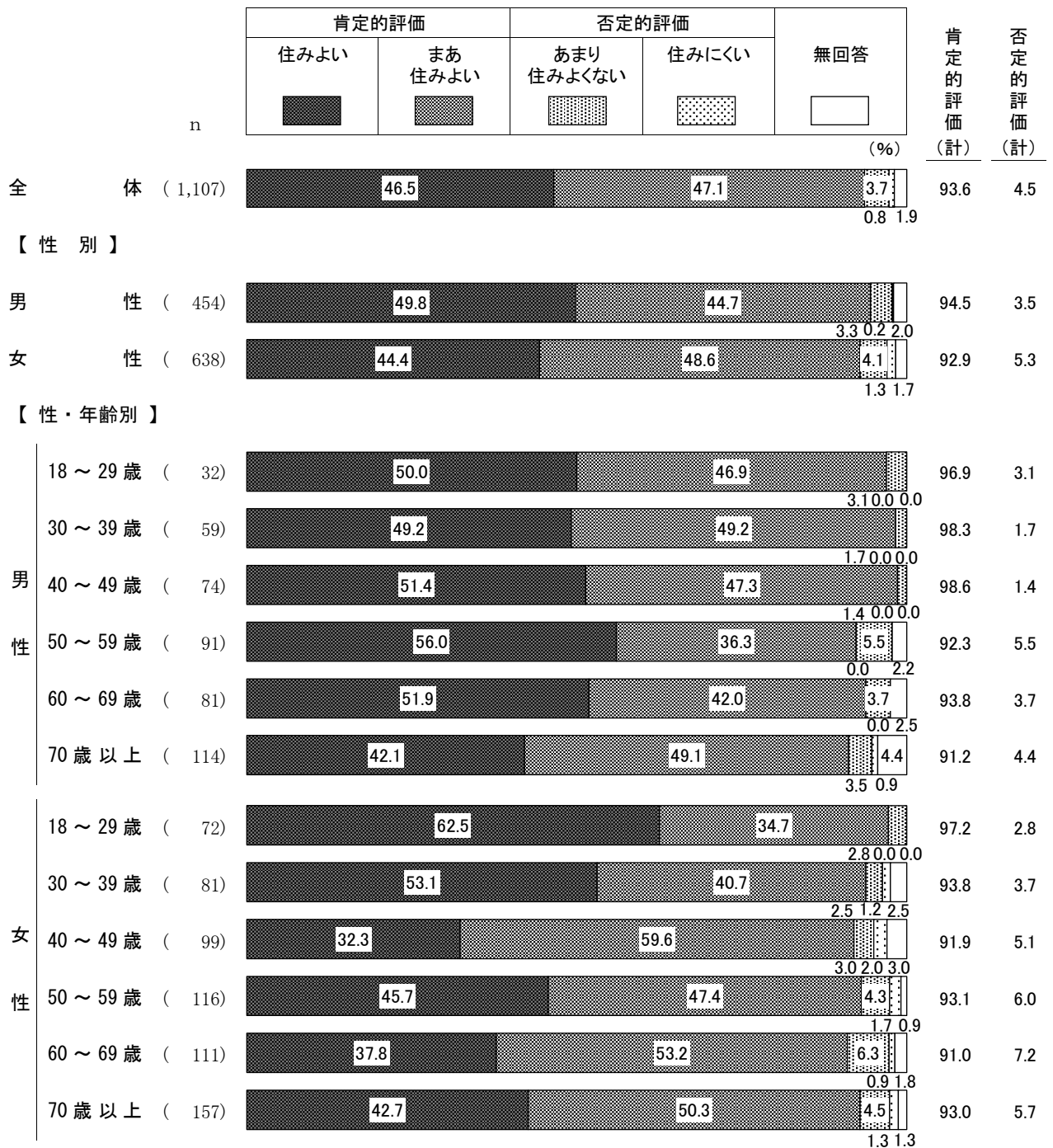
過去の調査と比較すると、『肯定的評価』は平成27年度以降いずれも9割台となっている。
(図 1-1-2)

図 1-1-3 住みごこち一地区別



地区別にみると、『肯定的評価』はすべての地区で9割台となっている。(図 1-1-3)

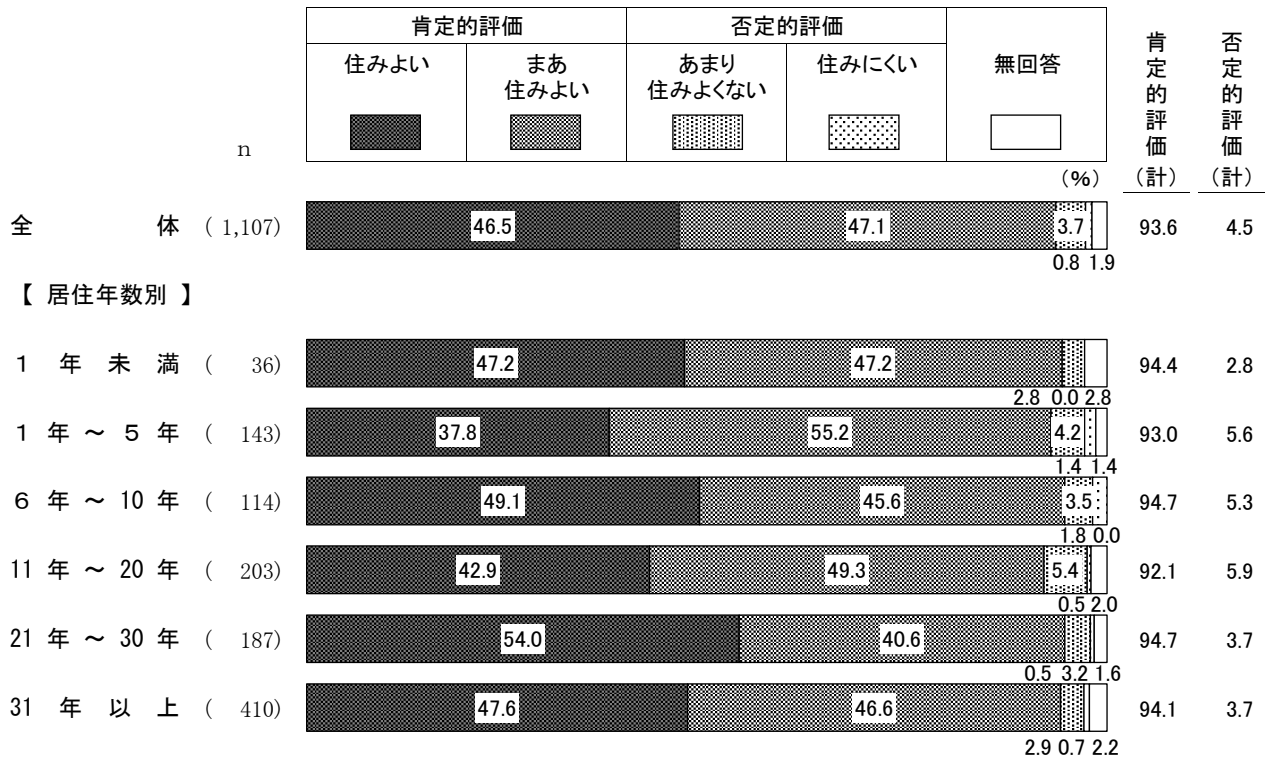
図 1-1-4 住みごころ—性別／性・年齢別



性別にみると、『肯定的評価』に大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、「住みよい」は女性18～29歳で6割を超えて多くなっている。『肯定的評価』はすべての性・年齢で9割台となっている。(図1-1-4)

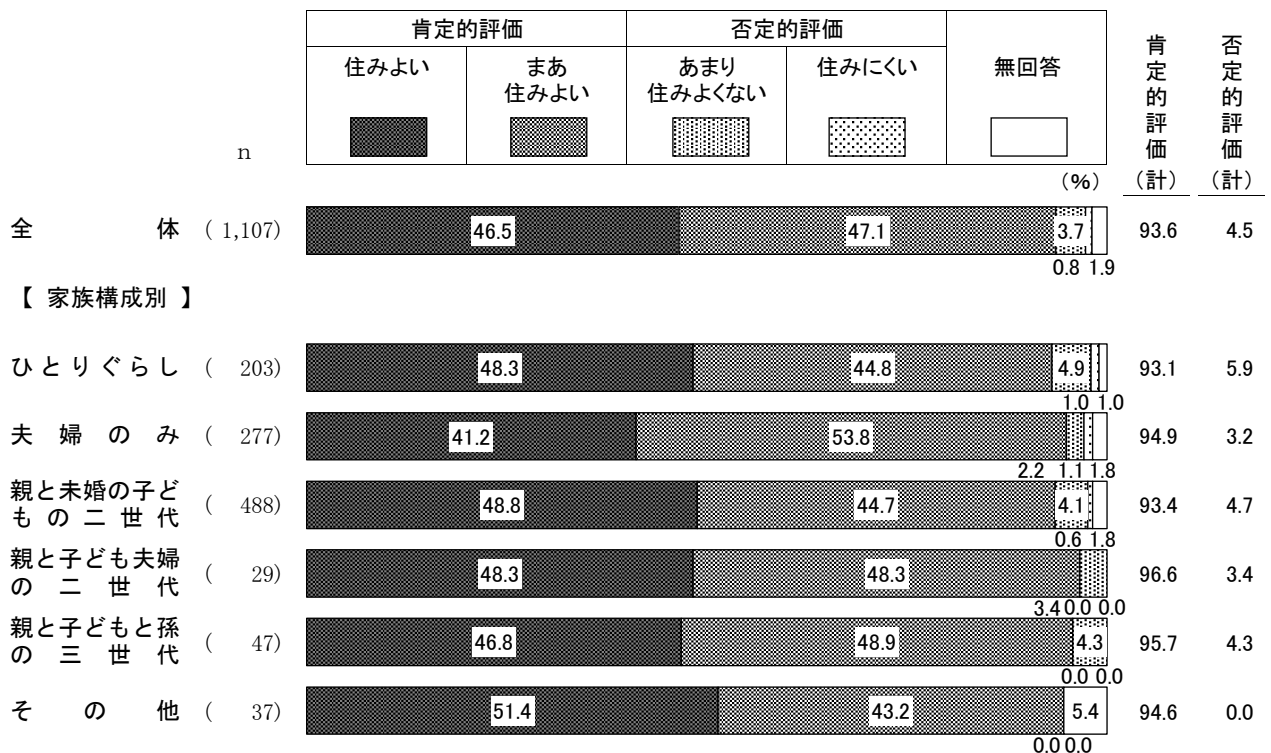
図 1-1-5 住みごこち－居住年数別



居住年数別にみると、『肯定的評価』はすべての居住年数で9割台となっている。

(図 1-1-5)

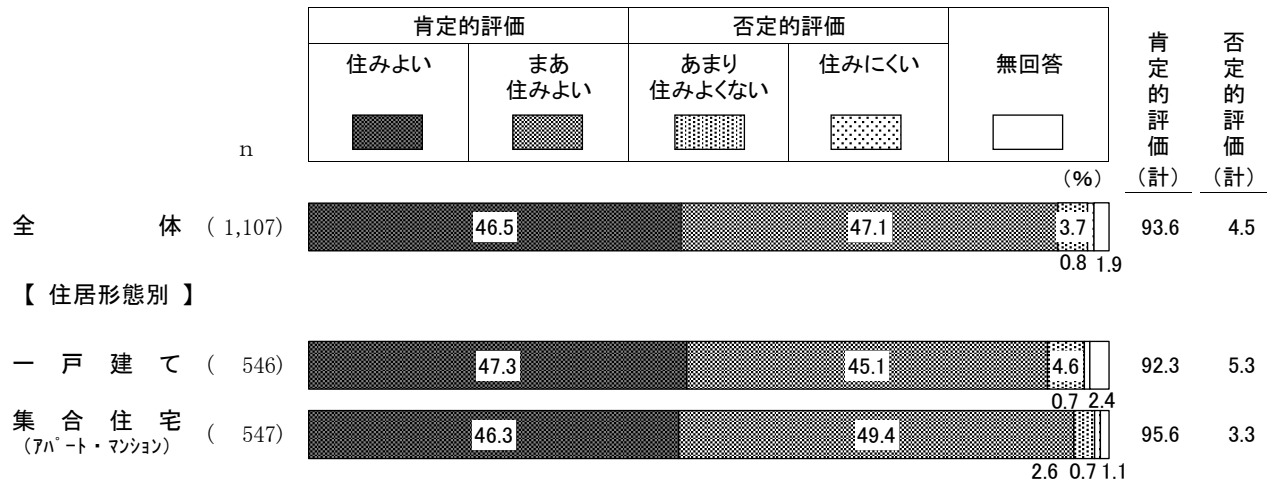
図 1-1-6 住みごこち－家族構成別



家族構成別にみると、『肯定的評価』はすべての家族構成で9割台となっている。

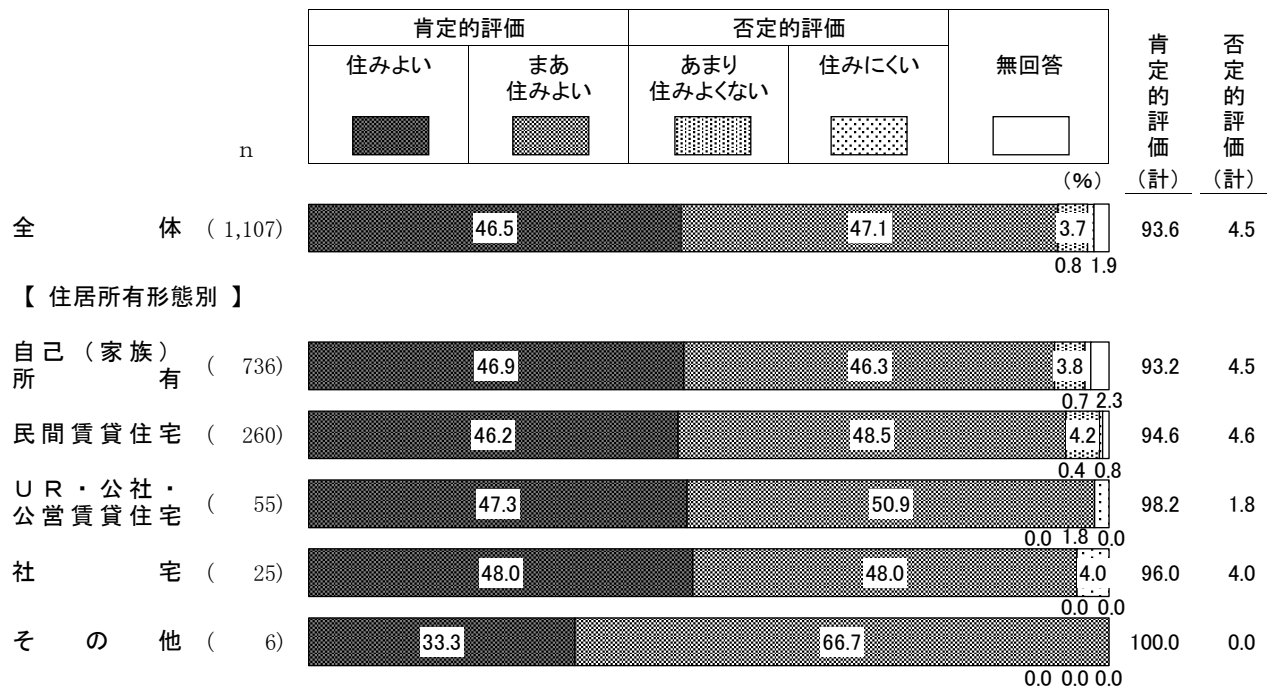
(図 1-1-6)

図 1-1-7 住みごころ－住居形態別



住居形態別にみると、『肯定的評価』は一戸建て、集合住宅（アパート、マンション）ともに9割台となっている。（図1-1-7）

図 1-1-8 住みごころ－住居所有形態別



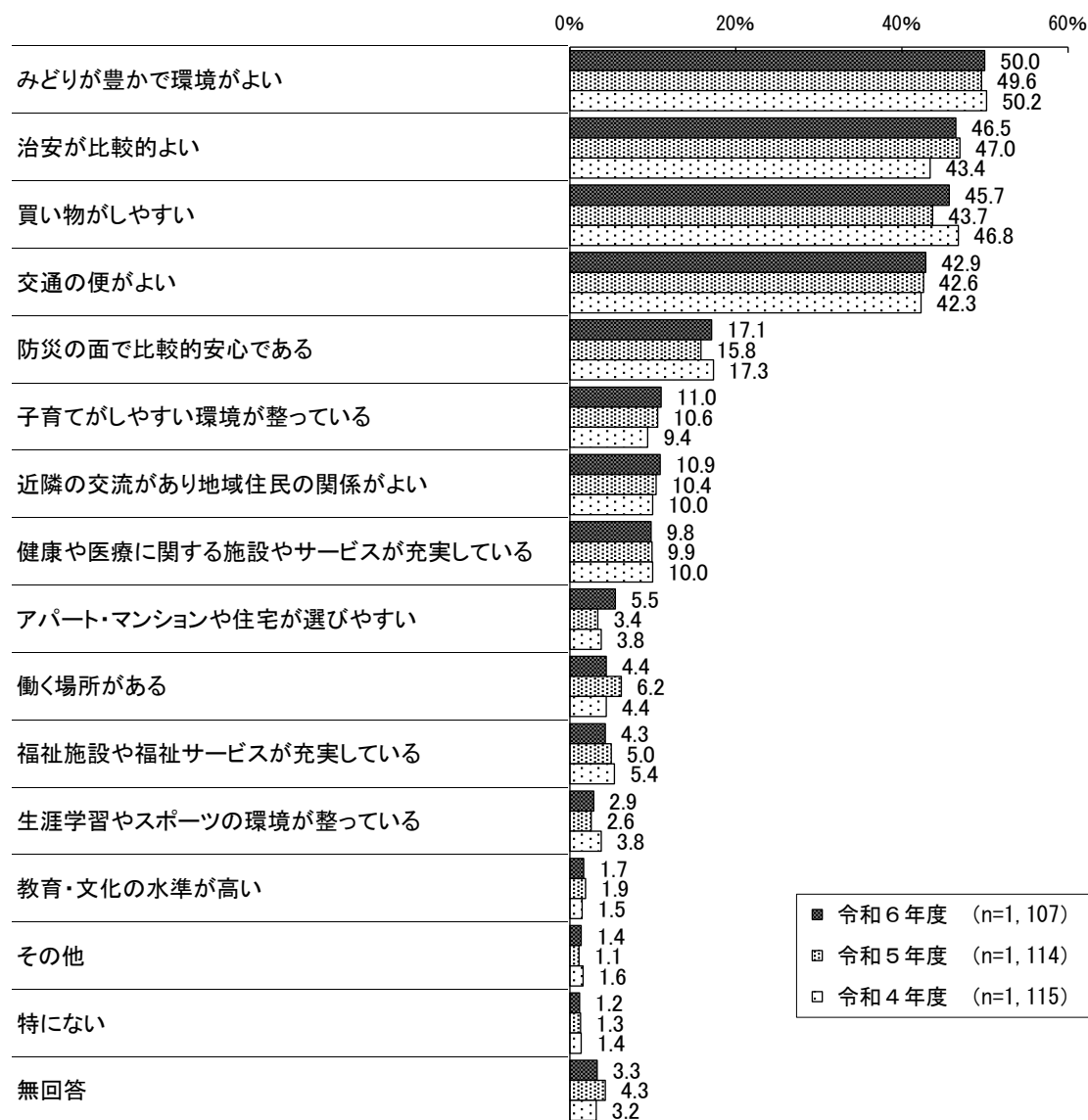
住居所有形態別にみると、『肯定的評価』はすべての住居所有形態で9割台となっている。（図1-1-8）

（２）練馬区が住みよいと感じるところ

◇「みどりが豊かで環境がよい」が５割

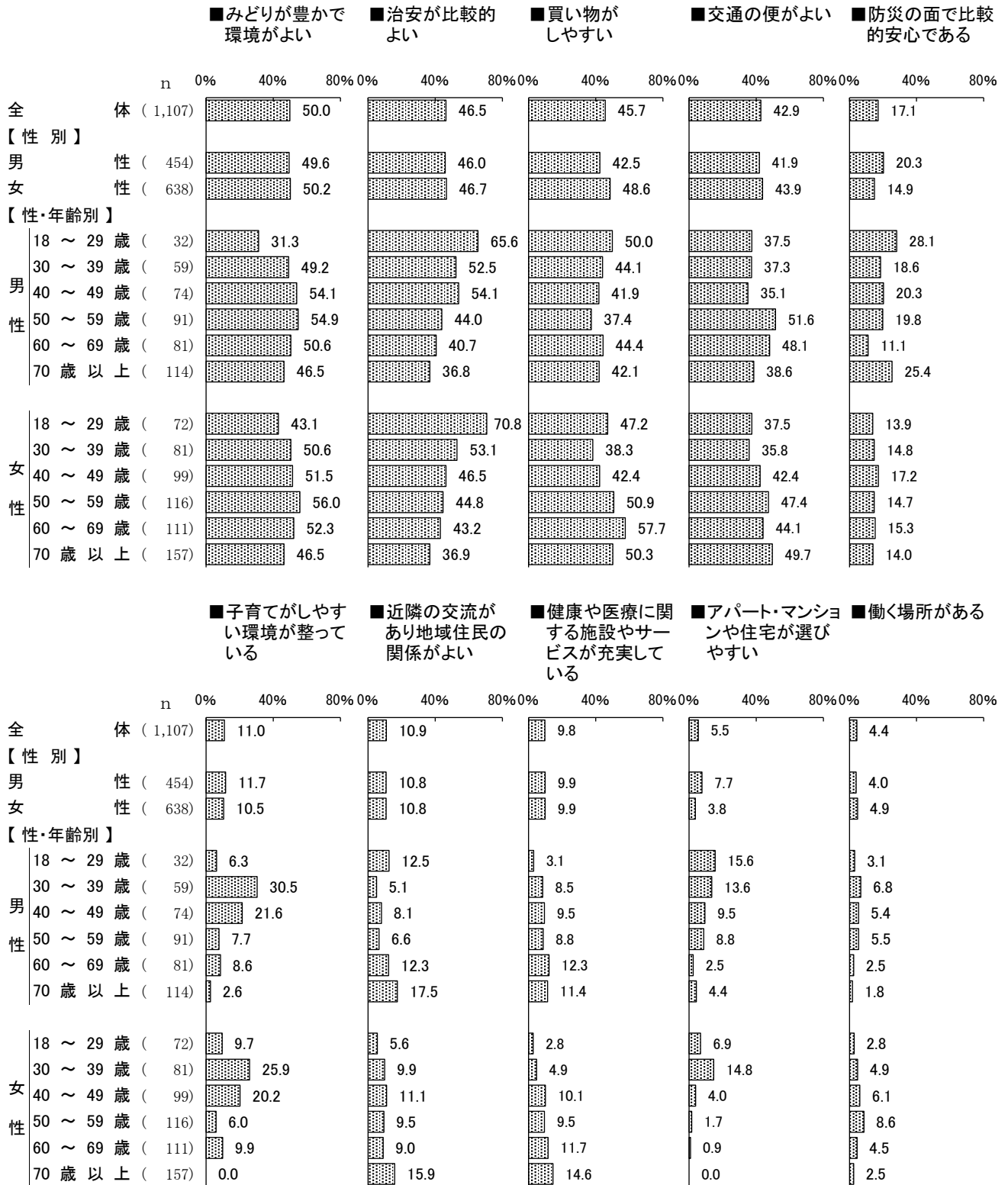
問２ あなたが、練馬区が住みよいと感じるところは、どんなところですか。
（○は３つまで）

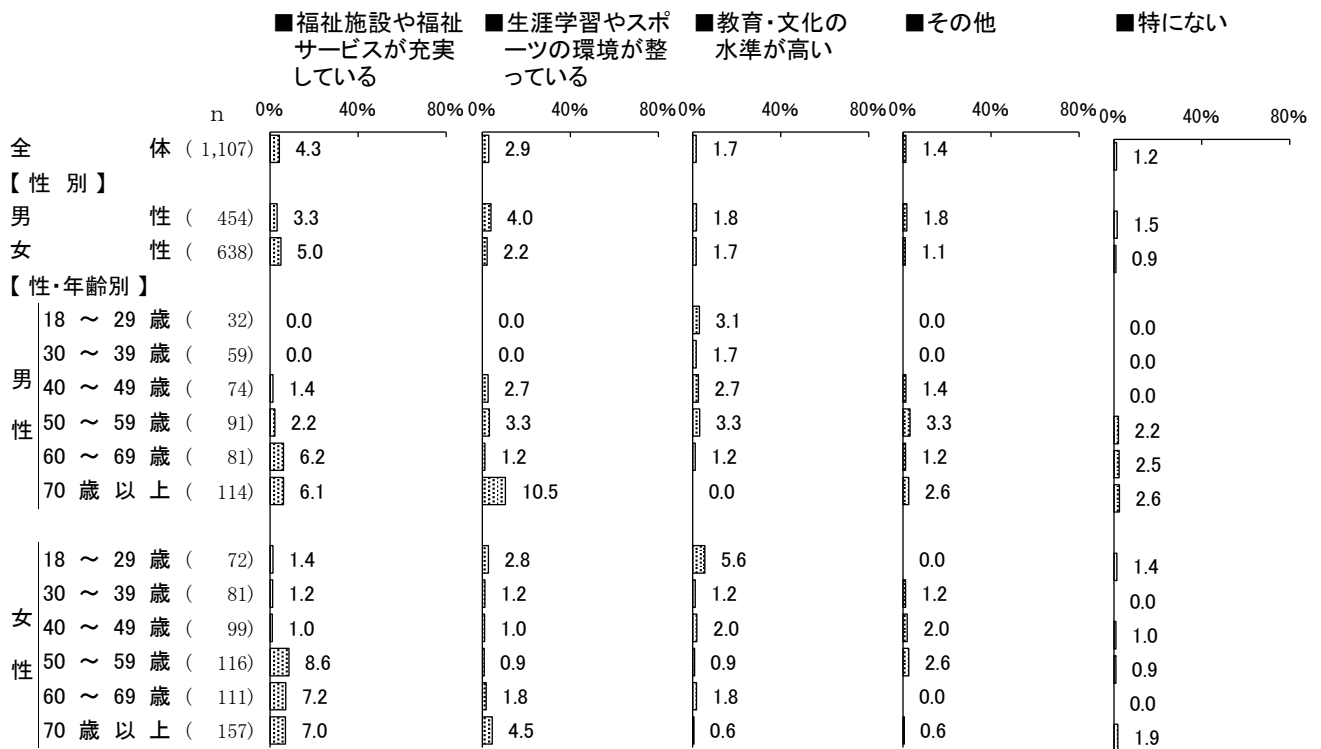
図１－２－１ 練馬区が住みよいと感じるところ



練馬区が住みよいと感じるところを聞いたところ、「みどりが豊かで環境がよい」（50.0％）が５割と最も多く、次いで「治安が比較的よい」（46.5％）、「買い物がしやすい」（45.7％）、「交通の便がよい」（42.9％）、「防災の面で比較的安心である」（17.1％）などの順となっている。（図１－２－１）

図 1-2-2 練馬区が住みよいと感じるところ－性別／性・年齢別

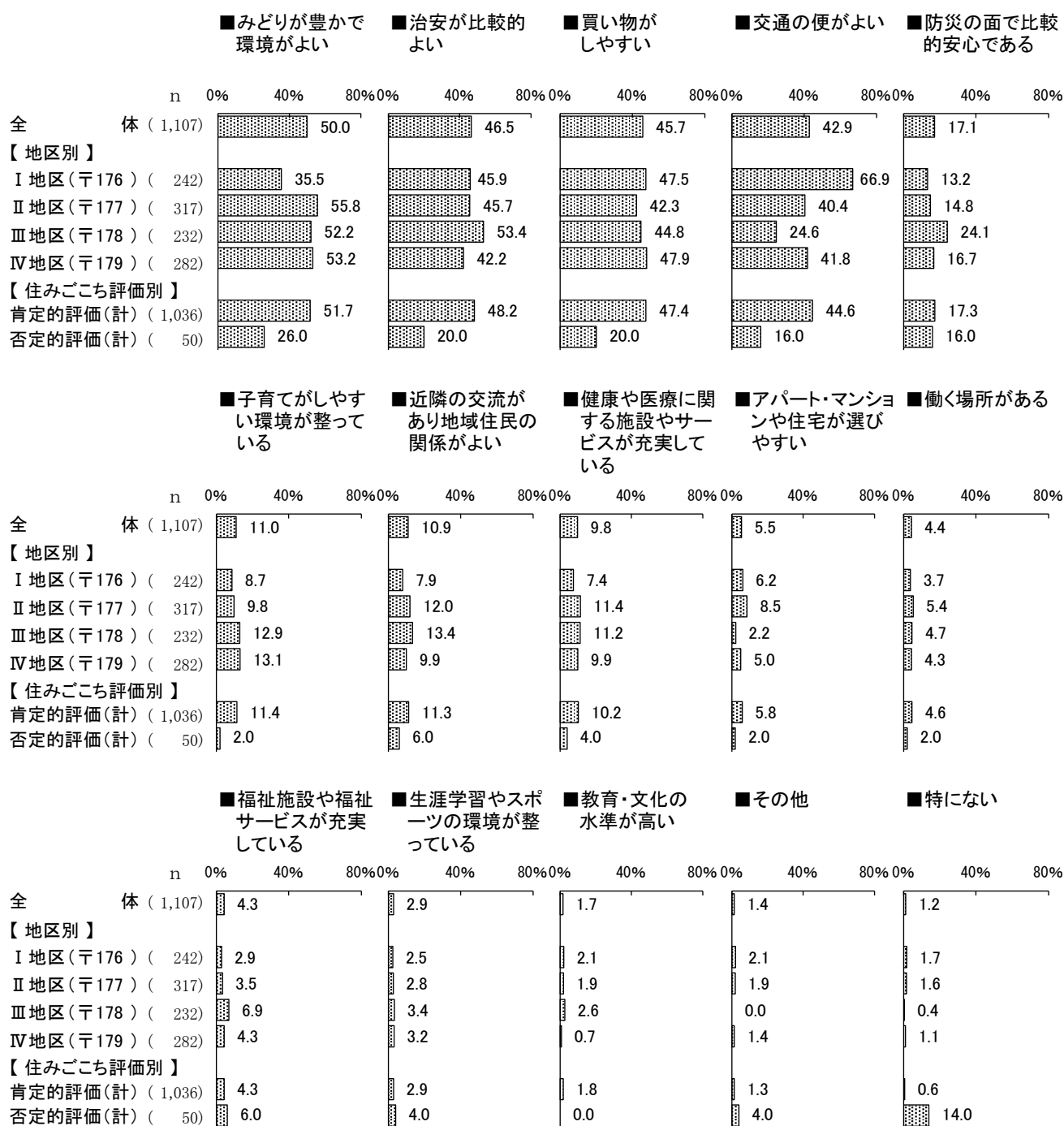




性別にみると、「防災の面で比較的安心である」は男性の方が女性より5.4ポイント、「アパート・マンションや住宅が選びやすい」は3.9ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「買い物がしやすい」は女性の方が男性より6.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「みどりが豊かで環境がよい」は男性40～49歳、男性50～59歳、女性50～59歳で5割半ばと多くなっている。「治安が比較的よい」は女性18～29歳で約7割、男性18～29歳で6割半ばと多くなっている。「買い物がしやすい」は女性60～69歳で6割近くと多くなっている。（図1－2－2）

図 1-2-3 練馬区が住みよいと感じるところ—地区別／住みごち評価別



地区別にみると、「みどりが豊かで環境がよい」はII地区(〒177)で5割半ばと多くなっている。「治安が比較的よい」はIII地区(〒178)で5割を超えて多くなっている。「交通の便がよい」はI地区(〒176)で7割近くと多くなっている。

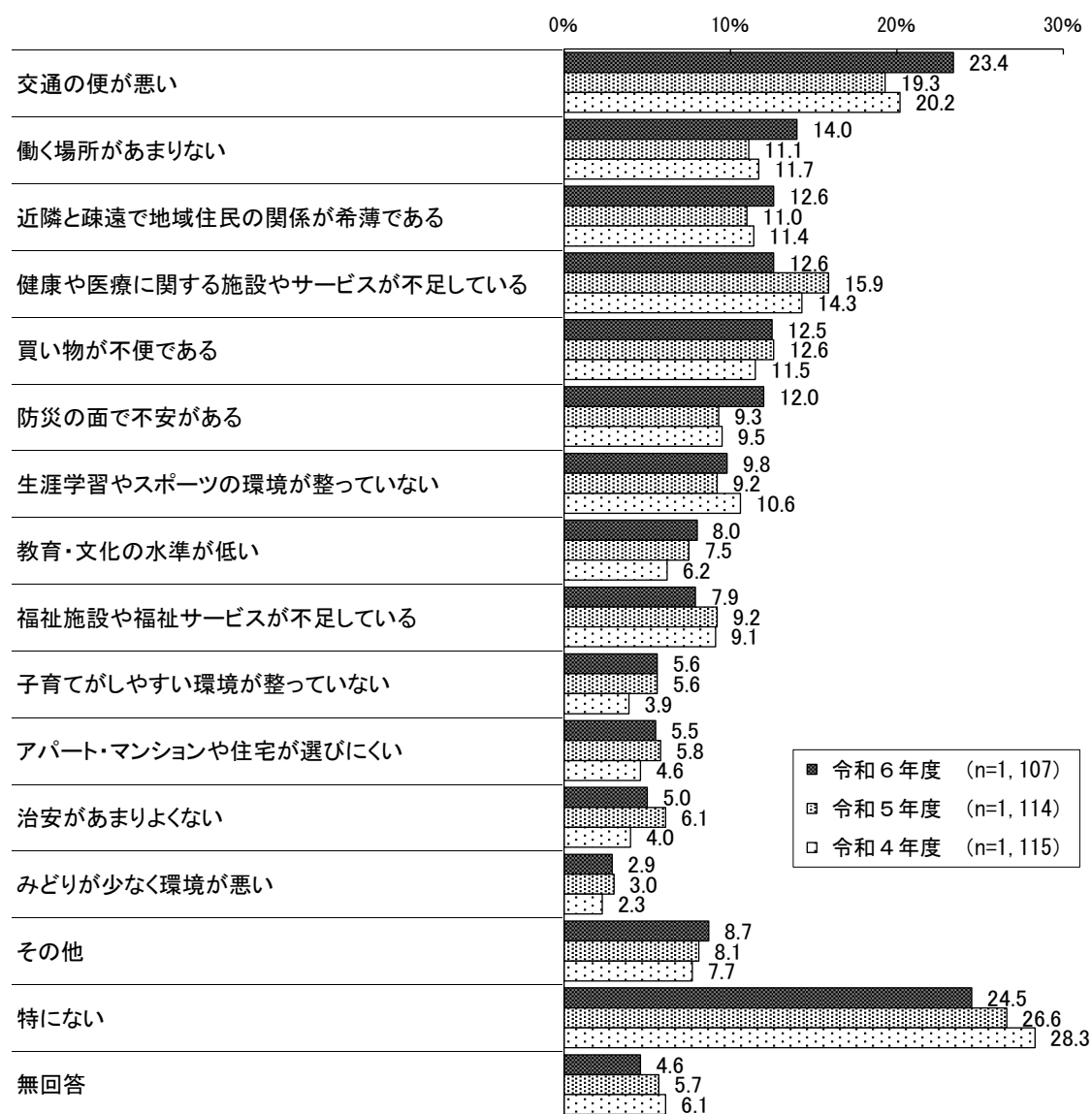
住みごち評価別にみると、ほとんどの項目で『肯定的評価』の方が『否定的評価』より高くなっており、「交通の便がよい」が28.6ポイント、「治安が比較的よい」が28.2ポイント、「買い物がしやすい」で27.4ポイント、「みどりが豊かで環境がよい」で25.7ポイント、それぞれ高くなっている。(図1-2-3)

（３）練馬区が住みにくいと感じるところ

◇「交通の便が悪い」が２割を超える

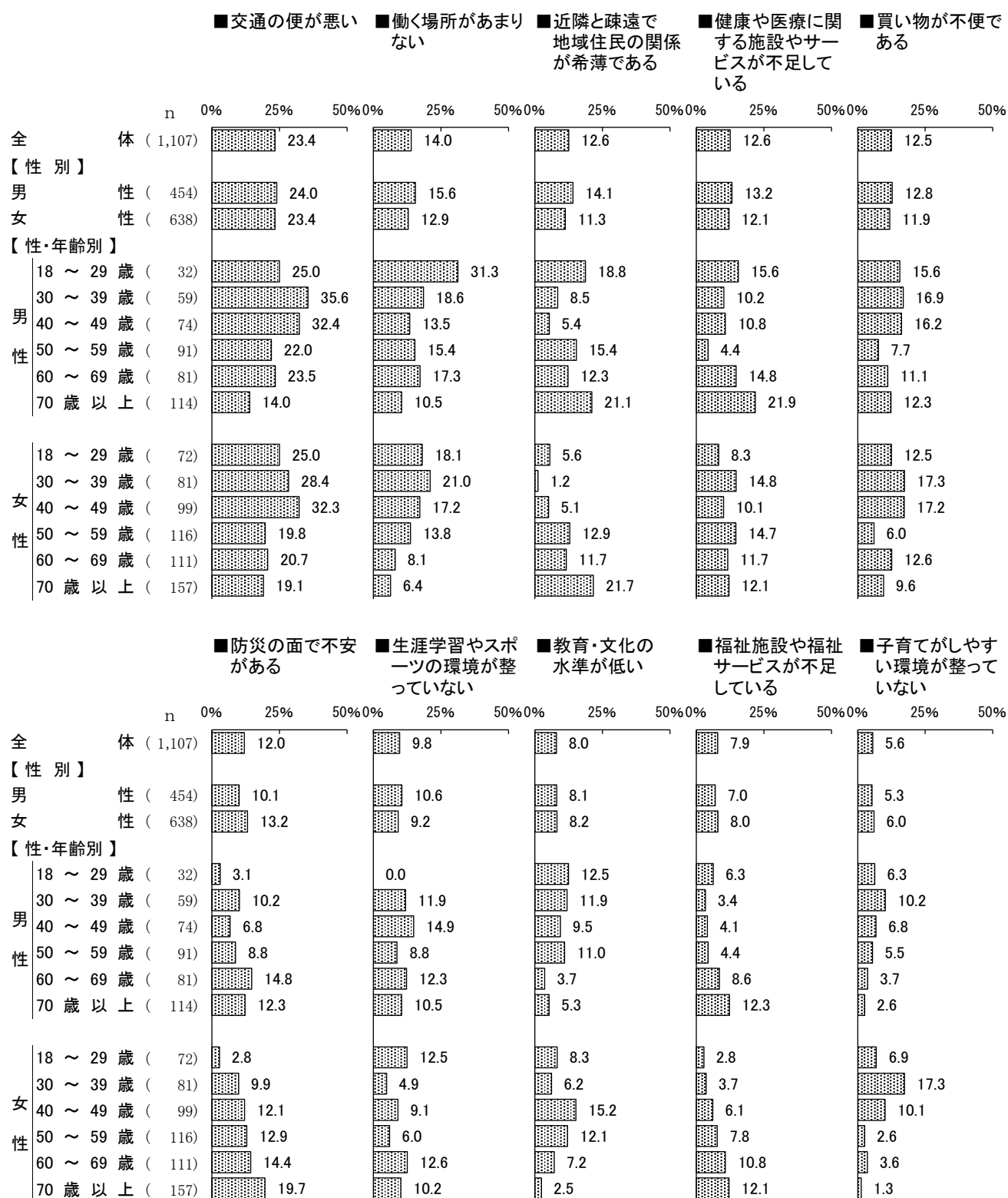
問３ では反対に、あなたが、練馬区が住みにくいと感じるところは、どんなところですか。（○は３つまで）

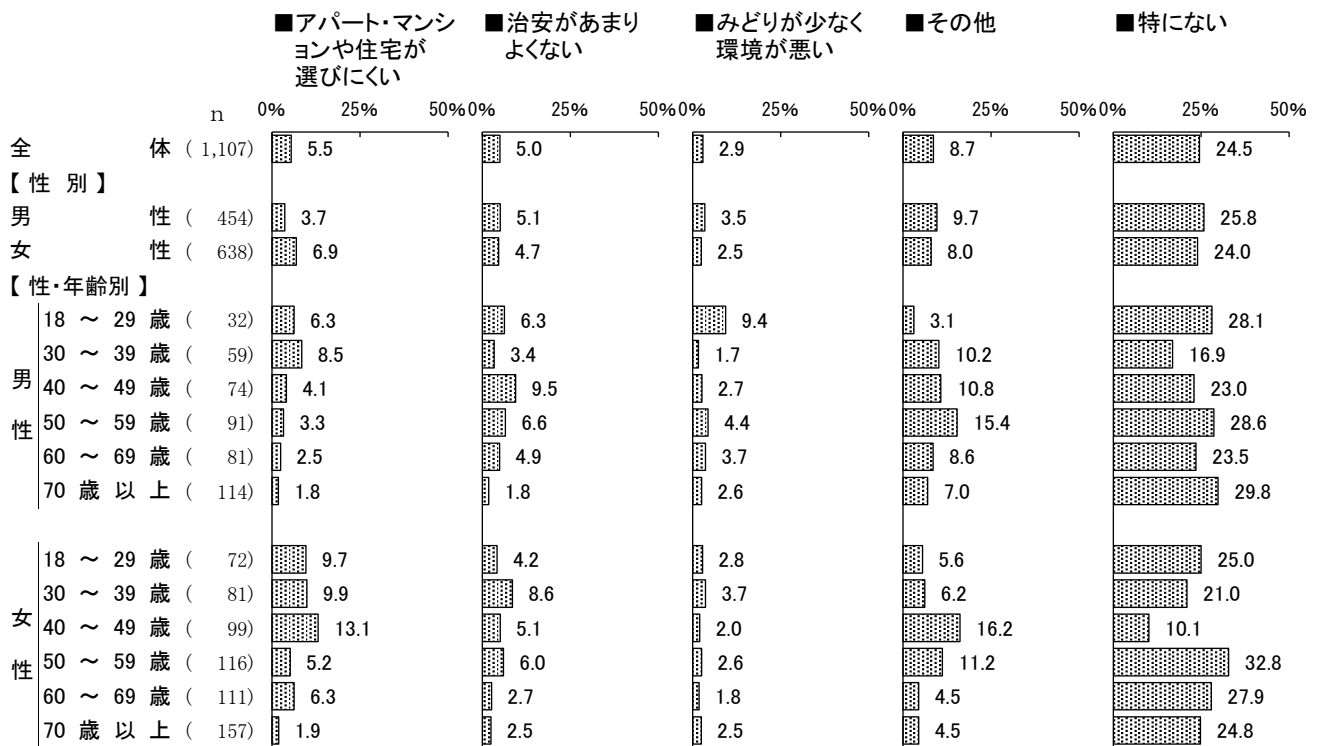
図１－３－１ 練馬区が住みにくいと感じるところ



練馬区が住みにくいと感じるところを聞いたところ、「交通の便が悪い」（23.4%）が２割を超えて最も多く、次いで「働く場所があまりない」（14.0%）、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」、「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」（ともに12.6%）、「買い物が不便である」（12.5%）などの順となっている。（図１－３－１）

図 1-3-2 練馬区が住みにくいと感じるところ－性別／性・年齢別

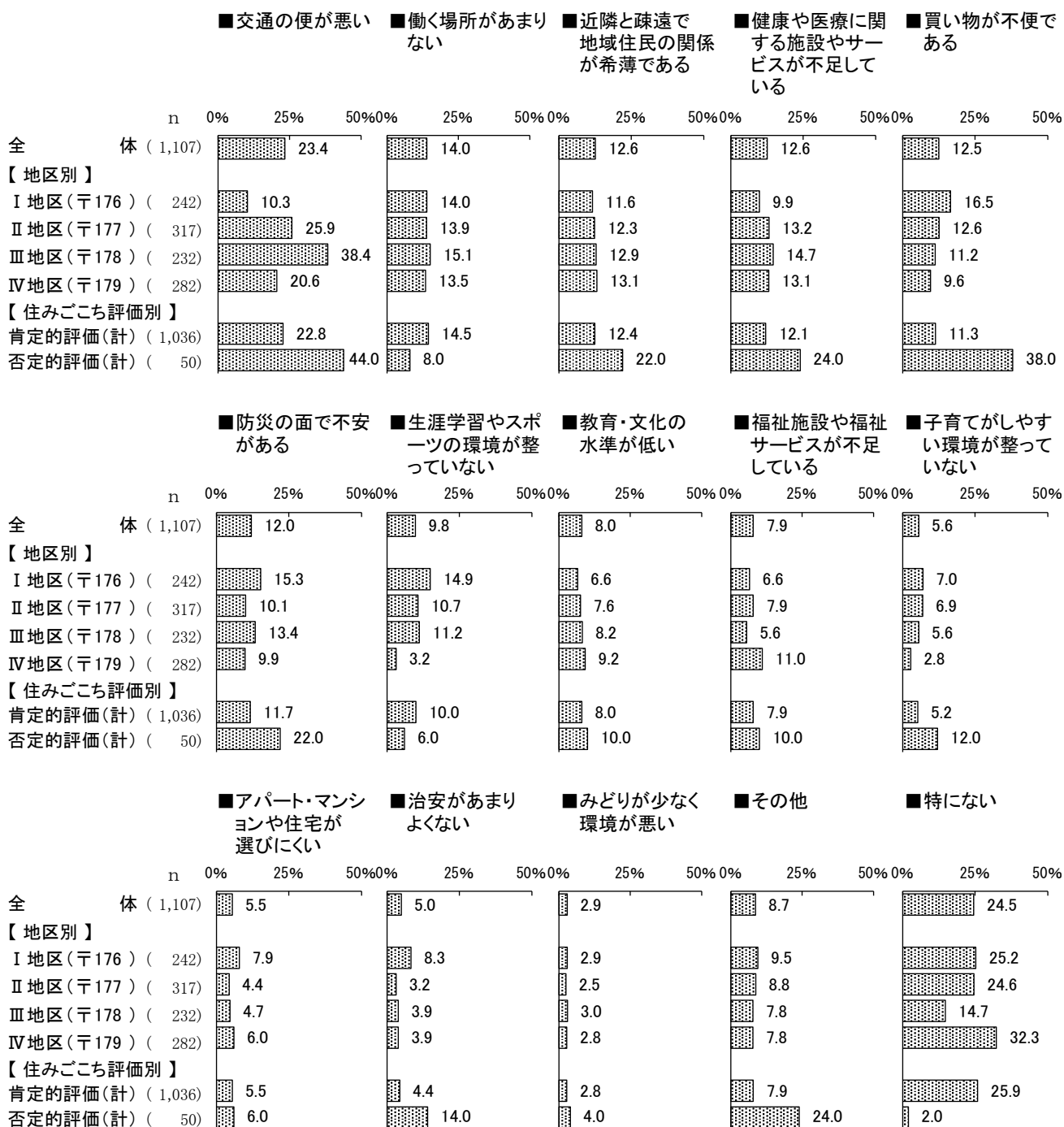




性別にみると、「アパート・マンションや住宅が選びにくい」は女性の方が男性より3.2ポイント、「防災の面で不安がある」は3.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」は男性の方が女性より2.8ポイント、「働く場所があまりない」は2.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「交通の便が悪い」は男性30～39歳で3割半ば、女性40～49歳で3割を超えて多くなっている。「働く場所があまりない」は男性18～29歳で3割を超えて多くなっている。「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」は男性70歳以上、女性70歳以上で2割を超えて多くなっている。(図1-3-2)

図 1-3-3 練馬区が住みにくいと感じるところ—地区別／住みごち評価別



地区別にみると、「交通の便が悪い」はIII地区(〒178)で4割近くと多くなっている。

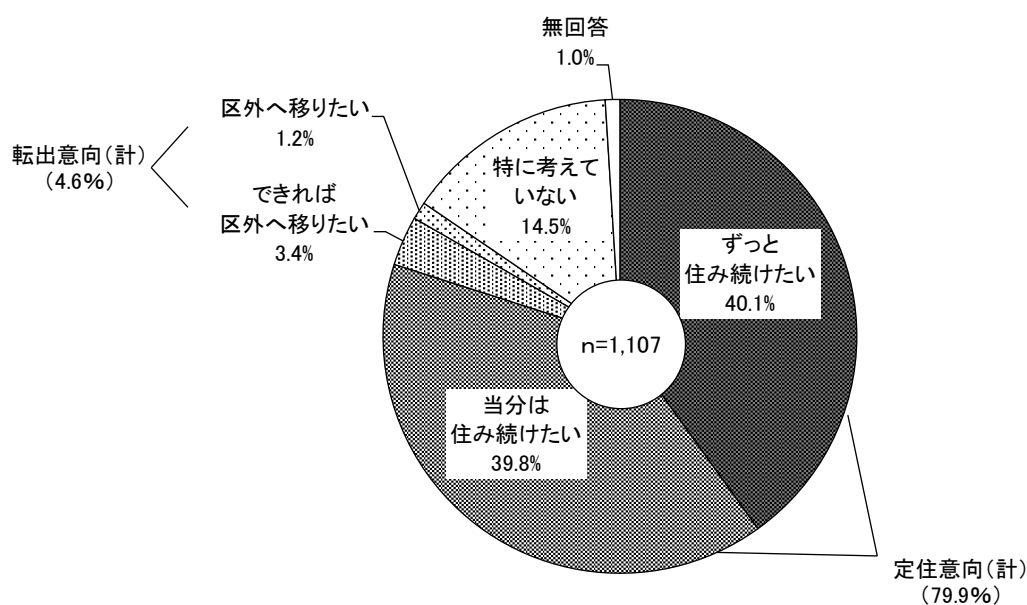
住みごち評価別にみると、ほとんどの項目で『否定的評価』の方が『肯定的評価』より高くなっており、「買い物が不便である」で26.7ポイント、「交通の便が悪い」で21.2ポイント、「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」で11.9ポイント、「防災の面で不安がある」で10.3ポイント、それぞれ高くなっている。(図1-3-3)

（４）定住意向

◇『定住意向』が８割

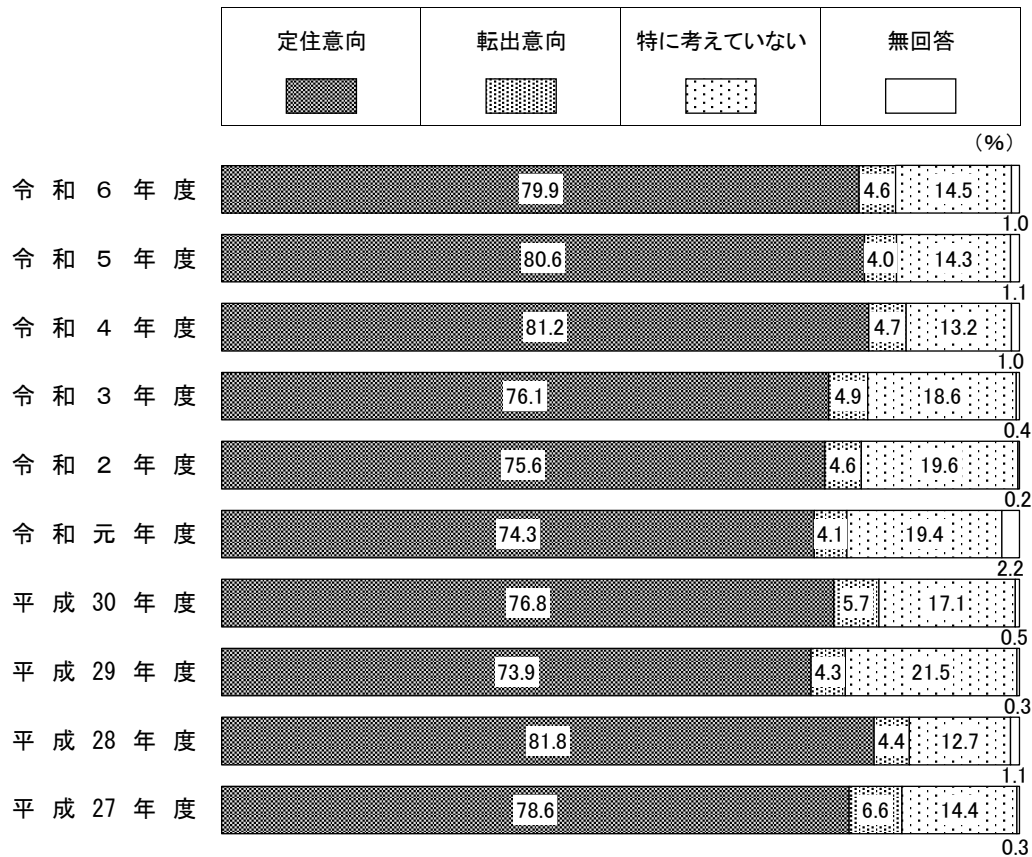
問４ あなたは、これからも引き続き練馬区に住みたいと思いますか。（○は１つ）

図１－４－１ 定住意向



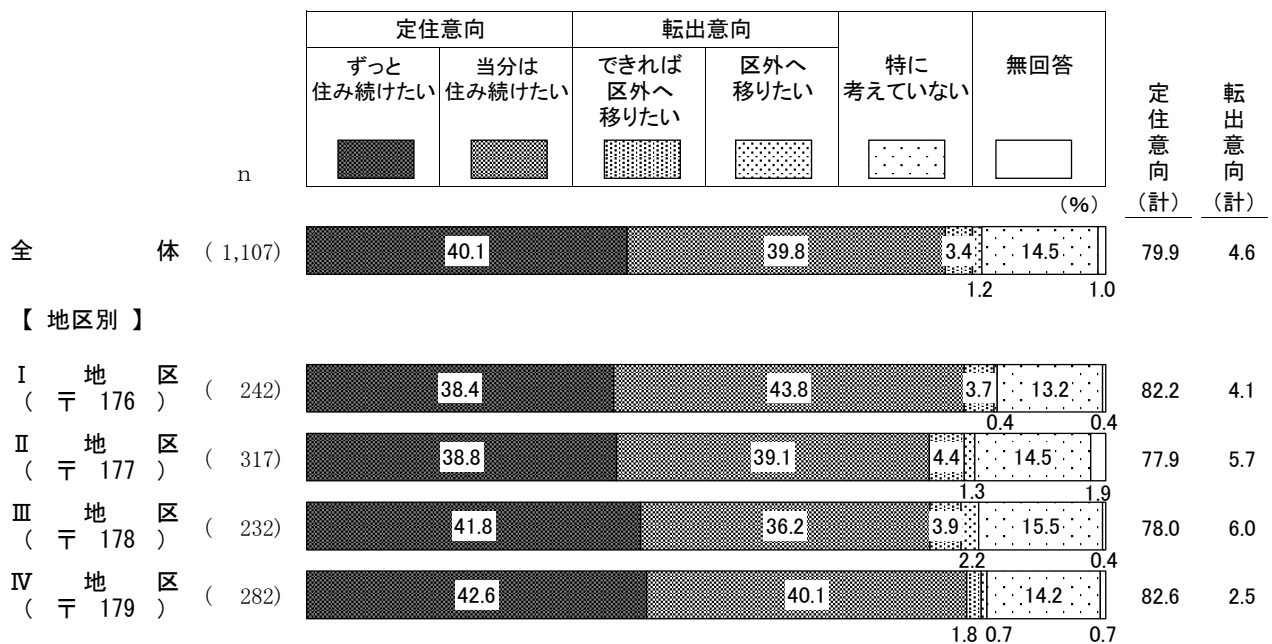
これからも引き続き練馬区に住みたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」（40.1%）と「当分は住み続けたい」（39.8%）を合わせた『定住意向』（79.9%）が８割となっている。一方、「できれば区外へ移りたい」（3.4%）と「区外へ移りたい」（1.2%）を合わせた『転出意向』（4.6%）はわずかとなっている。（図１－４－１）

図 1－4－2 定住意向－過年度比較



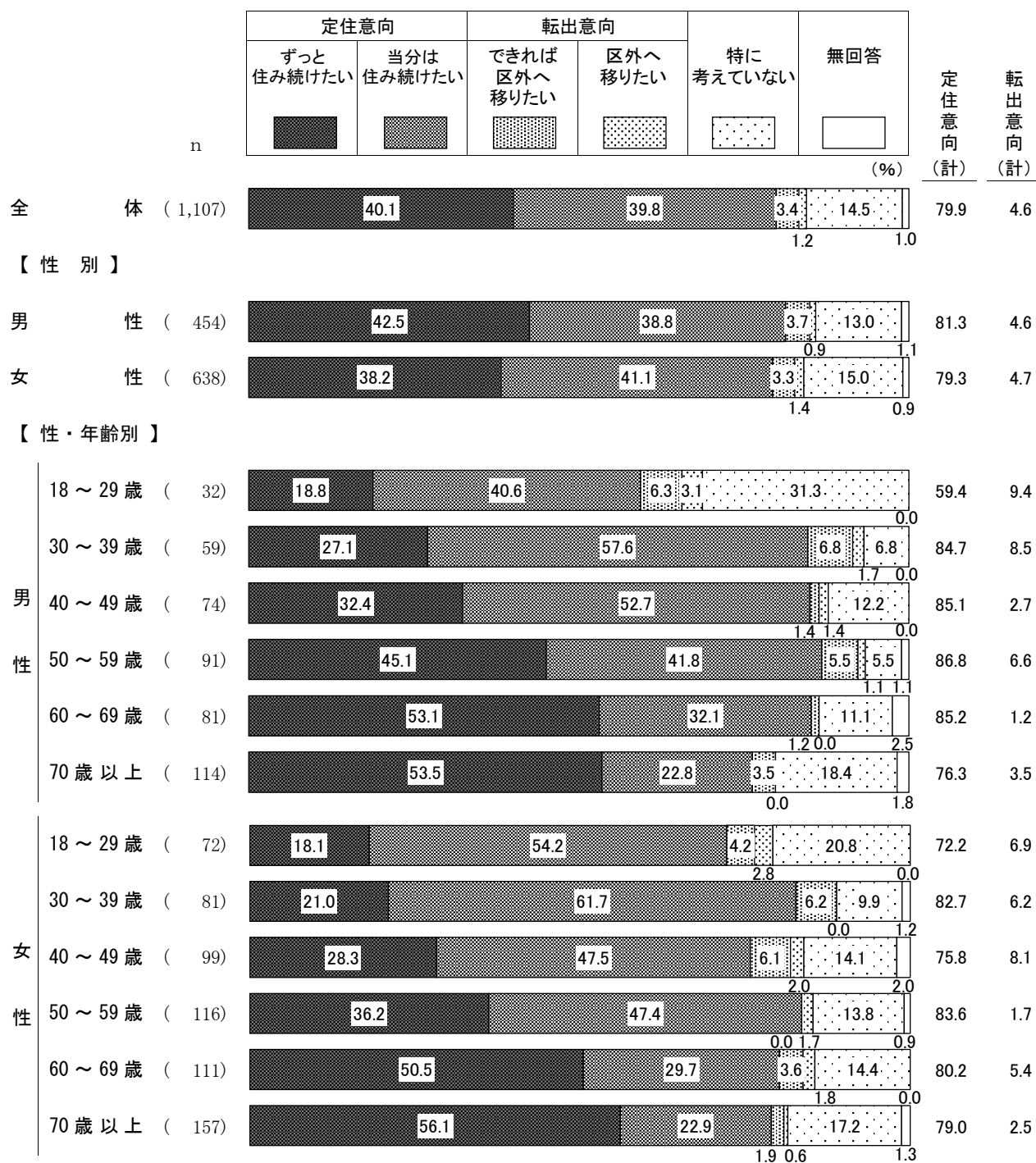
過去の調査と比較すると、『定住意向』は前回調査（令和 5 年度）と大きな傾向の違いはみられない。（図 1－4－2）

図 1－4－3 定住意向－地区別



地区別にみると、『定住意向』は I 地区（㐂176）、IV地区（㐂179）で 8 割を超えて多くなっている。（図 1－4－3）

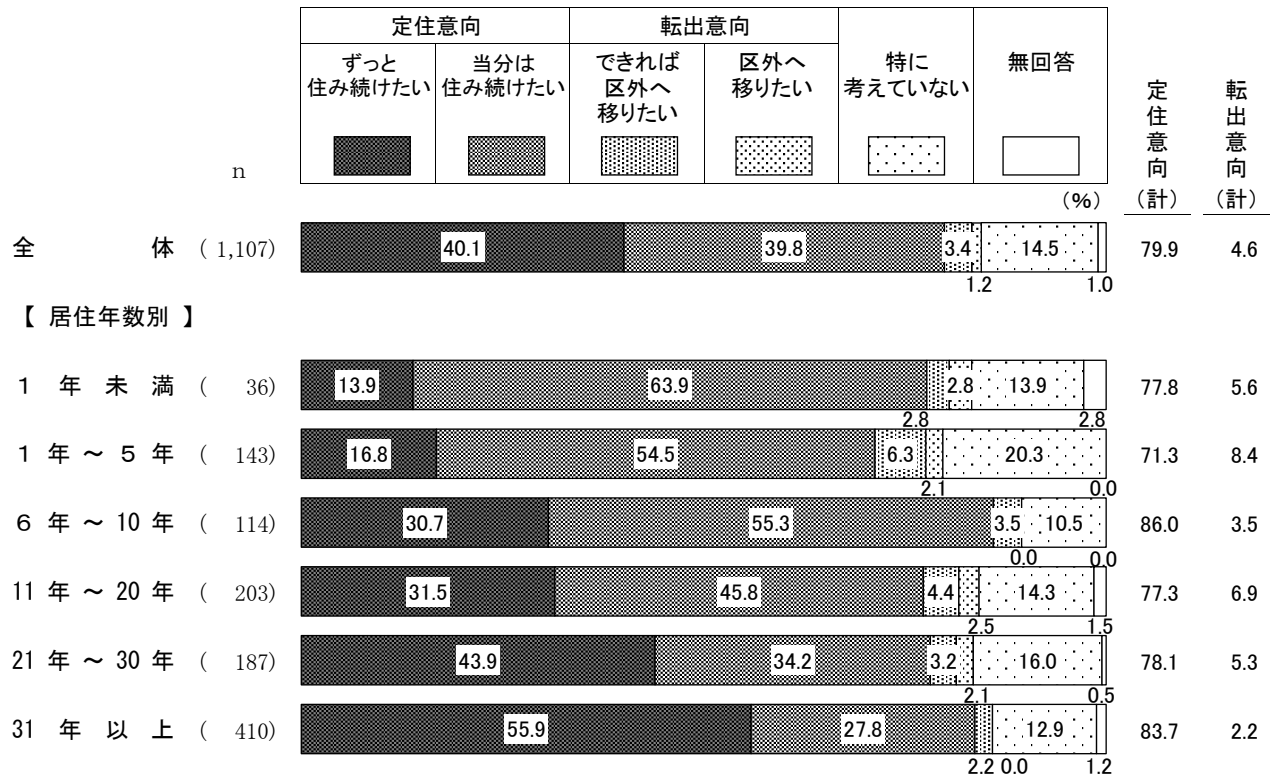
図 1 - 4 - 4 定住意向－性別／性・年齢別



性別にみると、『定住意向』に大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、「ずっと住み続けたい」は男女ともに年代が上がるほど割合が多くなっており、女性70歳以上で5割半ば、男性60～69歳、男性70歳以上で5割を超えている。『定住意向』は男性50～59歳で9割近くと多くなっている。(図 1 - 4 - 4)

図 1 - 4 - 5 定住意向－居住年数別



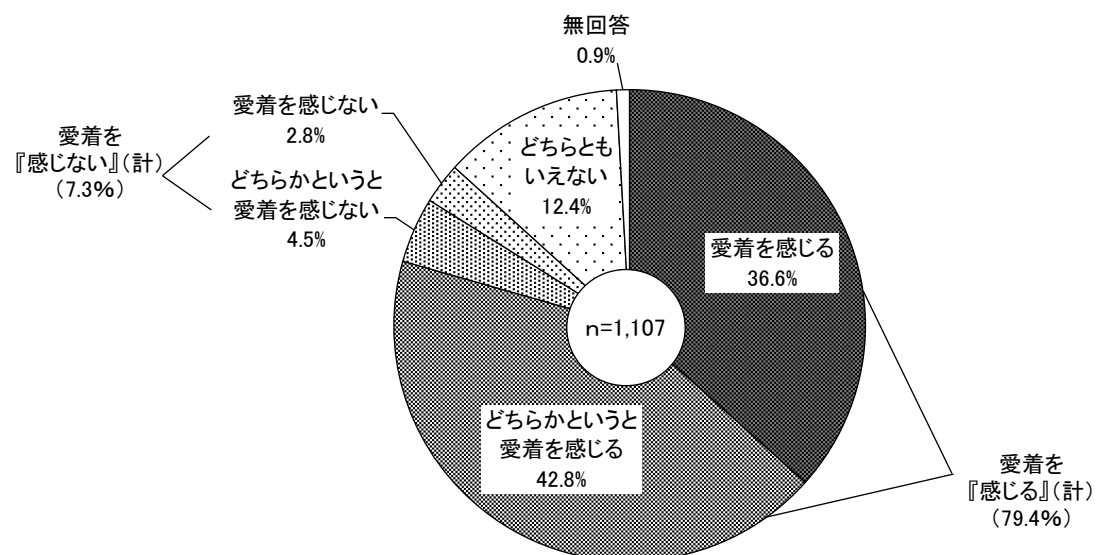
居住年数別にみると、「ずっと住み続けたい」は居住年数が長くなるほど割合が多くなっており、31年以上居住している人で5割半ばとなっている。（図 1 - 4 - 5）

（５）練馬区への愛着

◇愛着を『感じる』が約８割

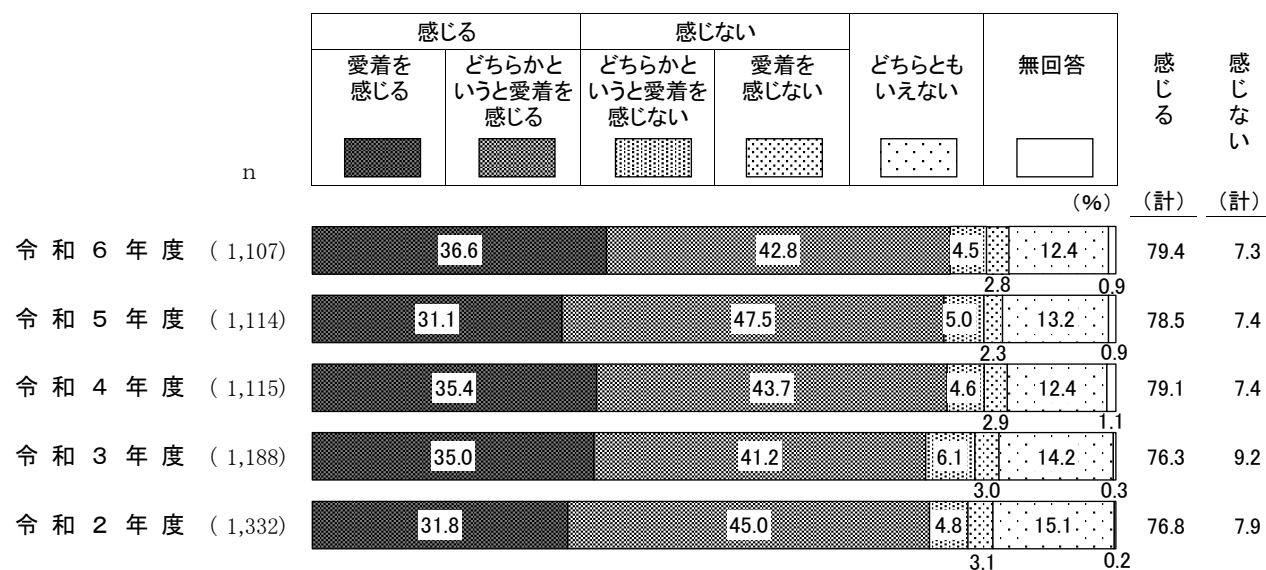
問５ あなたは、練馬区に愛着を感じますか。（○は１つ）

図１－５－１ 練馬区への愛着



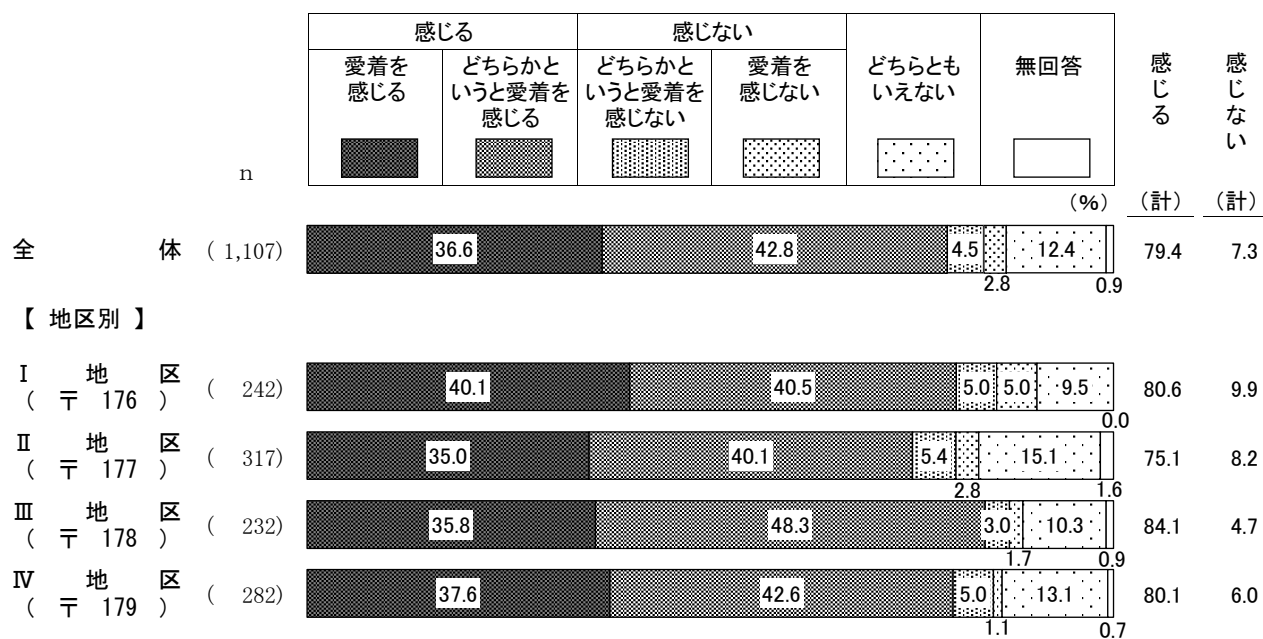
練馬区に愛着を感じるか聞いたところ、「愛着を感じる」（36.6％）と「どちらかというとき愛着を感じる」（42.8％）を合わせた、愛着を『感じる』（79.4％）が約８割となっている。一方、「どちらかというとき愛着を感じない」（4.5％）と「愛着を感じない」（2.8％）を合わせた、愛着を『感じる』（7.3％）は１割近くとなっている。（図１－５－１）

図１－５－２ 練馬区への愛着一過年度比較



過去の調査と比較すると、愛着を『感じる』は前回調査（令和５年度）と大きな傾向の違いはみられない。（図１－５－２）

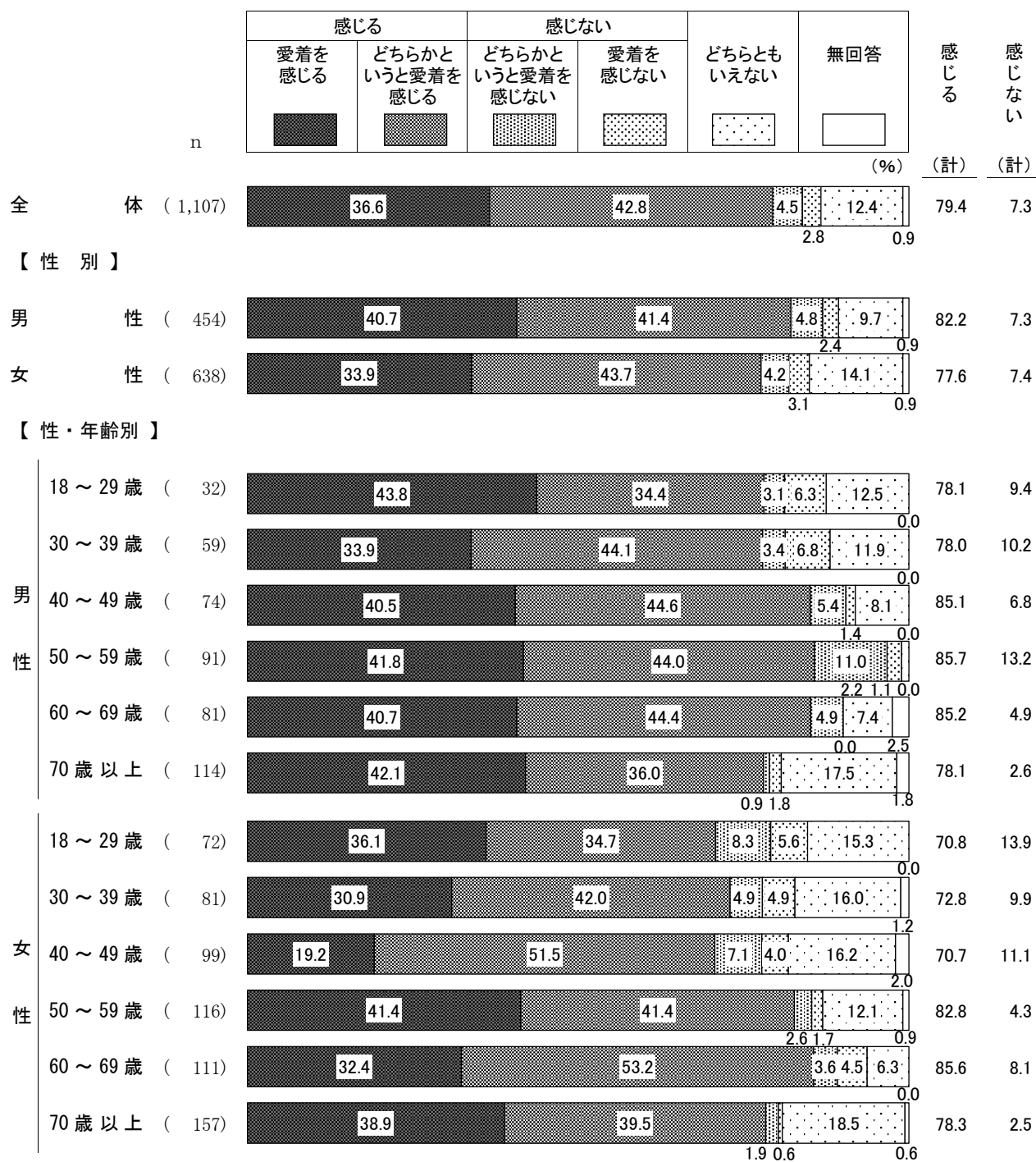
図 1－5－3 練馬区への愛着－地区別



地区別にみると、愛着を『感じる』はⅢ地区（㐂178）で8割半ばと多くなっている。

（図 1－5－3）

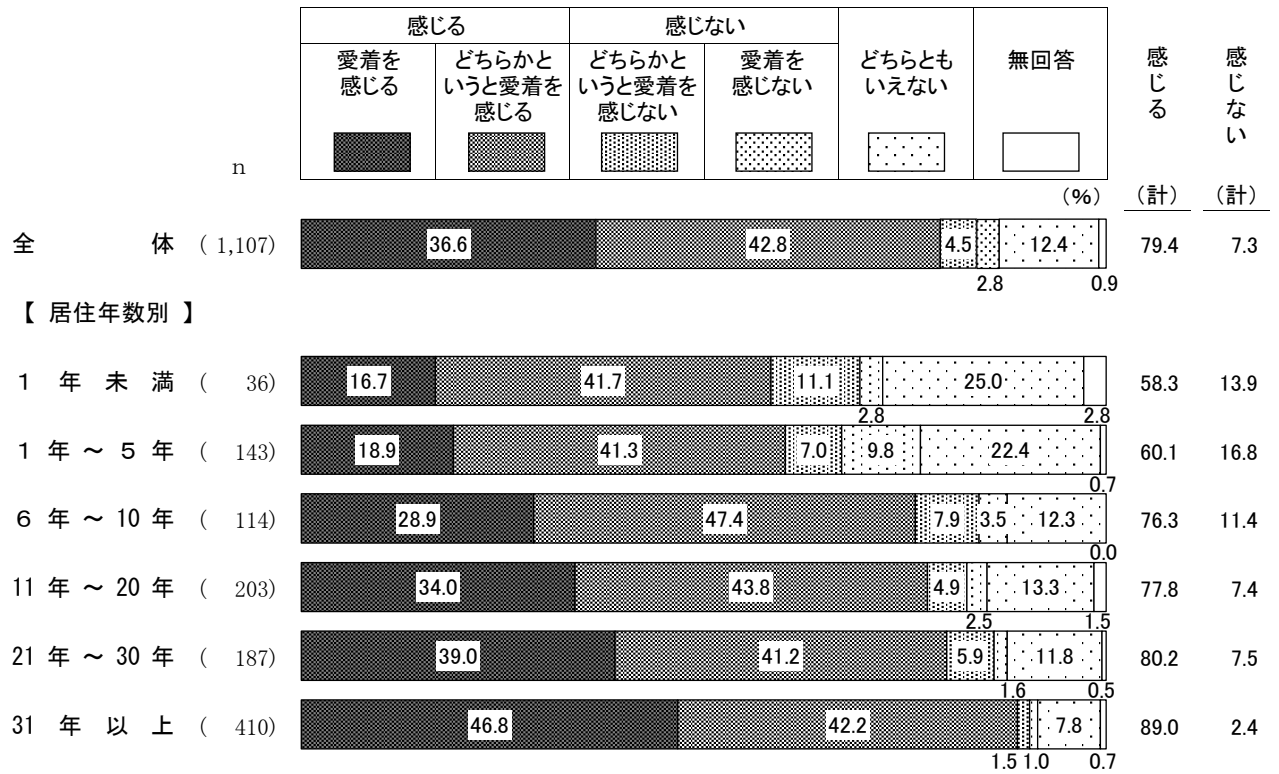
図 1-5-4 練馬区への愛着—性別／性・年齢別



性別にみると、愛着を『感じる』は男性の方が女性より4.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、愛着を『感じる』は男性40～49歳、男性50～59歳、男性60～69歳、女性60～69歳で8割半ばと多くなっている。(図1-5-4)

図 1－5－5 練馬区への愛着－居住年数別



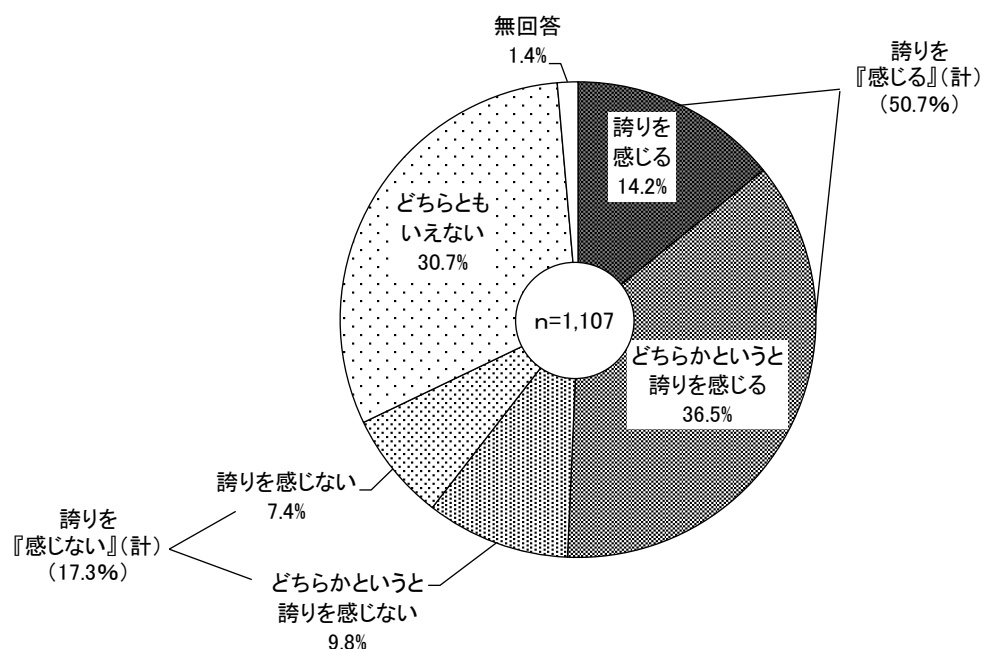
居住年数別にみると、愛着を『感じる』は居住年数が長くなるほど割合が多くなっており、31年以上居住している人で約9割となっている。（図 1－5－5）

（６）練馬区に対する誇り

◇誇りを『感じる』が約５割

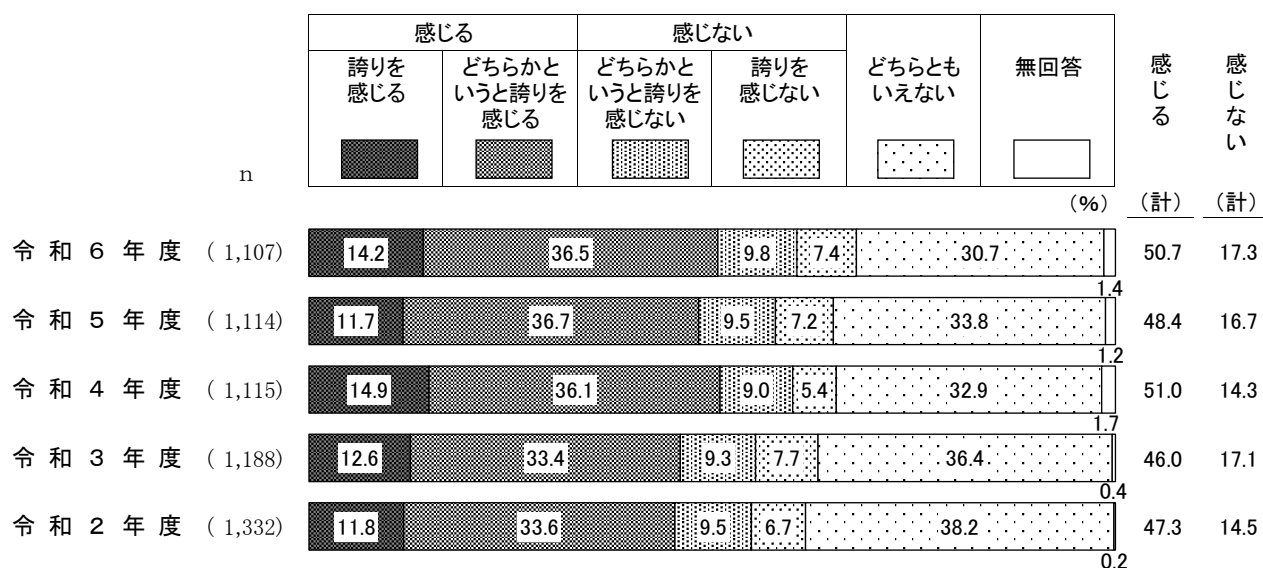
問６ あなたは、練馬区に誇りを感じますか。（○は１つ）

図１－６－１ 練馬区に対する誇り



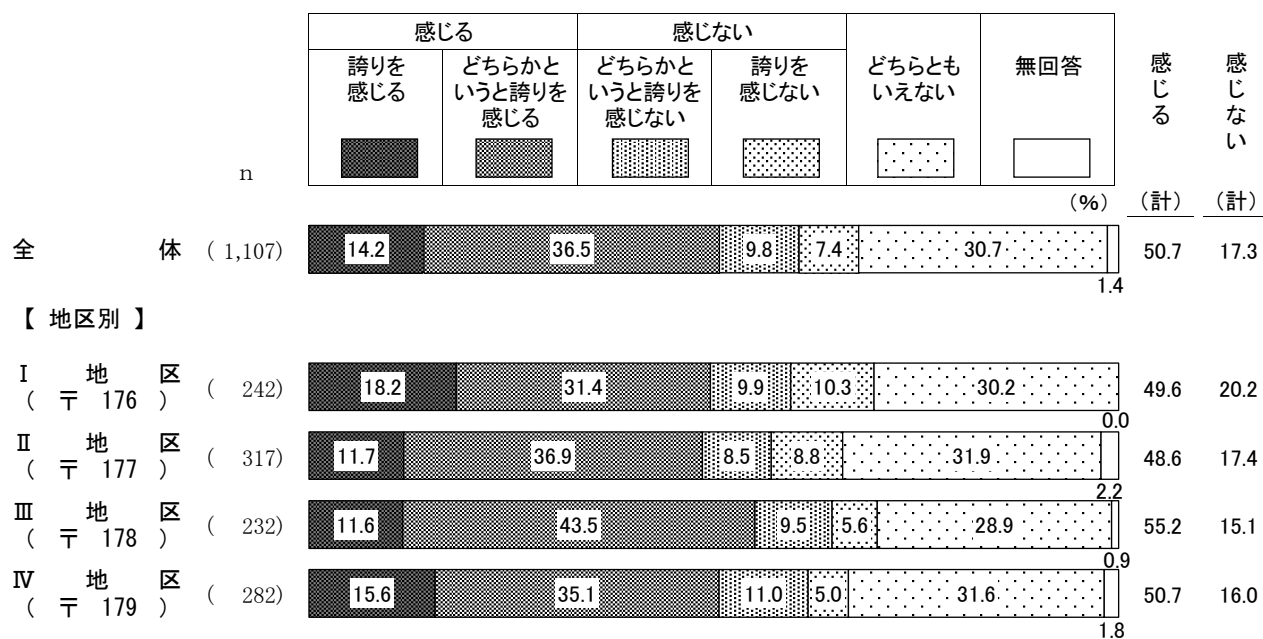
練馬区に誇りを感じるか聞いたところ、「誇りを感じる」（14.2％）と「どちらかという
誇りを感じる」（36.5％）を合わせた、誇りを『感じる』（50.7％）が約５割となっている。
一方、「どちらかというと誇りを感じない」（9.8％）と「誇りを感じない」（7.4％）を合わ
せた、誇りを『感じない』（17.3％）は２割近くとなっている。（図１－６－１）

図１－６－２ 練馬区に対する誇り一過年度比較



過去の調査と比較すると、誇りを『感じる』は前回調査（令和５年度）より2.3ポイント増加している。（図１－６－２）

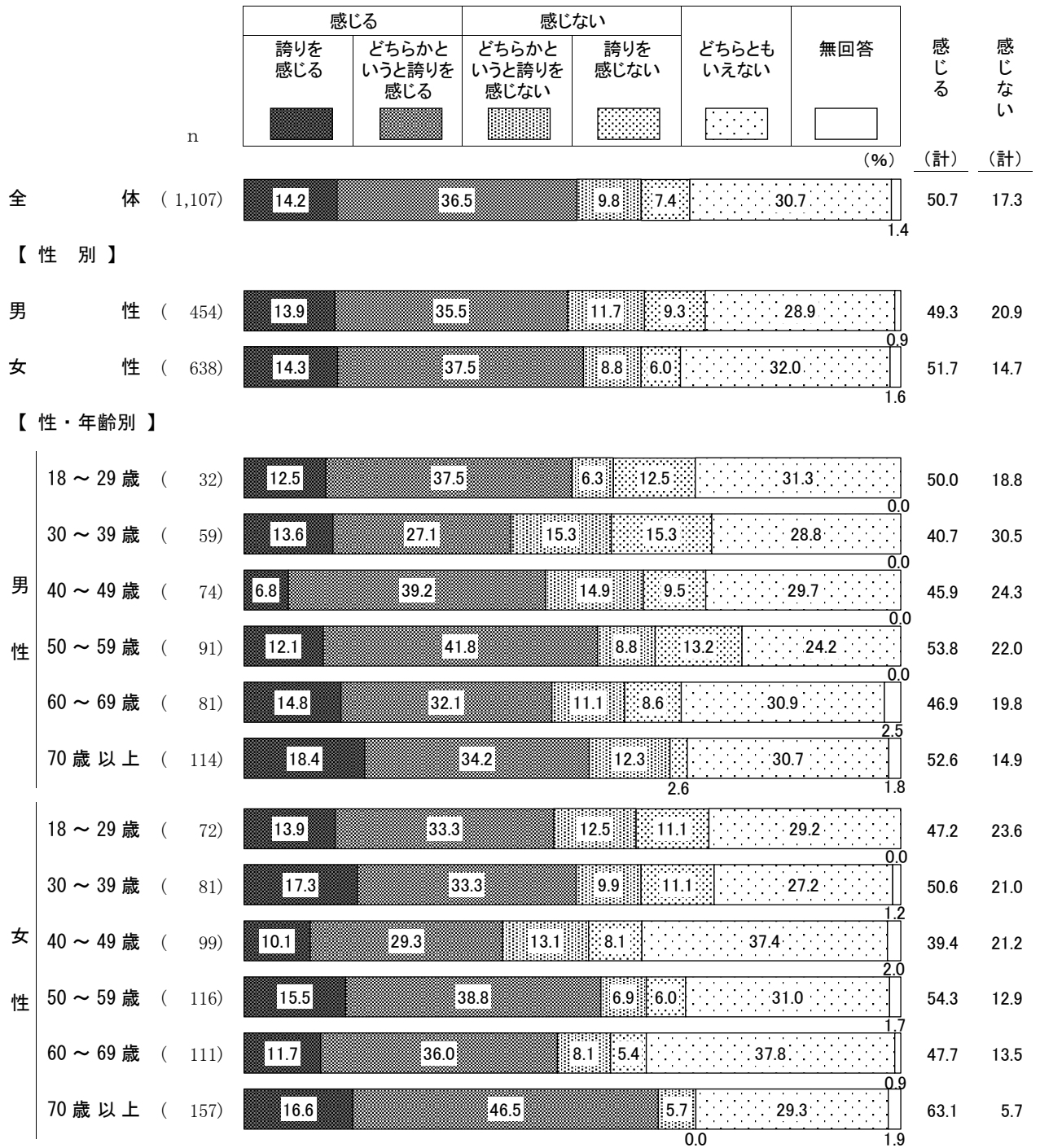
図 1 - 6 - 3 練馬区に対する誇り－地区別



地区別にみると、誇りを『感じる』はⅢ地区（㊦178）で5割半ばと多くなっている。

（図 1 - 6 - 3）

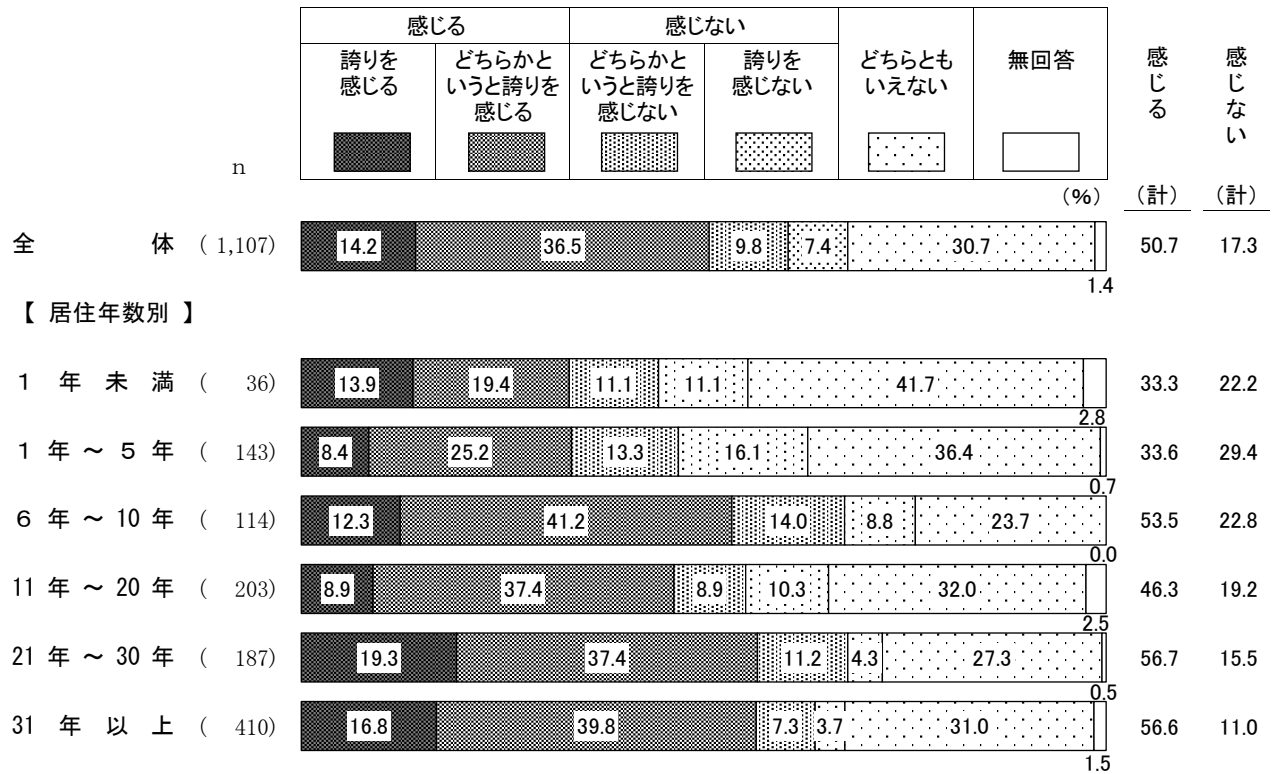
図 1-6-4 練馬区に対する誇り－性別／性・年齢別



性別にみると、誇りを『感じる』は女性の方が男性より2.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、誇りを『感じる』は女性70歳以上で6割を超えて多くなっている。一方、誇りを『感じない』は男性30～39歳で約3割と多くなっている。(図1-6-4)

図 1－6－5 練馬区に対する誇り－居住年数別



居住年数別にみると、誇りを『感じる』はおおむね居住年数が長くなるほど割合が多くなっており、21年～30年居住している人、31年以上居住している人で6割近くとなっている。

(図 1－6－5)

(7) 施策の満足度と必要性

◇満足度の高い施策は「健康づくりの推進」が8割

◇必要性の高い施策は「医療環境の充実」が8割半ば

問7 区は様々な施策を行っていますが、あなたは、次にあげる施策にどの程度満足していますか。

問10 これらの施策に関する今後の必要性について、どのように考えますか。

子ども・子育て	1 子育て支援 (保育所・学童クラブの充実、幼稚園の預かり保育、一時預かりや親子で交流できる場の拡充、子育ての相談をしやすい体制の整備など)
	2 学校教育 (学力の定着・向上、教員の質の向上、教育環境の整備、家庭や地域と連携した教育の推進、支援が必要な子どもたちへの取り組みの充実など)
	3 青少年の健全育成 (子ども向け講座・行事、社会環境の浄化活動、遊び場の確保、青少年館など)
福祉・医療・健康	4 高齢者福祉 (医療・介護等の連携による高齢者の生活支援、高齢者施設の整備、介護予防・介護サービスの充実など)
	5 障害者福祉 (生活状況に応じた地域生活支援の強化、家族支援、住まいの確保、就労支援など)
	6 医療環境の充実 (病床の確保、病院整備の促進、在宅療養ネットワークの構築など)
	7 地域福祉の推進 (地域における平常時の見守り、災害時の要援護者支援の充実、民生委員による福祉活動など)
	8 健康づくりの推進 (健康診査、がん検診、母子保健、健康相談、食育、感染症対策、精神保健など)
	9 生活の安定に向けた自立支援 (生活の相談や支援、生活保護など)
都市基盤整備	10 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 (都営大江戸線の延伸、都市計画道路の整備、西武新宿線の立体化、公共交通空白地域の改善など)
	11 災害に強い安全なまちづくり (建築物の耐震化・不燃化、無電柱化、木造住宅密集地域の改善、都市型水害対策の強化など)
	12 地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり (自主的な防災への取組支援、防犯・防火など)
	13 交通安全対策 (歩行者空間の確保、自転車対策など)
	14 駅周辺のまちづくり (駅へのアクセス道路、生活利便性の高い駅前空間、良好な景観の形成など)

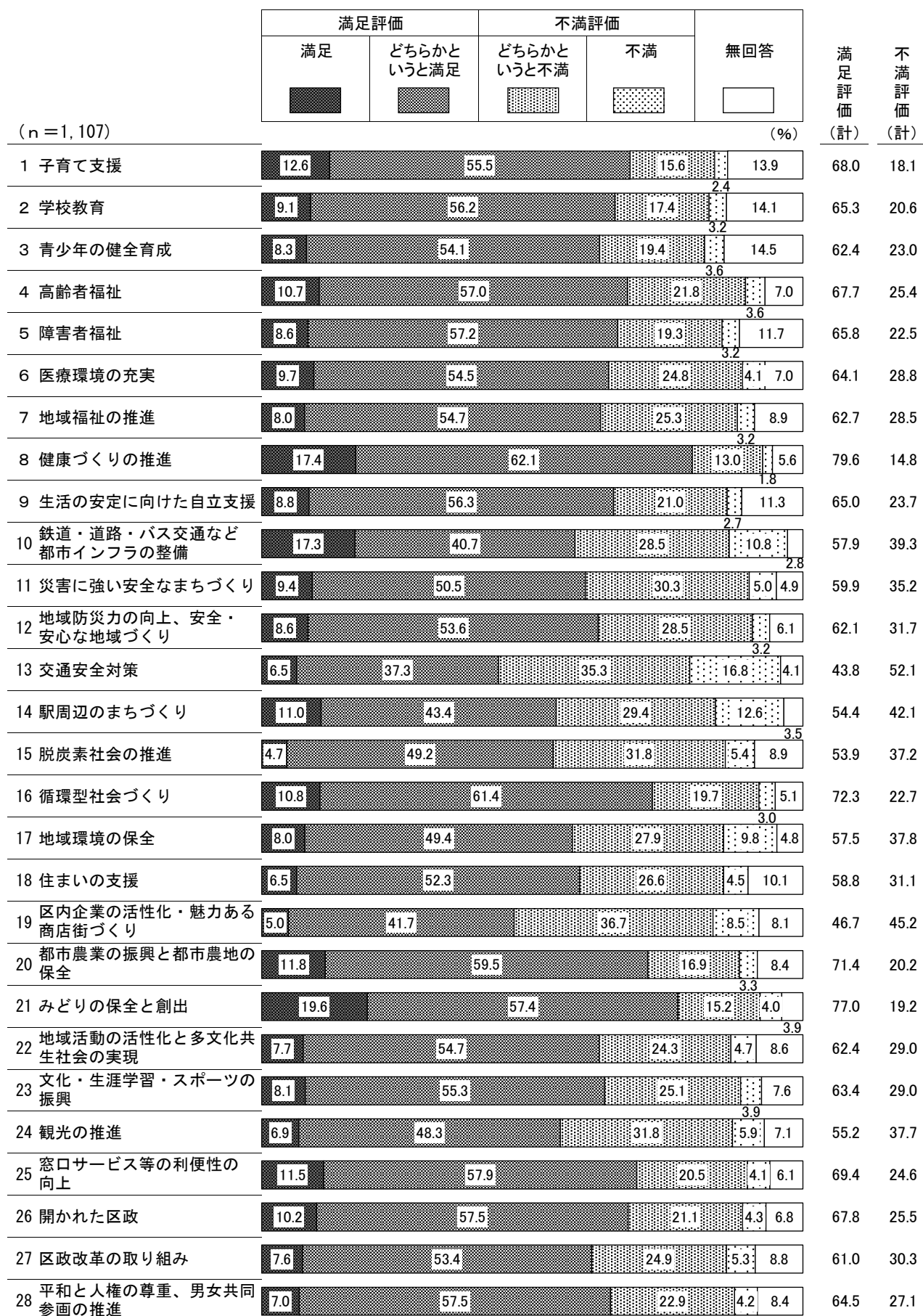
都市基盤整備（続き）	15 脱炭素社会の推進 (地球温暖化対策、省エネ設備・再エネ設備の導入支援など)
	16 循環型社会づくり (ごみの減量・リサイクル・環境学習の推進など)
	17 地域環境の保全 (騒音などの公害問題、たばこのポイ捨て・歩きたばこ防止など)
	18 住まいの支援 (区営住宅の運営、高齢者世帯への住宅支援など)
練馬区の魅力	19 区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり (創業支援、企業活動活性化、個店・商店街支援など)
	20 都市農業の振興と都市農地の保全
	21 みどりの保全と創出 (公園の整備、樹林地の保全、みどりの美しい街並みづくりなど)
	22 地域活動の活性化と多文化共生社会の実現 (町会・自治会等の支援、地域集会施設の運営、国際交流など)
	23 文化・生涯学習・スポーツの振興
	24 観光の推進 (徒歩や自転車によるまち歩き観光、区の魅力・観光情報の発信など)
区政運営	25 窓口サービス等の利便性の向上 (窓口の受付日や時間の拡充、窓口の効率化、対応の質の向上、ICT（情報通信技術）の活用など)
	26 開かれた区政 (区報やホームページなどの情報発信の充実、区民参加・協働の推進など)
	27 区政改革の取り組み (サービスの質の向上や費用対効果、受益と負担のあり方、行政と民間の役割分担等の観点からのサービス・事務の見直しなど)
	28 平和と人権の尊重、男女共同参画の推進 (啓発イベントや講座、女性に対する各種相談の実施、情報誌の発行など)

満足度

「満足」および「どちらかというと満足」の2項目を合わせた『満足評価』と、「不満」および「どちらかというと不満」の2項目を合わせた『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。（図1-7-1）

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①健康づくりの推進	(79.6%)	①交通安全対策	(52.1%)
②みどりの保全と創出	(77.0%)	②区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	(45.2%)
③循環型社会づくり	(72.3%)	③駅周辺のまちづくり	(42.1%)
④都市農業の振興と都市農地の保全	(71.4%)	④鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	(39.3%)
⑤窓口サービス等の利便性の向上	(69.4%)	⑤地域環境の保全	(37.8%)

図 1-7-1 施策の満足度



必要性

「とても必要」および「必要」の2項目を合わせた『必要性が高い評価』と、「どちらかという必要」および「あまり必要でない」の2項目を合わせた『必要性が低い評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。（図1-7-2）

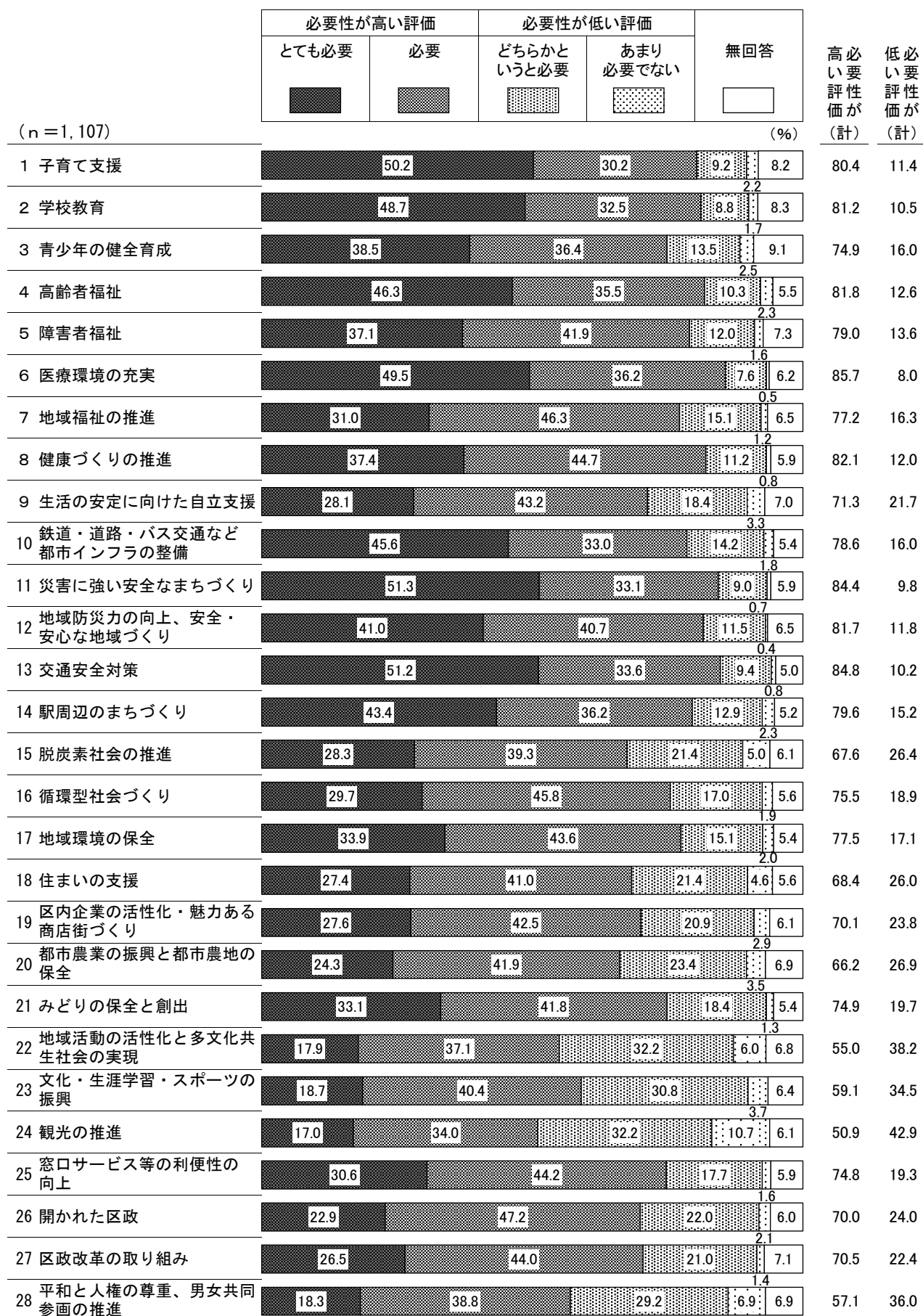
『必要性が高い評価』上位5項目

①医療環境の充実	(85.7%)
②交通安全対策	(84.8%)
③災害に強い安全なまちづくり	(84.4%)
④健康づくりの推進	(82.1%)
⑤高齢者福祉	(81.8%)

『必要性が低い評価』上位5項目

①観光の推進	(42.9%)
②地域活動の活性化と多文化共生 社会の実現	(38.2%)
③平和と人権の尊重、男女共同参画 の推進	(36.0%)
④文化・生涯学習・スポーツの振興	(34.5%)
⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(26.9%)

図 1-7-2 施策への必要性



加重平均値

満足度と必要性を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を試みた。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{満足度評価点} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} (\text{「満足」の回答者数} \times 2) + (\text{「どちらかという満足」の回答者数} \times 1) \\ + (\text{「どちらかという不満」の回答者数} \times -1) + (\text{「不満」の回答者数} \times -2) \end{array} \right\}}{\text{回答者数 (「全体」 - 「無回答」)}}$$

$$\text{必要性評価点} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} (\text{「とても必要」の回答者数} \times 2) + (\text{「必要」の回答者数} \times 1) \\ + (\text{「どちらかという必要」の回答者数} \times -1) + (\text{「あまり必要でない」の回答者数} \times -2) \end{array} \right\}}{\text{回答者数 (「全体」 - 「無回答」)}}$$

この計算方法では、評価点は+2.0点～-2.0点の間に分布し、中間点の0.0点を境に、+2.0点に近くなるほど満足度・必要性は高くなり、逆に、-2.0点に近くなるほど満足度・必要性が低くなる。

満足度と必要性の加重平均値の上位5項目と下位5項目は、以下のようになっている。

(表1-7-1)

『満足度評価点』上位5項目		『満足度評価点』下位5項目	
①健康づくりの推進	(0.85)	①交通安全対策	(-0.19)
②みどりの保全と創出	(0.76)	②区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	(-0.02)
③子育て支援	(0.70)	③駅周辺のまちづくり	(0.11)
④都市農業の振興と都市農地の保全	(0.65)	④脱炭素社会の推進	(0.18)
⑤循環型社会づくり	(0.61)	⑤地域環境の保全	(0.19)
『必要性評価点』上位5項目		『必要性評価点』下位5項目	
①医療環境の充実	(1.35)	①観光の推進	(0.15)
②災害に強い安全なまちづくり	(1.33)	②地域活動の活性化と多文化共生社会の実現	(0.31)
③交通安全対策	(1.32)	③平和と人権の尊重、男女共同参画の推進	(0.35)
④子育て支援	(1.28)	④文化・生涯学習・スポーツの振興	(0.42)
④学校教育	(1.28)	⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(0.65)

表 1-7-1 施策の満足度と必要性（加重平均値）－地区別

		満足度評価点					必要性評価点				
		区 全 体	I 地 区	II 地 区	III 地 区	IV 地 区	区 全 体	I 地 区	II 地 区	III 地 区	IV 地 区
子ども・子育て	1 子育て支援	0.70	0.67	0.70	0.72	0.69	1.28	1.28	1.34	1.27	1.22
	2 学校教育	0.59	0.56	0.66	0.52	0.57	1.28	1.30	1.36	1.25	1.22
	3 青少年の健全育成	0.52	0.52	0.49	0.47	0.56	1.04	1.06	1.13	0.95	1.00
福祉・医療・健康	4 高齢者福祉	0.53	0.57	0.54	0.56	0.47	1.20	1.18	1.21	1.12	1.23
	5 障害者福祉	0.55	0.60	0.54	0.53	0.54	1.09	1.06	1.16	0.99	1.11
	6 医療環境の充実	0.44	0.48	0.46	0.39	0.41	1.35	1.30	1.35	1.24	1.50
	7 地域福祉の推進	0.43	0.47	0.39	0.38	0.48	0.97	0.87	1.08	0.92	1.00
	8 健康づくりの推進	0.85	0.85	0.86	0.84	0.83	1.13	1.05	1.22	1.07	1.19
	9 生活の安定に向けた自立支援	0.53	0.61	0.57	0.50	0.49	0.80	0.78	0.89	0.70	0.80
都市基盤整備	10 鉄道・道路・バス交通など 都市インフラの整備	0.26	0.68	0.11	-0.15	0.37	1.13	0.93	1.25	1.37	0.99
	11 災害に強い安全なまちづくり	0.31	0.40	0.26	0.00	0.52	1.33	1.28	1.36	1.34	1.34
	12 地域防災力の向上、安全・安心な 地域づくり	0.38	0.43	0.36	0.25	0.48	1.18	1.09	1.23	1.19	1.19
	13 交通安全対策	-0.19	-0.10	-0.20	-0.51	0.01	1.32	1.30	1.38	1.38	1.22
	14 駅周辺のまちづくり	0.11	0.20	0.03	-0.19	0.32	1.11	1.01	1.25	1.12	1.07
	15 脱炭素社会の推進	0.18	0.24	0.17	0.01	0.26	0.69	0.53	0.69	0.73	0.80
	16 循環型社会づくり	0.61	0.56	0.59	0.65	0.60	0.89	0.81	0.91	0.98	0.89
	17 地域環境の保全	0.19	0.03	0.37	0.21	0.09	0.98	1.01	0.96	0.95	1.01
	18 住まいの支援	0.33	0.39	0.38	0.24	0.29	0.69	0.57	0.75	0.61	0.75
練馬区の魅力	19 区内企業の活性化・魅力ある商店街 づくり	-0.02	0.08	-0.12	-0.14	0.08	0.76	0.70	0.89	0.68	0.72
	20 都市農業の振興と都市農地の保全	0.65	0.61	0.59	0.72	0.71	0.65	0.50	0.72	0.68	0.70
	21 みどりの保全と創出	0.76	0.72	0.70	0.73	0.88	0.92	0.84	1.04	0.95	0.87
	22 地域活動の活性化と多文化共生社会 の実現	0.40	0.35	0.33	0.40	0.52	0.31	0.24	0.38	0.32	0.31
	23 文化・生涯学習・スポーツの振興	0.42	0.45	0.32	0.35	0.57	0.42	0.48	0.46	0.37	0.39
	24 観光の推進	0.20	0.32	0.13	0.07	0.27	0.15	0.12	0.20	0.08	0.21
区政運営	25 窓口サービス等の利便性の向上	0.56	0.59	0.52	0.52	0.61	0.90	0.92	0.95	0.86	0.86
	26 開かれた区政	0.52	0.45	0.47	0.55	0.58	0.71	0.69	0.77	0.68	0.70
	27 区政改革の取り組み	0.36	0.33	0.37	0.35	0.41	0.79	0.71	0.92	0.72	0.78
	28 平和と人権の尊重、男女共同参画 の推進	0.44	0.39	0.44	0.43	0.48	0.35	0.34	0.38	0.26	0.42

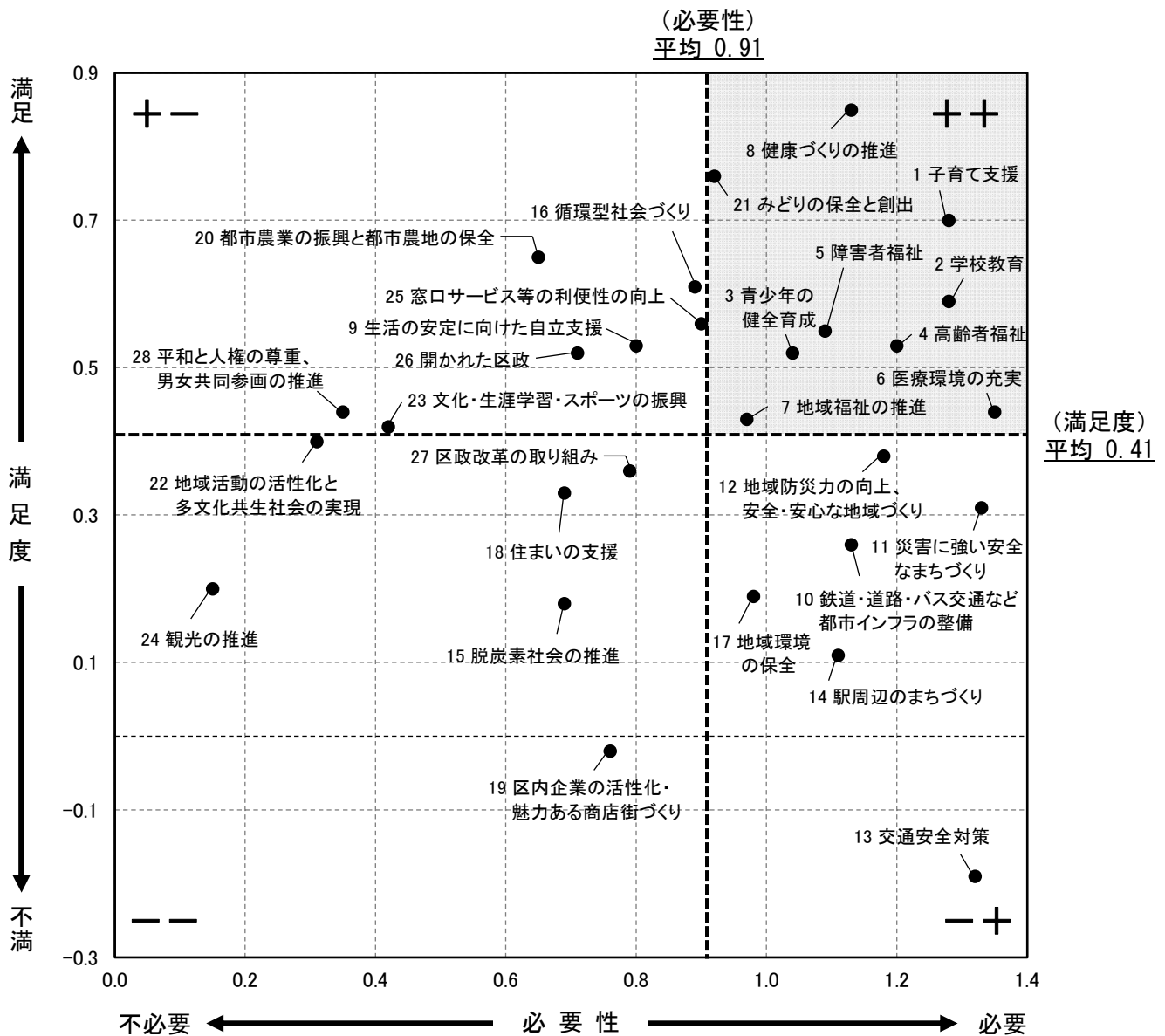
満足度と必要性の相関

満足度と必要性の相関を加重平均値でみると、下の図1-7-3のようになっている。

この相関図では、●の点が上に分布するほど満足度が高く、右に分布するほど必要性が高くなる。

さらに、満足度の平均（0.41点）および必要性の平均（0.91点）を相関図上に点線を引いて4つに分割し、平均より上位であるか下位であるかが明確になるように示した。

図1-7-3 施策の満足度と必要性（加重平均値）の相関



これによると、満足度も必要性も高い（++：網かけ部分）のは、「健康づくりの推進」「子育て支援」「学校教育」「高齢者福祉」「障害者福祉」などである。

満足度が高いが必要性が低い（+-）のは、「都市農業の振興と都市農地の保全」「開かれた区政」などである。

満足度が低いが必要性が高い（-+）のは、「交通安全対策」「駅周辺のまちづくり」「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」などである。

満足度も必要性も低い（--）のは、「観光の推進」「区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり」などである。（図1-7-3）

満足度の区全体と地区別比較

【I 地区（〒176）】

全体と比較して満足度が高いのは「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（+0.42点）、「観光の推進」（+0.12点）、「区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり」（+0.10点）、「災害に強い安全なまちづくり」「交通安全対策」「駅周辺のまちづくり」（いずれも+0.09点）などである。

満足度が低いのは「地域環境の保全」（-0.16点）、「開かれた区政」（-0.07点）などである。

（図1-7-4）

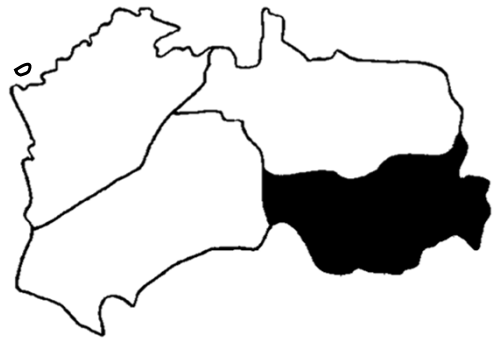
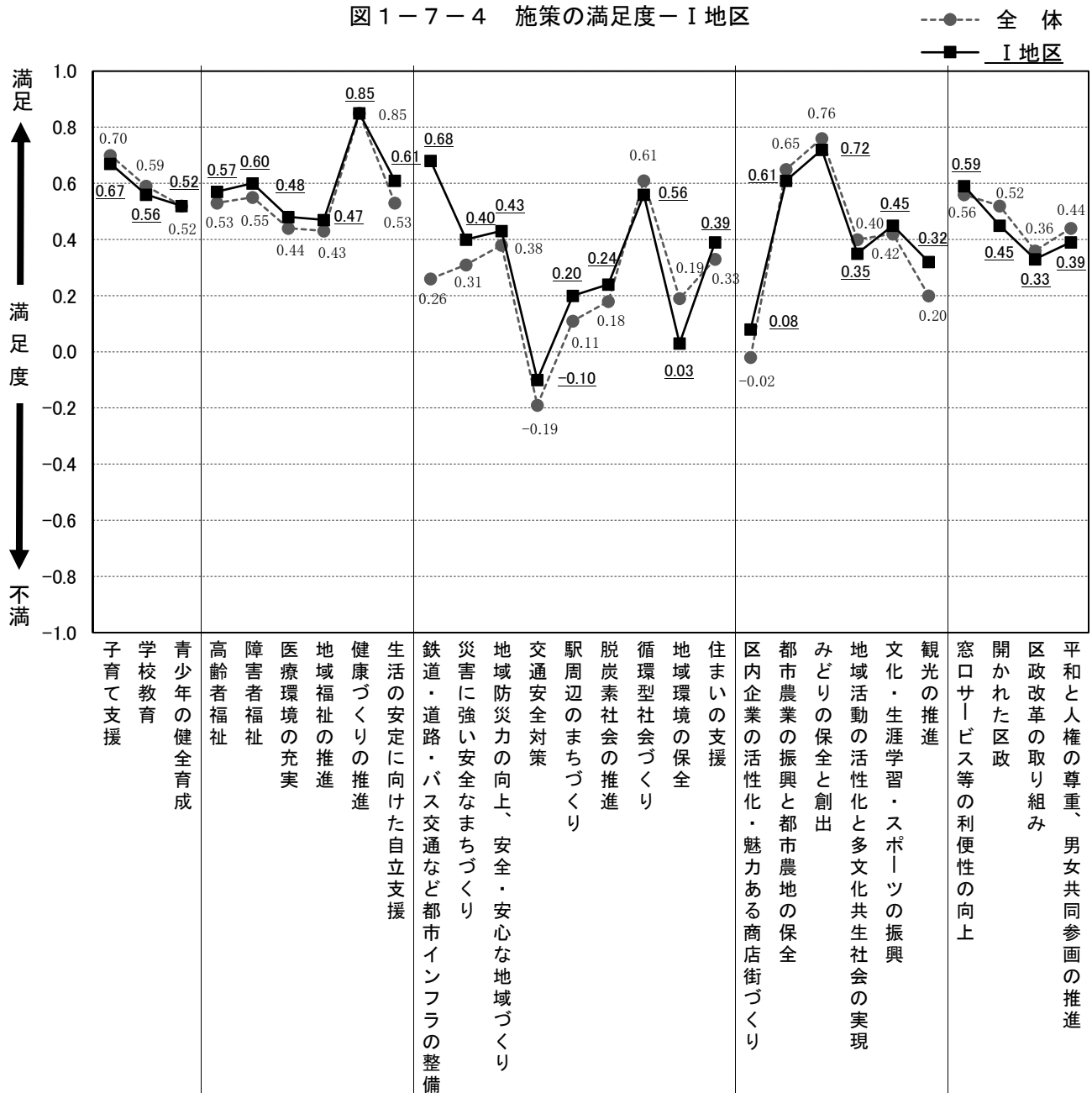


図1-7-4 施策の満足度－I地区



【Ⅱ地区（〒177）】

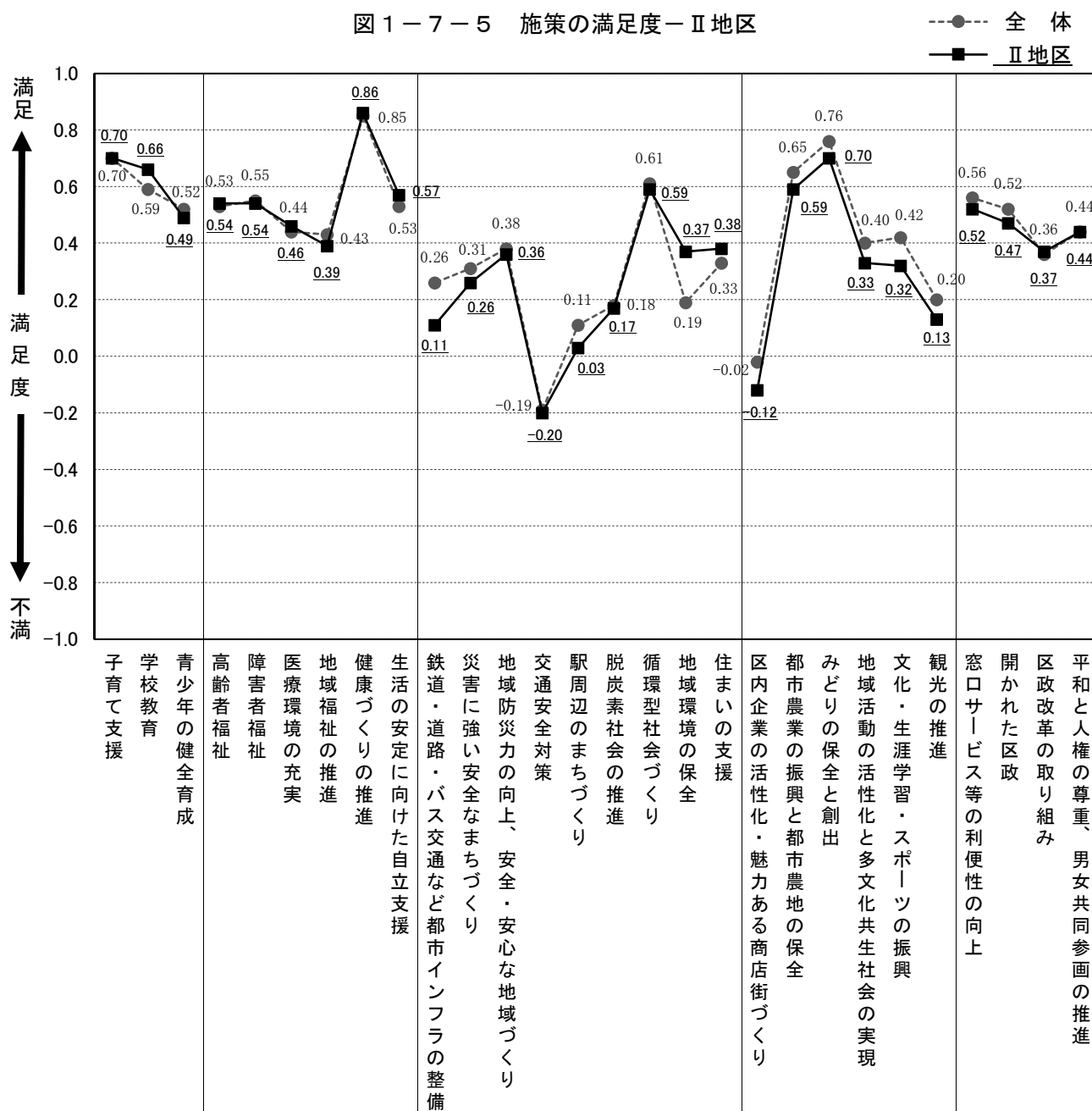
全体と比較して満足度が高いのは「地域環境の保全」（+0.18点）、「学校教育」（+0.07点）、「住まいの支援」（+0.05点）などである。

満足度が低いのは「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（-0.15点）、「区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり」「文化・生涯学習・スポーツの振興」（いずれも-0.10点）、「駅周辺のまちづくり」（-0.08点）などである。

（図1-7-5）



図1-7-5 施策の満足度－Ⅱ地区



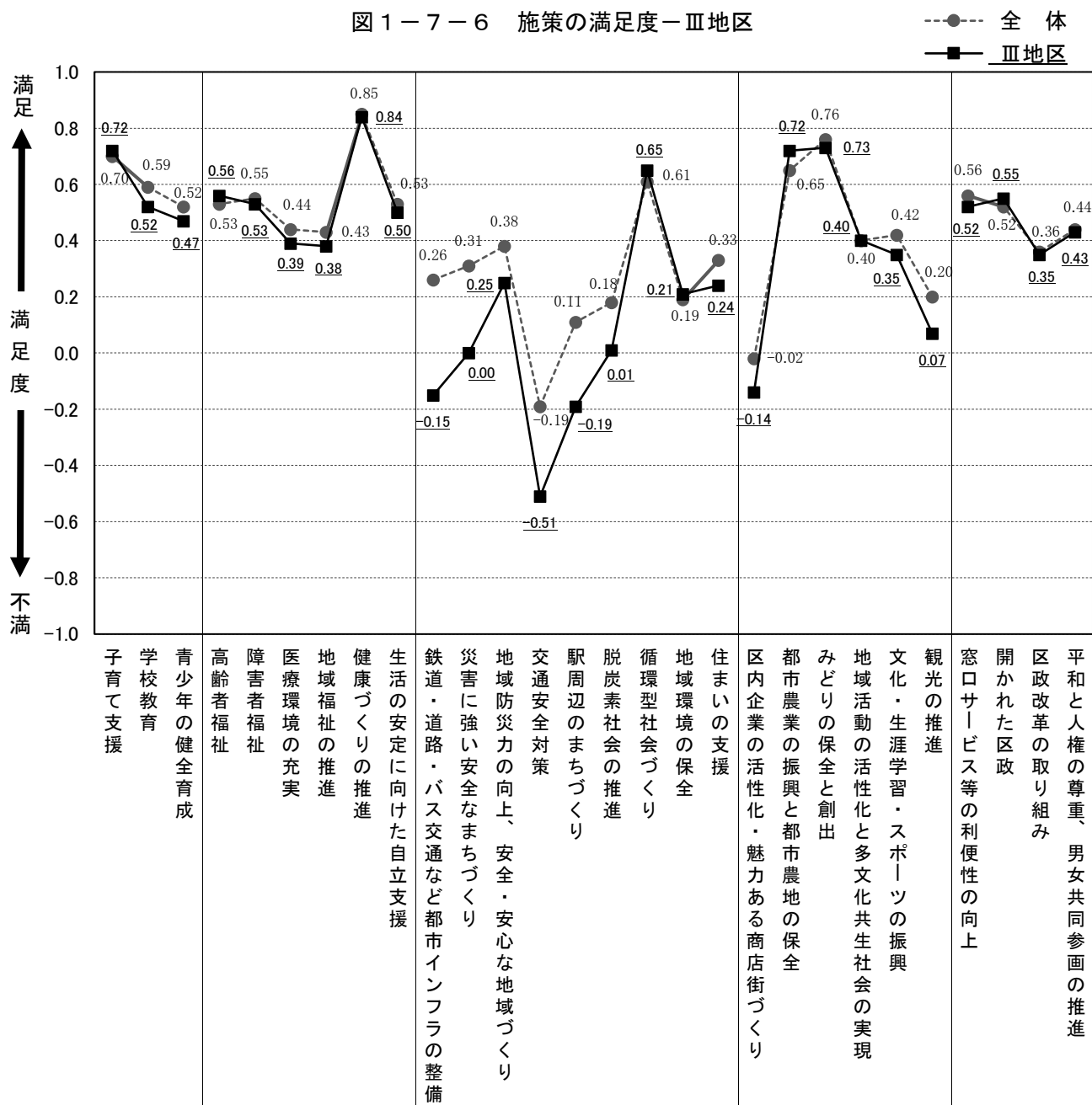
【Ⅲ地区（〒178）】

全体と比較して満足度が高いのは「都市農業の振興と都市農地の保全」（+0.07点）、「循環型社会づくり」（+0.04点）などである。

満足度が低いのは「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（-0.41点）、「交通安全対策」（-0.32点）、「災害に強い安全なまちづくり」（-0.31点）、「駅周辺のまちづくり」（-0.30点）などである。（図1-7-6）



図1-7-6 施策の満足度－Ⅲ地区



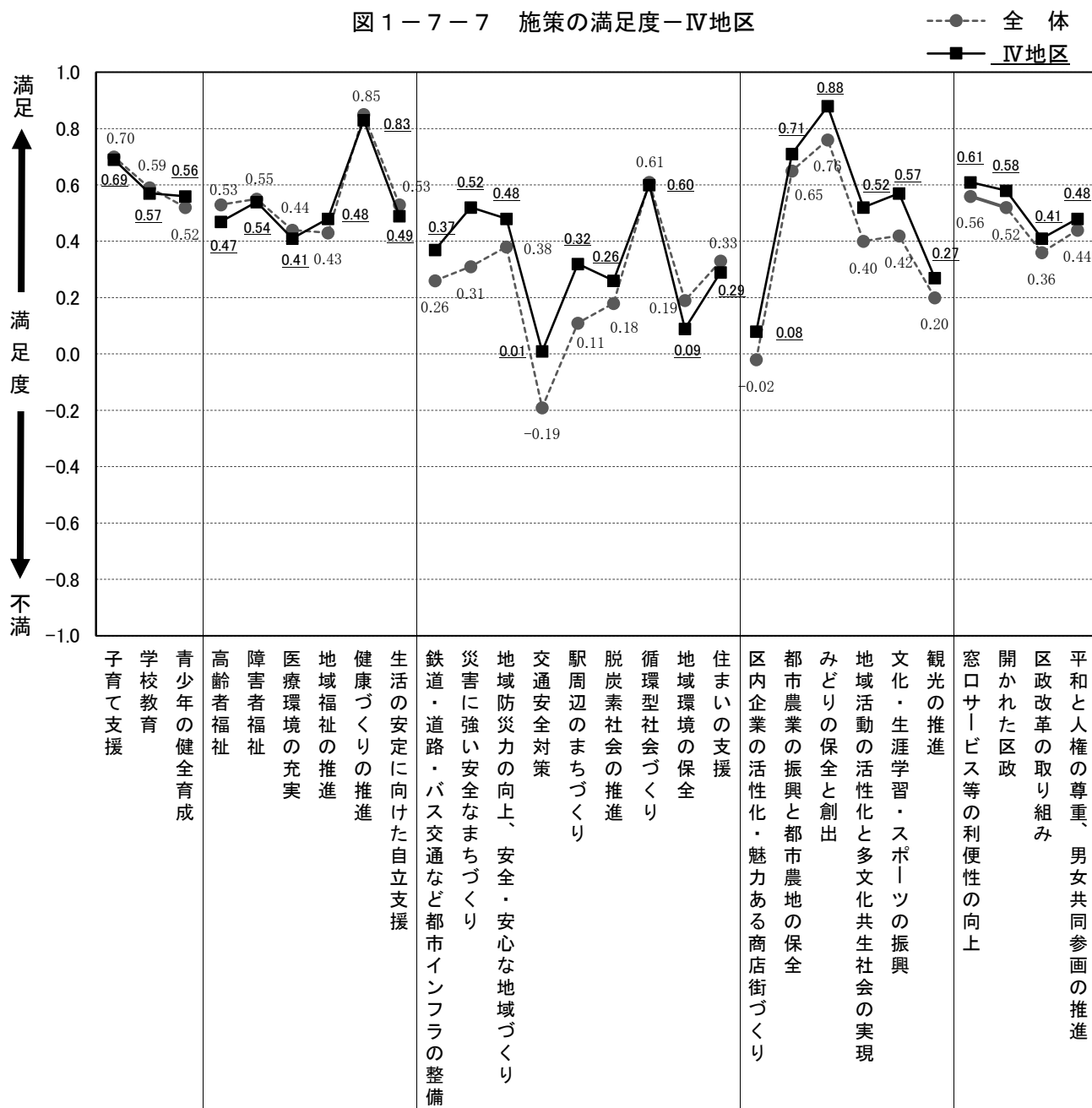
【IV地区（〒179）】

全体と比較して満足度が高いのは「災害に強い安全なまちづくり」「駅周辺のまちづくり」（いずれも＋0.21点）、「交通安全対策」（＋0.20点）、「文化・生涯学習・スポーツの振興」（＋0.15点）などである。

満足度が低いのは「地域環境の保全」（－0.10点）、「高齢者福祉」（－0.06点）、「生活の安定に向けた自立支援」「住まいの支援」（いずれも－0.04点）などである。（図1－7－7）



図1－7－7 施策の満足度－IV地区



(8) 施策への要望

◇「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」が3割

問8 練馬区の施策（問7の1～28）の中で、あなたが特に力を入れてほしいと思うものを、第1位、第2位、第3位と順位をつけて、その番号を下の該当する欄に記入してください。

図1-8-1 施策への要望



特に力を入れてほしい施策を第1位から第3位まで挙げてもらった。その3つを合わせた累計をみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(29.9%)が3割と最も多く、次いで「高齢者福祉」(21.1%)、「交通安全対策」(19.8%)、「子育て支援」(19.2%)、「学校教育」(16.6%)などの順となっている。(図1-8-1)

表 1－8－1 施策への要望－過年度比較

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
令和 6 年度	鉄道・道路・バス 交通など都市 インフラの整備	高 齢 者 福 祉	交 通 安 全 対 策	子 育 て 支 援	学 校 教 育
令和 5 年度	鉄道・道路・バス 交通など都市 インフラの整備	医 療 環 境 の 充 実	高 齢 者 福 祉	子 育 て 支 援	交 通 安 全 対 策
令和 4 年度	鉄道・道路・バス 交通など都市 インフラの整備	駅周辺のまちづくり	子 育 て 支 援	高 齢 者 福 祉	医 療 環 境 の 充 実
令和 3 年度	鉄道・道路・バス 交通など都市 インフラの整備	医 療 環 境 の 充 実	交 通 安 全 対 策	高 齢 者 福 祉	子 育 て 支 援
令和 2 年度	鉄道・道路・バス 交通など都市 インフラの整備	交 通 安 全 対 策	医 療 環 境 の 充 実	駅周辺のまちづくり	高 齢 者 福 祉
令和元年度	鉄道・道路・バス 交通など都市 インフラの整備	交 通 安 全 対 策	高 齢 者 福 祉	子 育 て 支 援	災害に強い安全 なまちづくり
平成 30 年度	鉄道・道路・バス 交通など都市 インフラの整備	交 通 安 全 対 策	医 療 環 境 の 充 実	高 齢 者 福 祉	子 育 て 支 援
平成 29 年度	鉄道・道路・バス 交通など都市 インフラの整備	交 通 安 全 対 策	子 育 て 支 援	高 齢 者 福 祉	医 療 環 境 の 充 実
平成 28 年度	鉄道・道路・バス 交通など都市 インフラの整備	交 通 安 全 対 策	高 齢 者 福 祉	子 育 て 支 援	駅周辺のまちづくり
平成 27 年度	鉄道・道路・バス 交通など都市 インフラの整備	高 齢 者 福 祉	交 通 安 全 対 策	子 育 て 支 援	医 療 環 境 の 充 実

過去の調査と比較すると、^{注1}「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」が10年連続で第1位となっている。また、前回調査（令和5年度）で5位以内に入っていなかった「学校教育」が今回調査では第5位となっている。（表1－8－1）

注1) 「脱炭素社会の推進」は令和5年度までは「エネルギー政策の展開」としていた。

注2) 「駅周辺のまちづくり」「エネルギー政策の展開」は平成27年度から追加された選択肢。

表 1－8－2 施策への要望－地区別／性別／性・年齢別

(%)

		A A (50%以上)	A (40～50%未満)	B (30～40%未満)	C (20～30%未満)
全 体					・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 29.9 ・ 高齢者福祉 21.1
地区別	I 地区 (千 176)				・ 子育て支援 22.7
	II 地区 (千 177)			・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 38.5	・ 交通安全対策 21.5 ・ 高齢者福祉 20.2
	III 地区 (千 178)			・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 39.7	・ 交通安全対策 22.8 ・ 高齢者福祉 20.7
	IV 地区 (千 179)				・ 高齢者福祉 24.1 ・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 22.3 ・ 医療環境の充実 20.2
性別	男 性			・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 31.3	・ 交通安全対策 23.1
	女 性				・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 29.3 ・ 高齢者福祉 23.2 ・ 子育て支援 20.7
性・年齢別	男 性	18～29歳	・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 46.9	・ 子育て支援 31.3 ・ 学校教育 31.3	・ 交通安全対策 25.0 ・ 災害に強い安全なまちづくり 21.9
		30～39歳	・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 40.7	・ 学校教育 39.0 ・ 子育て支援 35.6	・ 交通安全対策 23.7 ・ 駅周辺のまちづくり 20.3
		40～49歳		・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 36.5 ・ 学校教育 31.1	・ 交通安全対策 28.4 ・ 子育て支援 27.0
		50～59歳		・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 33.0	・ 交通安全対策 23.1 ・ 駅周辺のまちづくり 22.0
		60～69歳		・ 高齢者福祉 30.9 ・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 30.9	・ 交通安全対策 23.5 ・ 医療環境の充実 21.0
		70歳以上			・ 高齢者福祉 27.2
	女 性	18～29歳	・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 43.1	・ 子育て支援 34.7	・ 駅周辺のまちづくり 25.0
		30～39歳	・ 子育て支援 44.4	・ 学校教育 38.3 ・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 38.3	・ 交通安全対策 21.0 ・ 駅周辺のまちづくり 21.0
		40～49歳		・ 学校教育 37.4 ・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 33.3	・ 子育て支援 27.3 ・ 災害に強い安全なまちづくり 20.2
		50～59歳		・ 高齢者福祉 36.2 ・ 鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 30.2	・ 医療環境の充実 25.9 ・ 災害に強い安全なまちづくり 24.1
		60～69歳		・ 高齢者福祉 33.3	・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 27.9 ・ 医療環境の充実 23.4 ・ 交通安全対策 21.6
		70歳以上		・ 高齢者福祉 30.6	

次に、要望の大きさを、比率に応じてAA（50%以上）、A（40～50%未満）、B（30～40%未満）、C（20～30%未満）の4つのランクに分けて、地区別、性別、性・年齢別に分類した。その結果が表1－8－2である。

地区別にみると、各地区ともにAAランク、Aランクに入る施策はない。

「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」はⅡ地区（〒177）、Ⅲ地区（〒178）でBランク、Ⅳ地区（〒179）でCランクとなっている。

性別にみると、男女ともAAランク、Aランクに入る施策はない。

「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」は男性でBランク、女性でCランク、「交通安全対策」は男性でCランク、「高齢者福祉」、「子育て支援」は女性でCランクとなっている。

性・年齢別にみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」は男性18～29歳、男性30～39歳、女性18～29歳でAランク、男性40～49歳、男性50～59歳、男性60～69歳、女性30～39歳、女性40～49歳、女性50～59歳でBランク、女性60～69歳でCランクとなっている。

「子育て支援」は女性30～39歳でAランク、男性18～29歳、男性30～39歳、女性18～29歳でBランク、男性40～49歳、女性40～49歳でCランクとなっている。

「学校教育」は男性18～29歳、男性30～39歳、男性40～49歳、女性30～39歳、女性40～49歳でBランクとなっている。

「高齢者福祉」は男性60～69歳、女性50～59歳、女性60～69歳、女性70歳以上でBランク、男性70歳以上でCランクとなっている。

「交通安全対策」は男性18～29歳、男性30～39歳、男性40～49歳、男性50～59歳、男性60～69歳、女性30～39歳、女性60～69歳でCランクとなっている。

「災害に強い安全なまちづくり」は男性18～29歳、女性40～49歳、女性50～59歳でCランクとなっている。

「駅周辺のまちづくり」は男性30～39歳、男性50～59歳、女性18～29歳、女性30～39歳でCランクとなっている。

「医療環境の充実」は男性60～69歳、女性50～59歳、女性60～69歳でCランクとなっている。（表1－8－2）

《 施策の満足度・要望（住みよいー満足度評価） 》

練馬区の住みごころ（問１・57ページ参照）の評価は、28項目の施策の満足度（問７・82～84ページ参照）および施策への要望（問８・94ページ参照）とどのような関係があるのかをみる。

練馬区が「住みよい」と答えた方（515人）の施策の満足度（問７）をみると、「満足」および「どちらかという満足」の２項目を合わせた『満足評価』と、「不満」および「どちらかという不満」の２項目を合わせた『不満評価』のそれぞれ上位５項目は、以下のようになっている。（図１－８－２）

『満足評価』上位５項目		『不満評価』上位５項目	
①健康づくりの推進	(87.2%)	①交通安全対策	(42.9%)
②みどりの保全と創出	(84.5%)	②区内企業の活性化・魅力ある 商店街づくり	(33.4%)
③開かれた区政	(81.7%)	③地域環境の保全	(30.7%)
④都市農業の振興と都市 農地の保全	(81.4%)	④駅周辺のまちづくり	(30.5%)
⑤循環型社会づくり	(80.8%)	⑤脱炭素社会の推進	(28.9%)

図 1-8-2 練馬区の住みごちが「住みよい」と答えた方の施策の満足度

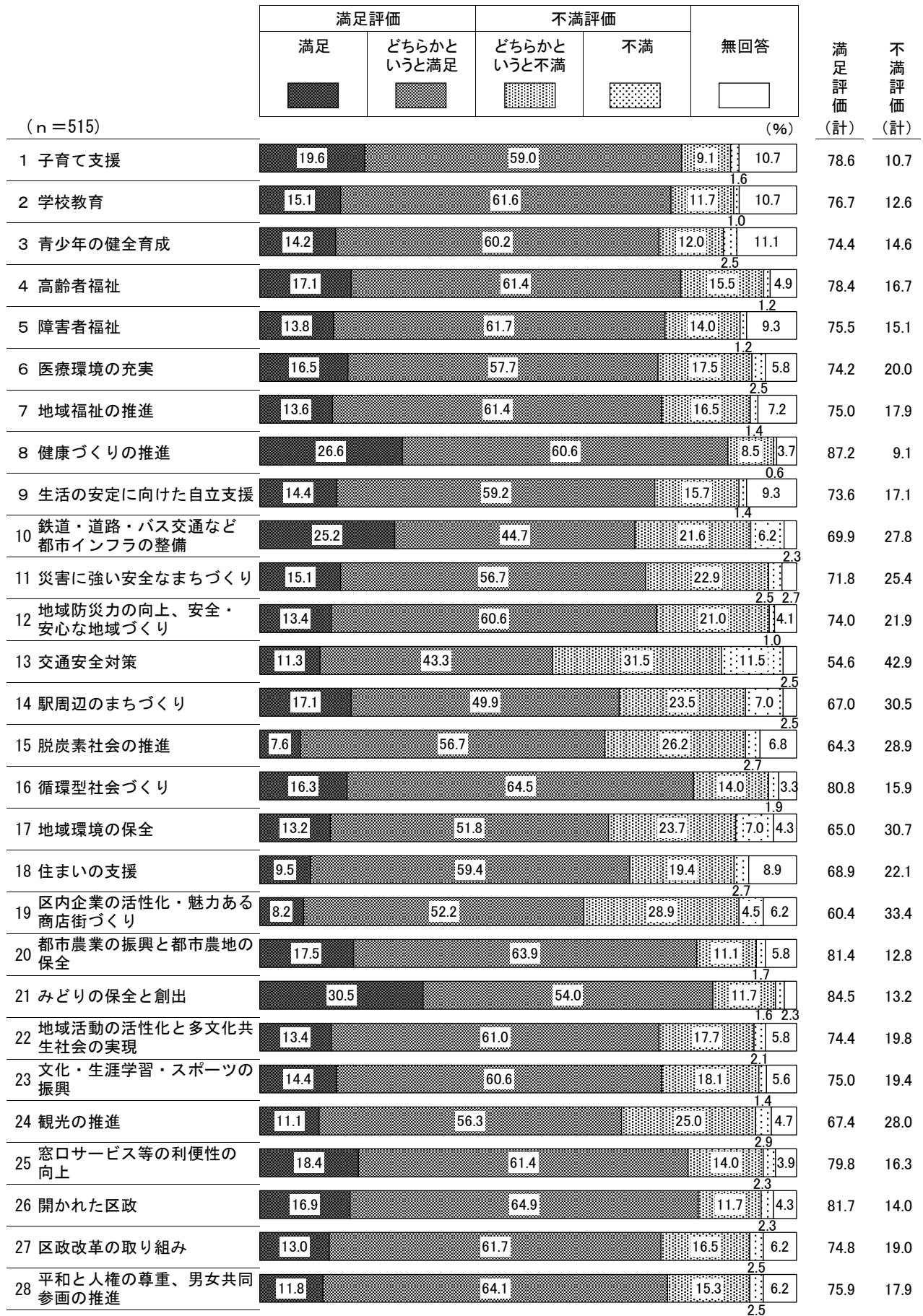


図 1-8-3 練馬区の住みごこちが「住みよい」と答えた方の施策への要望



練馬区が「住みよい」と答えた方（515人）の施策への要望（問8）をみると、第1位から第3位までを合わせた累計は、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（27.4%）が3割近くと最も多く、次いで「高齢者福祉」（23.5%）、「子育て支援」（23.1%）、「学校教育」（18.6%）、「医療環境の充実」（18.3%）などの順となっている。（図1-8-3）

《 施策の満足度・要望（住みにくい－満足度評価） 》

次に、練馬区が「あまり住みよくない」または「住みにくい」と答えた方（50人）の施策の満足度（問7）をみると、『満足評価』と『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。（図1－8－4）

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①循環型社会づくり	(60.0%)	①交通安全対策	(80.0%)
②健康づくりの推進	(58.0%)	②駅周辺のまちづくり	(78.0%)
③都市農業の振興と都市農地の 保全	(42.0%)	②区内企業の活性化・魅力ある 商店街づくり	(78.0%)
④窓口サービス等の利便性の向上	(40.0%)	④鉄道・道路・バス交通など 都市インフラの整備	(72.0%)
⑤高齢者福祉	(38.0%)	⑤地域環境の保全	(68.0%)
		⑤住まいの支援	(68.0%)

図1-8-4 練馬区の住みごちが「あまり住みよくない」「住みにくい」と答えた方の施策の満足度

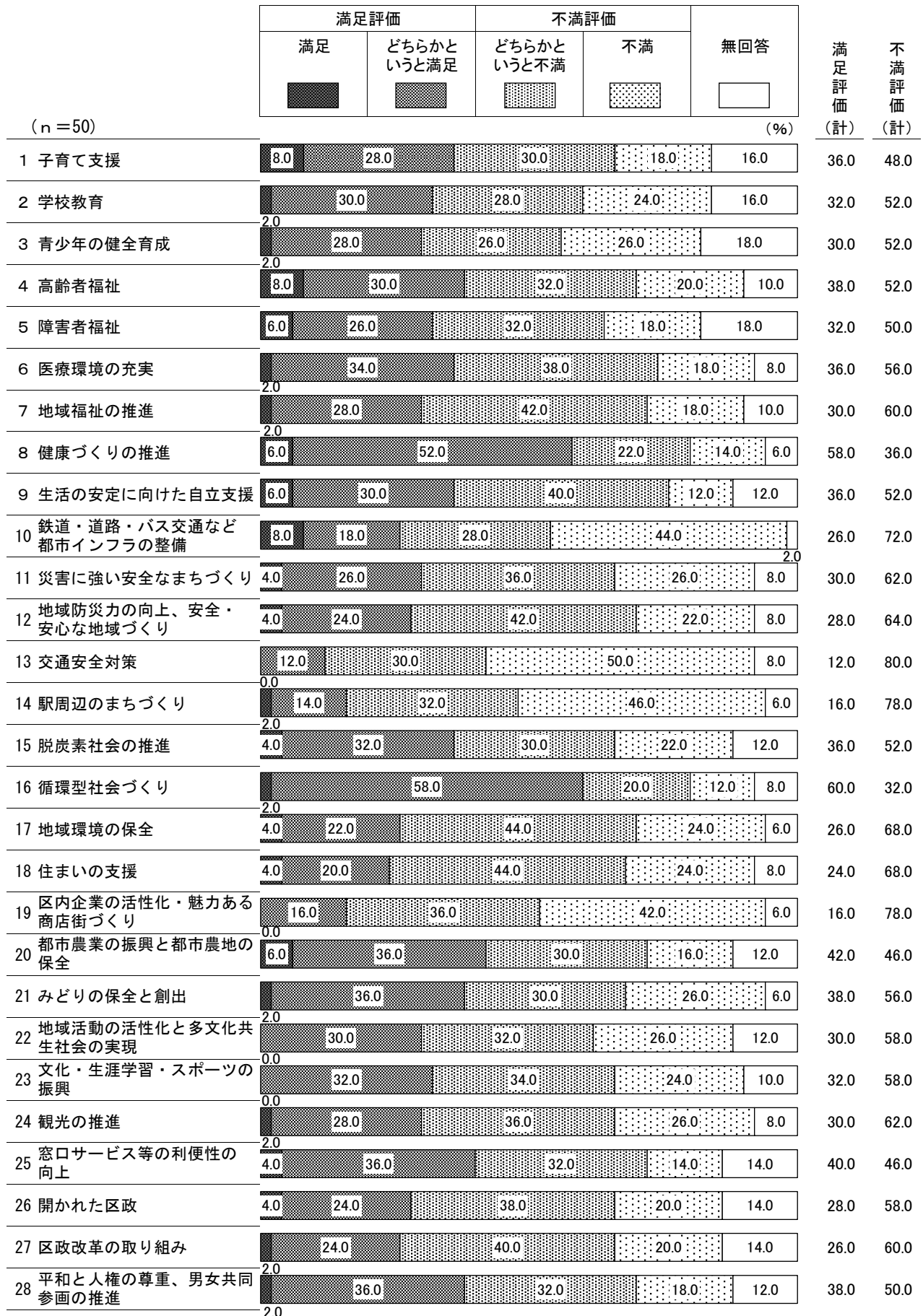
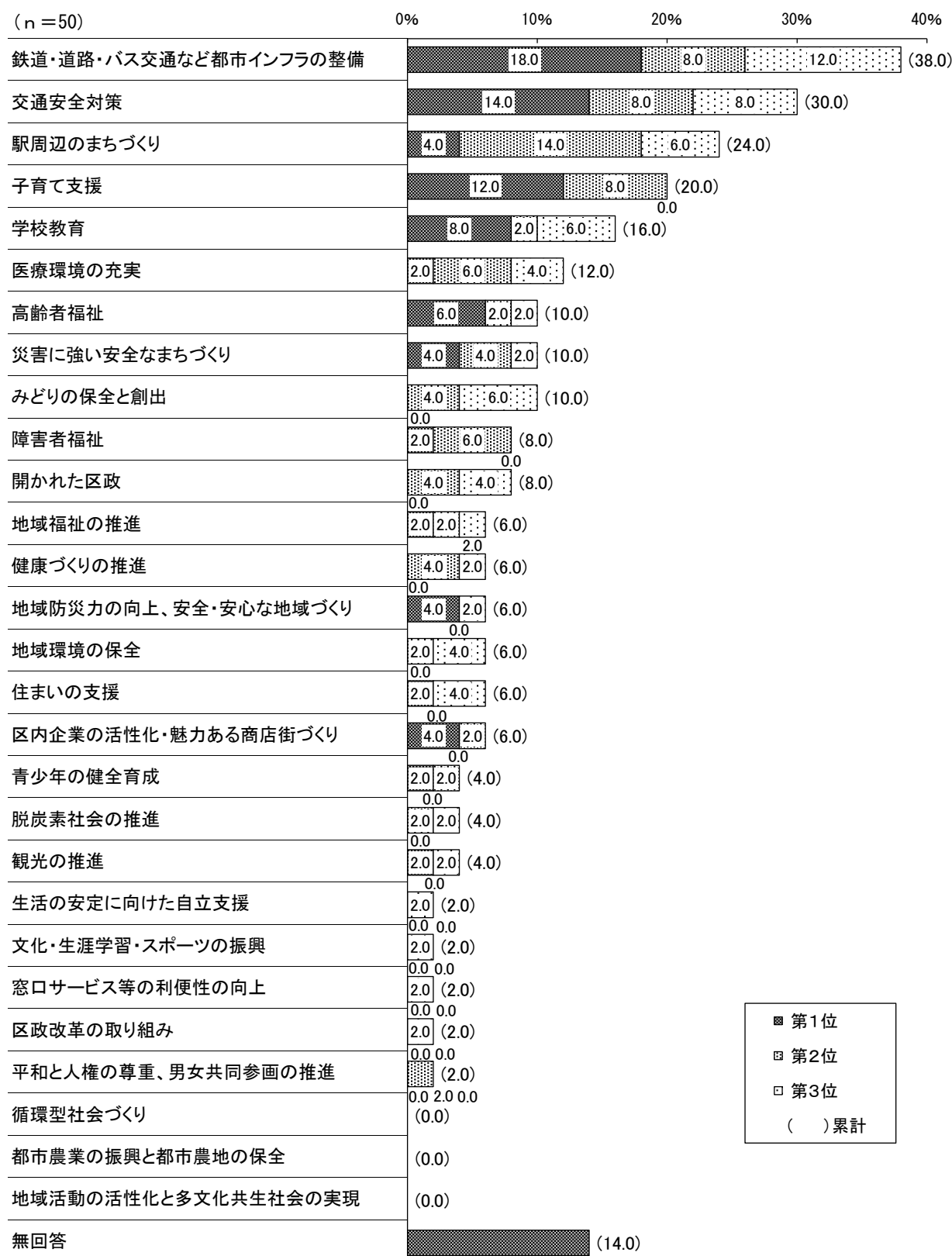


図1－8－5 練馬区の住みごこちが「あまり住みよくない」「住みにくい」と答えた方の施策への要望



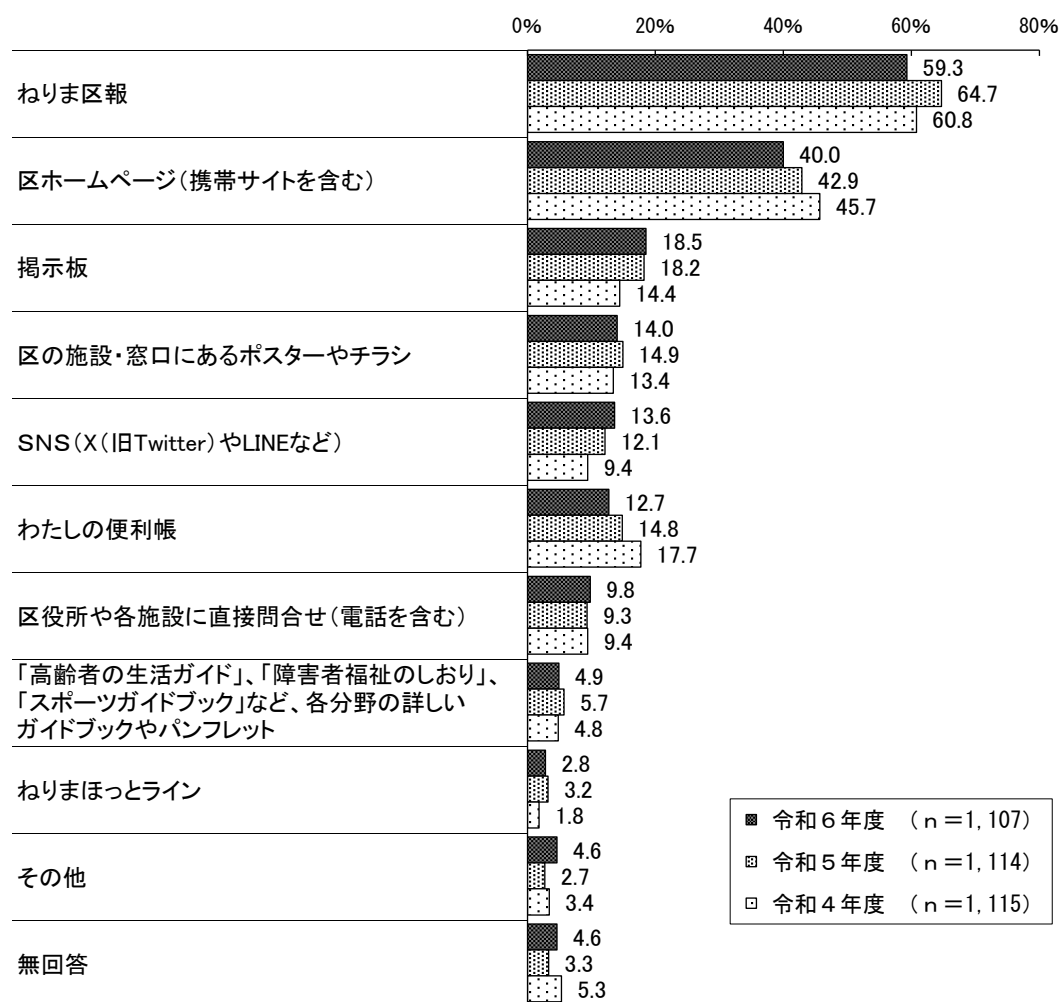
練馬区が「あまり住みよくない」または「住みにくい」と答えた方（50人）の施策への要望（問8）をみると、第1位から第3位までを合わせた累計は、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（38.0%）が4割近くと最も多く、次いで「交通安全対策」（30.0%）、「駅周辺のまちづくり」（24.0%）、「子育て支援」（20.0%）、「学校教育」（16.0%）などの順となっている。（図1－8－5）

（９）区政情報の入手先

◇「ねりま区報」が約６割

問12 あなたは、区政の情報を主に何から入手していますか。（○は３つまで）

図１－９－１ 区政情報の入手先



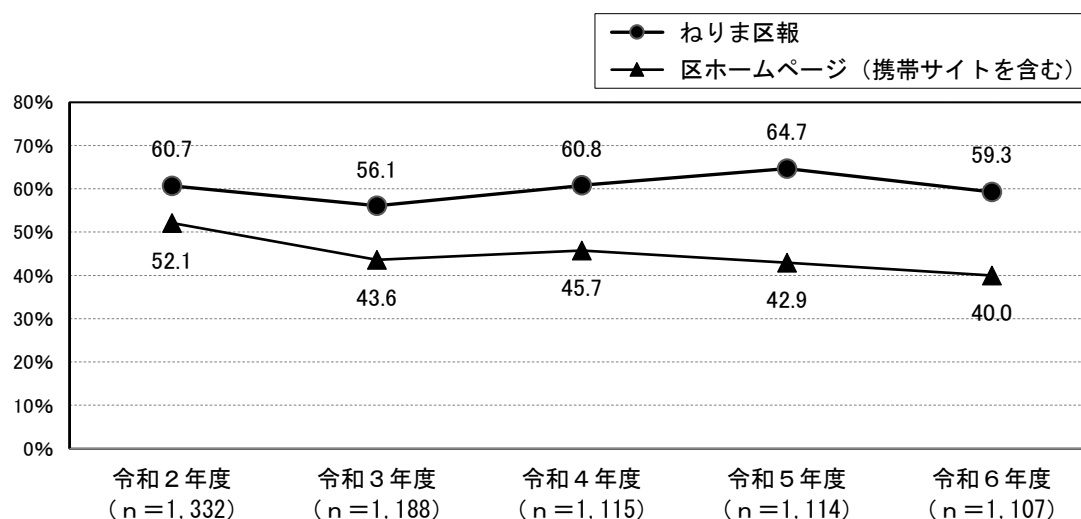
注1) 「SNS(X(旧Twitter)やLINEなど)」は令和5年度まで「SNS(X(旧Twitter)やFacebookなど)」としていた。

注2) 「掲示板」は令和4年度から追加された選択肢。

区政の情報を主に何から入手しているか聞いたところ、「ねりま区報」（59.3%）が約６割と最も多く、次いで「区ホームページ（携帯サイトを含む）」（40.0%）、「掲示板」（18.5%）、「区の施設・窓口にあるポスターやチラシ」（14.0%）などの順となっている。

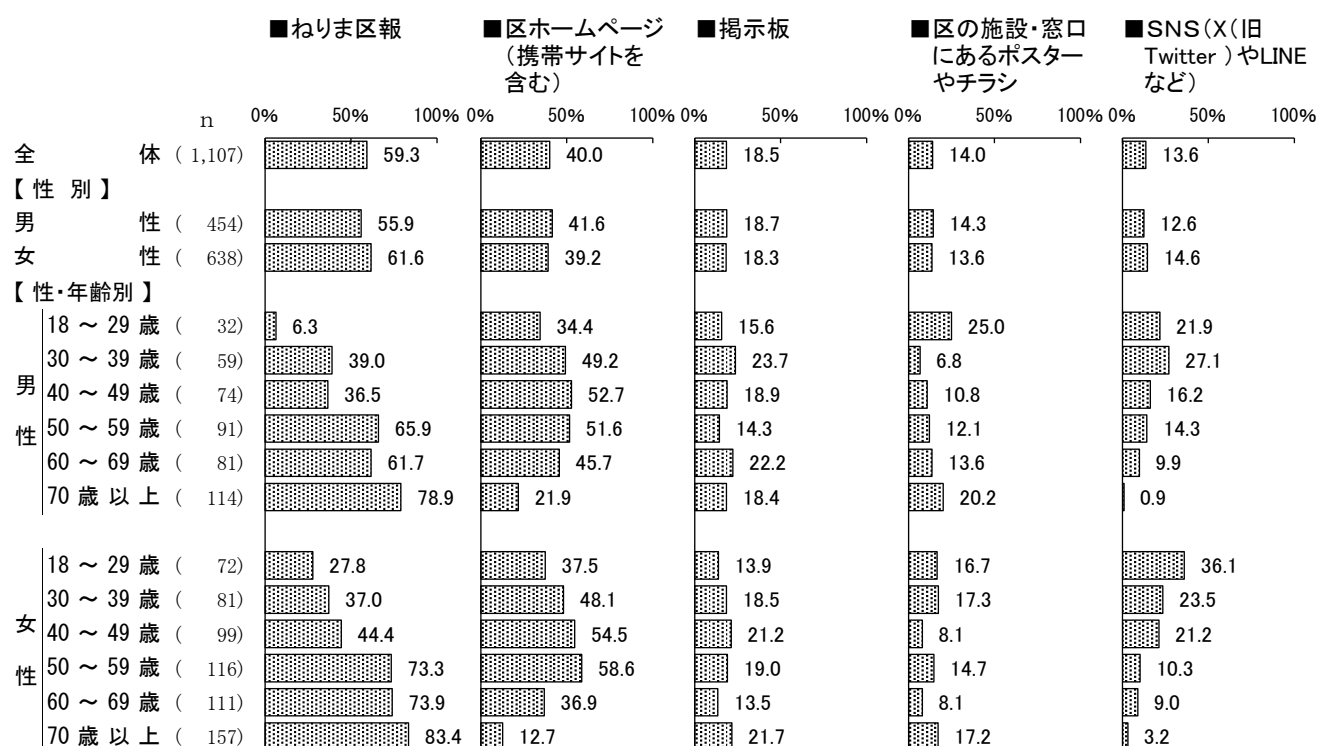
過去の調査と比較すると、前回調査（令和5年度）より「SNS(X(旧Twitter)やLINEなど）」は1.5ポイント増加している。一方、「ねりま区報」は前回調査（令和5年度）より5.4ポイント、「区ホームページ（携帯サイトを含む）」は2.9ポイント、「わたしの便利帳」は2.1ポイント、それぞれ減少している。（図１－９－１）

図 1－9－2 区政情報の入手先（「ねりま区報」、「区ホームページ（携帯サイトを含む）」）
一過年度比較



「ねりま区報」と「区ホームページ（携帯サイトを含む）」を過去の調査と比較すると、「ねりま区報」は前回調査（令和 5 年度）より 5.4 ポイント減少し、「区ホームページ（携帯サイトを含む）」は前回調査（令和 5 年度）より 2.9 ポイント減少している。（図 1－9－2）

図 1－9－3 区政情報の入手先一性別／性・年齢別（上位 5 項目）



性別にみると、「ねりま区報」は女性の方が男性より 5.7 ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「ねりま区報」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が多くなっており、女性 70 歳以上で 8 割を超えている。「区ホームページ（携帯サイトを含む）」は女性 50～59 歳で 6 割近くと多くなっている。「SNS (X (旧 Twitter) や LINE など)」は男女ともにおおむね年代が下がるほど割合が多くなっており、女性 18～29 歳で 3 割半ばとなっている。

（図 1－9－3）

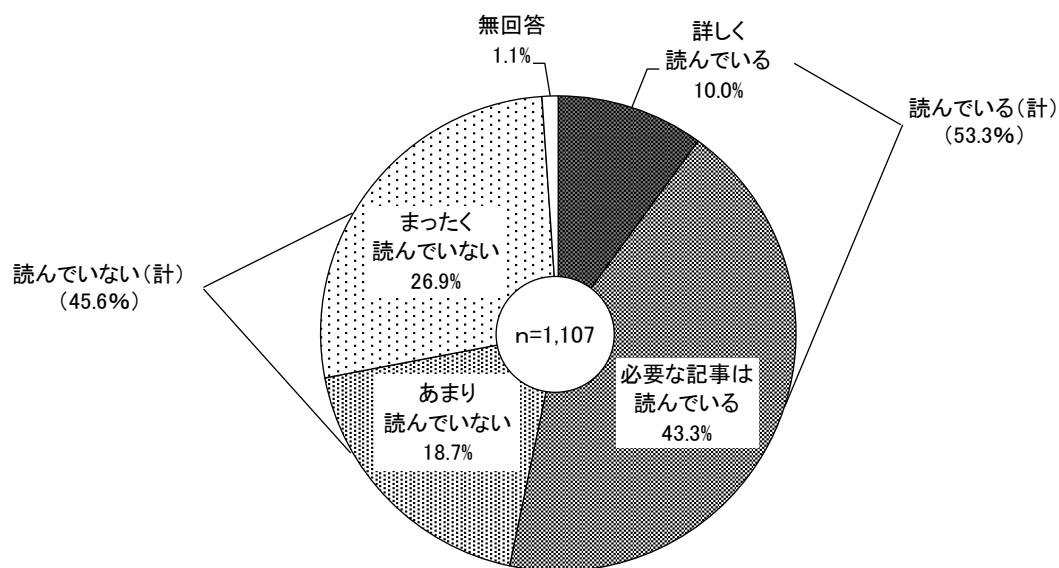
(10) 『ねりま区報』の閲読度

◇『読んでいる』が5割を超える

問13 あなたは、『ねりま区報』をどの程度読んでいますか。(○は1つ)

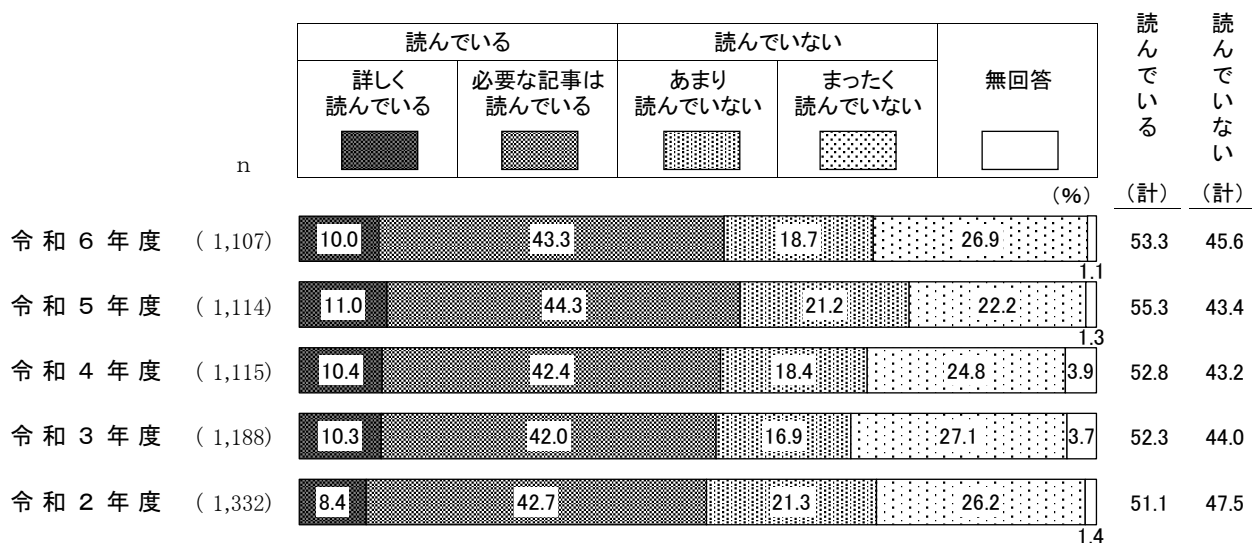
※『ねりま区報』は、毎月1日・11日・21日の月3回発行しています。日刊6紙(朝日・産経・東京・日経・毎日・読売)に折り込んでいるほか、駅・金融機関・郵便局・公衆浴場・薬局・ファミリーマート・セブンイレブン・西友・ライフ・サミット・ヤマダデンキ・コジマ・ルネサンスや区立施設に置いています。日刊6紙を購読していない世帯で、前記配布場所での入手が困難な方には送付もしています。また、区ホームページやスマートフォンからもご覧になることができます。

図1-10-1 『ねりま区報』の閲読度



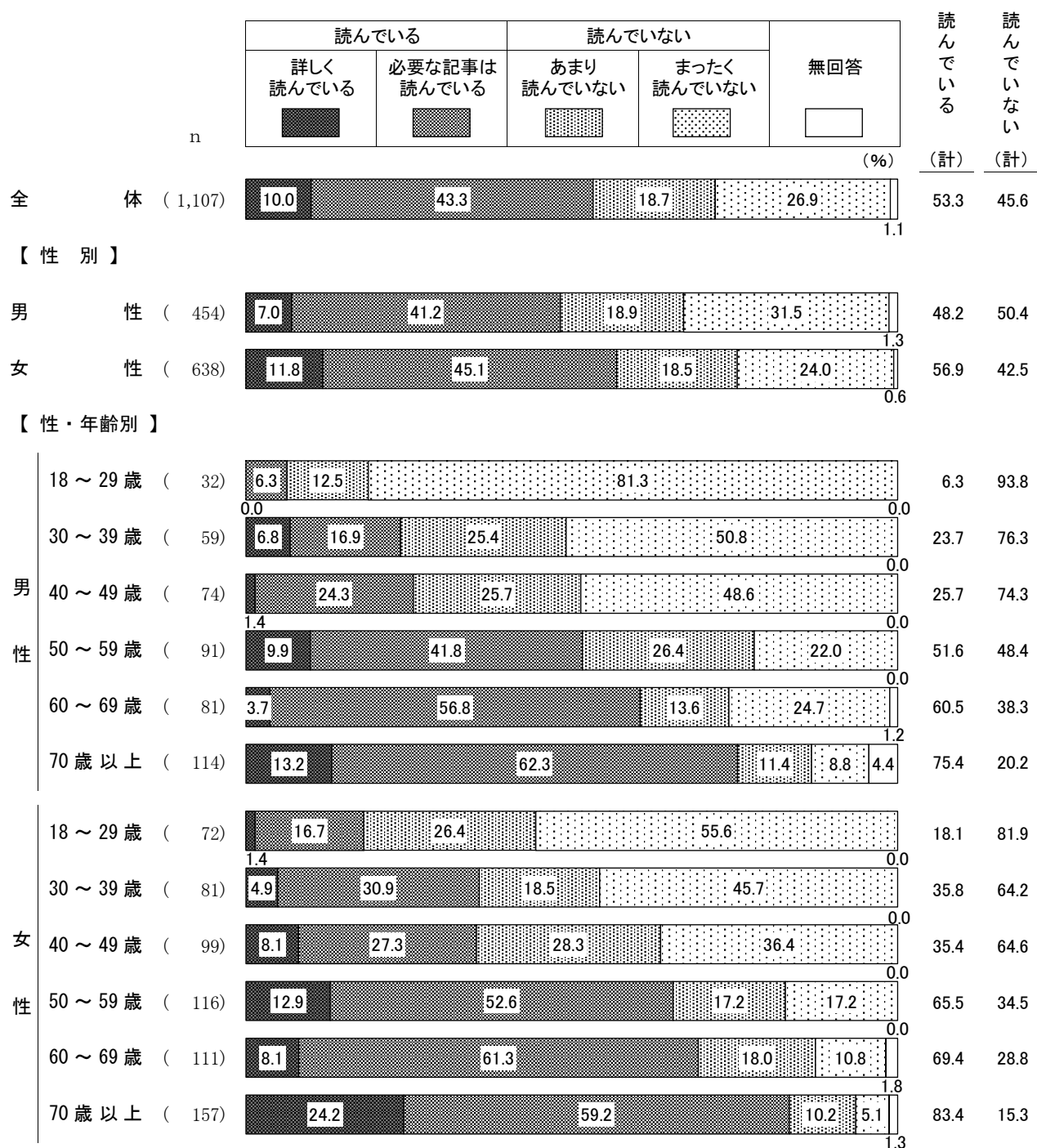
『ねりま区報』をどの程度読んでいるか聞いたところ、「詳しく読んでいる」(10.0%)と「必要な記事は読んでいる」(43.3%)を合わせた『読んでいる』(53.3%)が5割を超えている。一方、「あまり読んでいない」(18.7%)と「まったく読んでいない」(26.9%)を合わせた『読んでいない』(45.6%)は4割半ばとなっている。(図1-10-1)

図1-10-2 『ねりま区報』の閲読度一過年度比較



過去の調査と比較すると、『読んでいる』は前回調査(令和5年度)より2.0ポイント減少している。(図1-10-2)

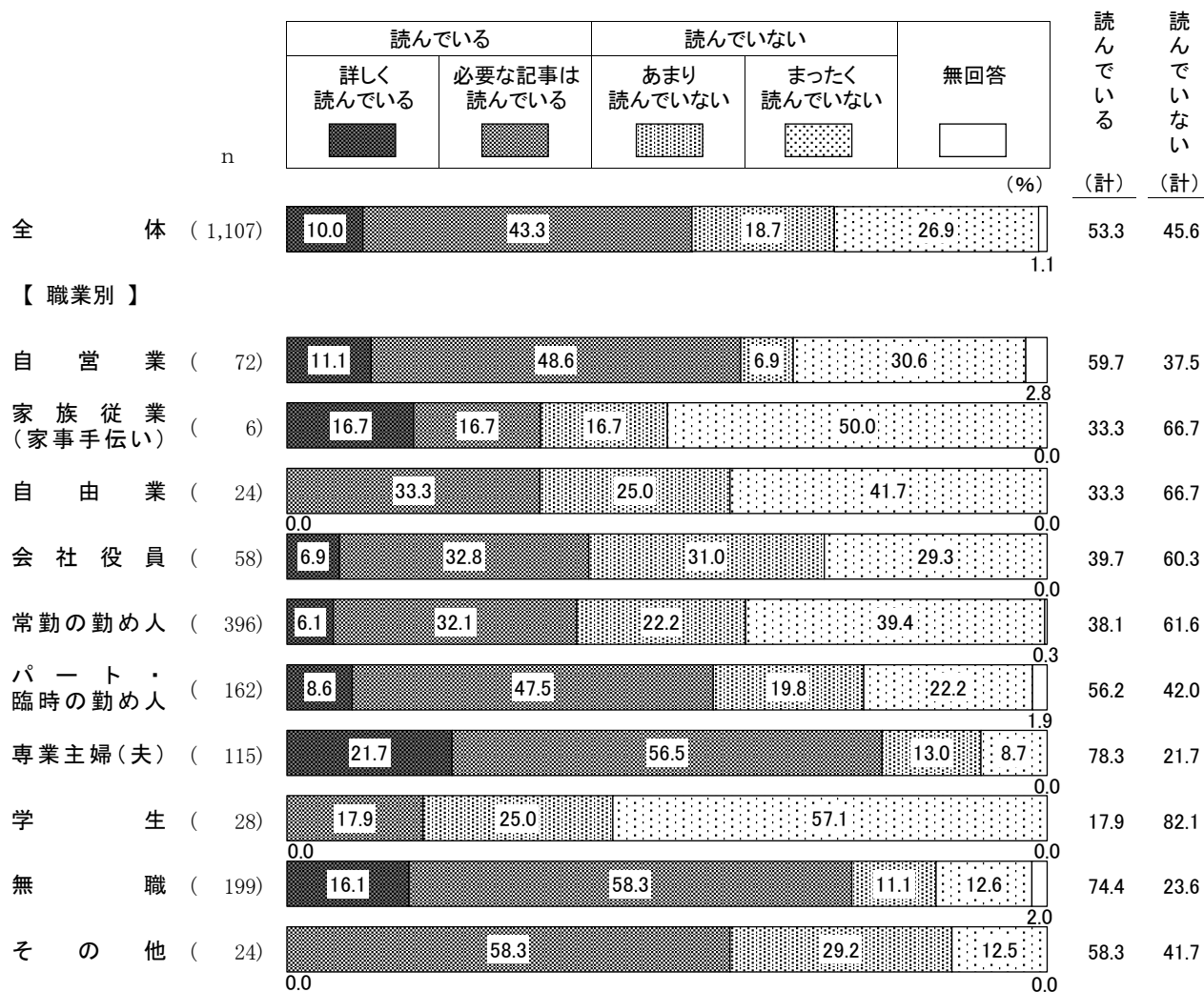
図 1-10-3 『ねりま区報』の読読度－性別／性・年齢別



性別にみると、『読んでいる』は女性の方が男性より8.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『読んでいる』は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が多くなっており、女性70歳以上で8割を超え、男性70歳以上で7割半ばとなっている。一方、『読んでいない』はおおむね年代が下がるほど割合が多くなっており、男性18～29歳で9割を超え、女性18～29歳で8割を超えている。(図1-10-3)

図 1-10-4 『ねりま区報』の閲読度－職業別



職業別にみると、『読んでいる』は専業主婦（夫）で8割近くと多くなっている。

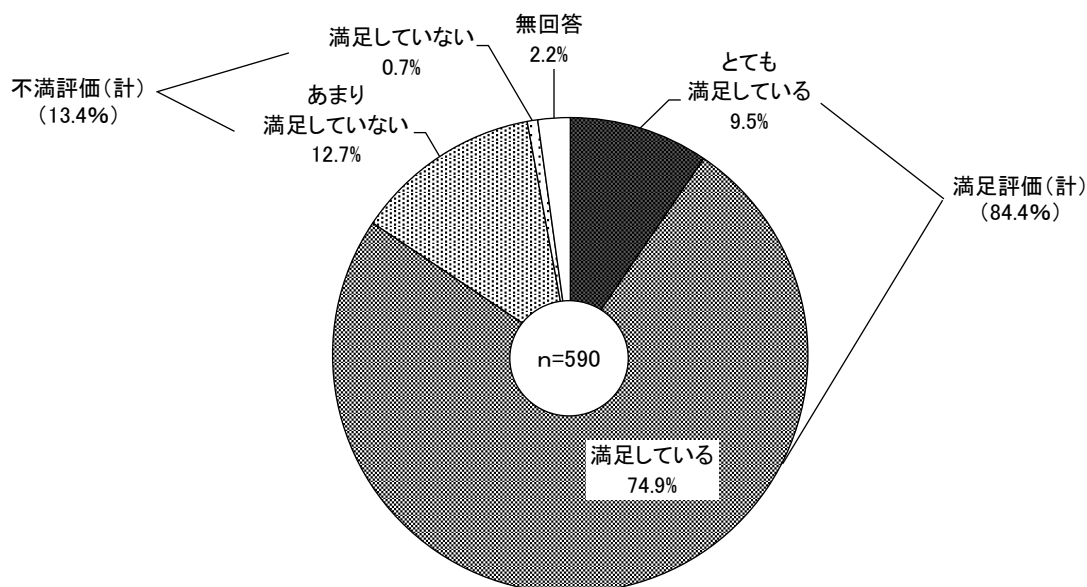
(図 1-10-4)

(10-1) 『ねりま区報』の満足度

◇『満足評価』が8割半ば

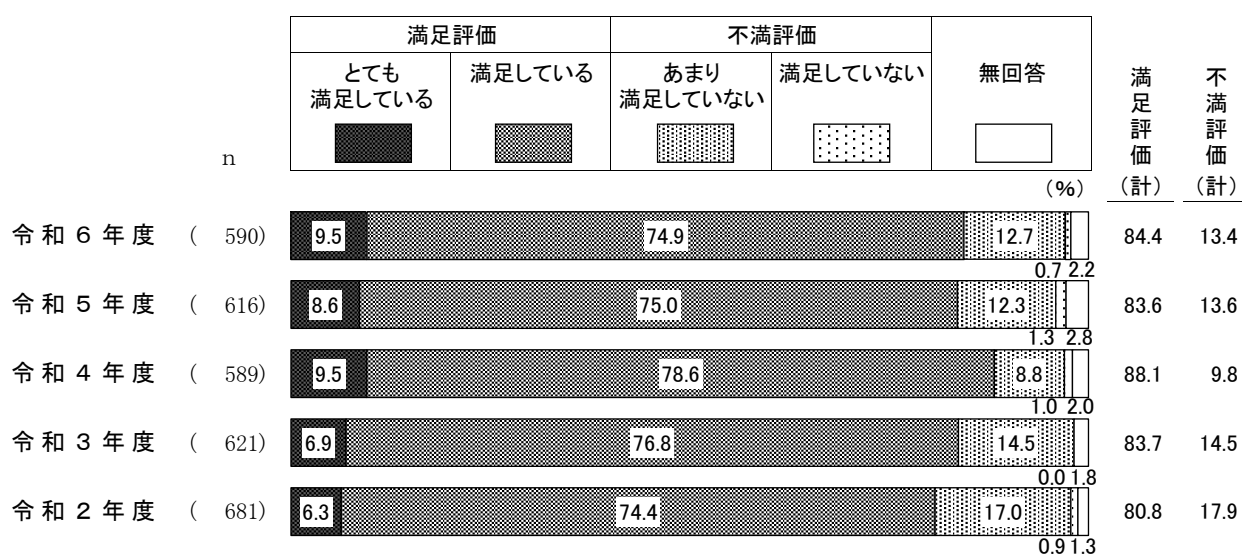
【問13で「1 詳しく読んでいる」または「2 必要な記事は読んでいる」と答えた方へ】
問13-1 あなたは、『ねりま区報』にどの程度満足していますか。(○は1つ)

図1-10-5 『ねりま区報』の満足度



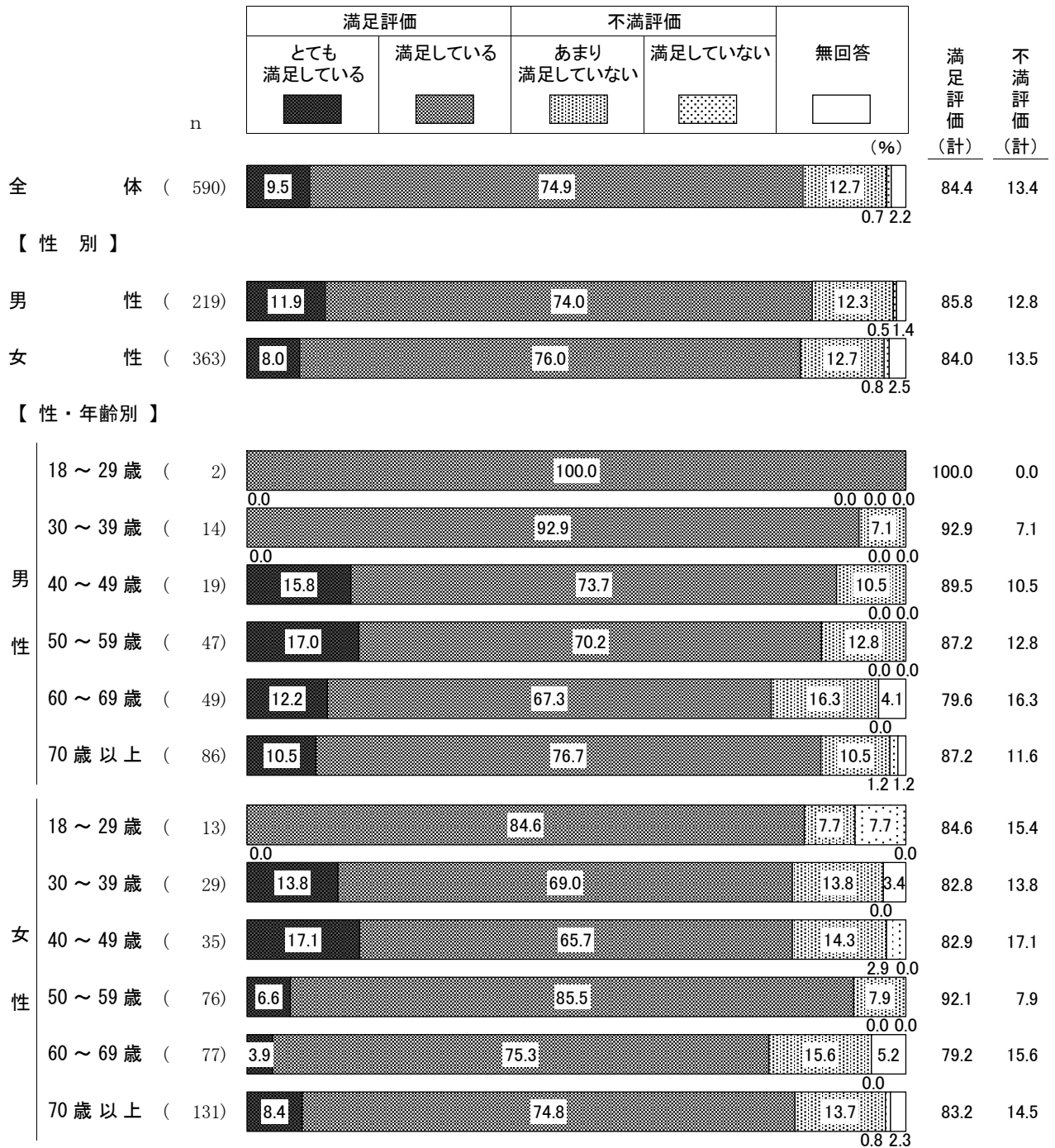
『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(590人)に、『ねりま区報』にどの程度満足しているか聞いたところ、「とても満足している」(9.5%)と「満足している」(74.9%)を合わせた『満足評価』(84.4%)が8割半ばとなっている。一方、「あまり満足していない」(12.7%)と「満足していない」(0.7%)を合わせた『不満評価』(13.4%)は1割を超えている。(図1-10-5)

図1-10-6 『ねりま区報』の満足度一過年度比較



過去の調査と比較すると、『満足評価』は前回調査(令和5年度)と大きな傾向の違いはみられない。(図1-10-6)

図 1-10-7 『ねりま区報』の満足度－性別／性・年齢別

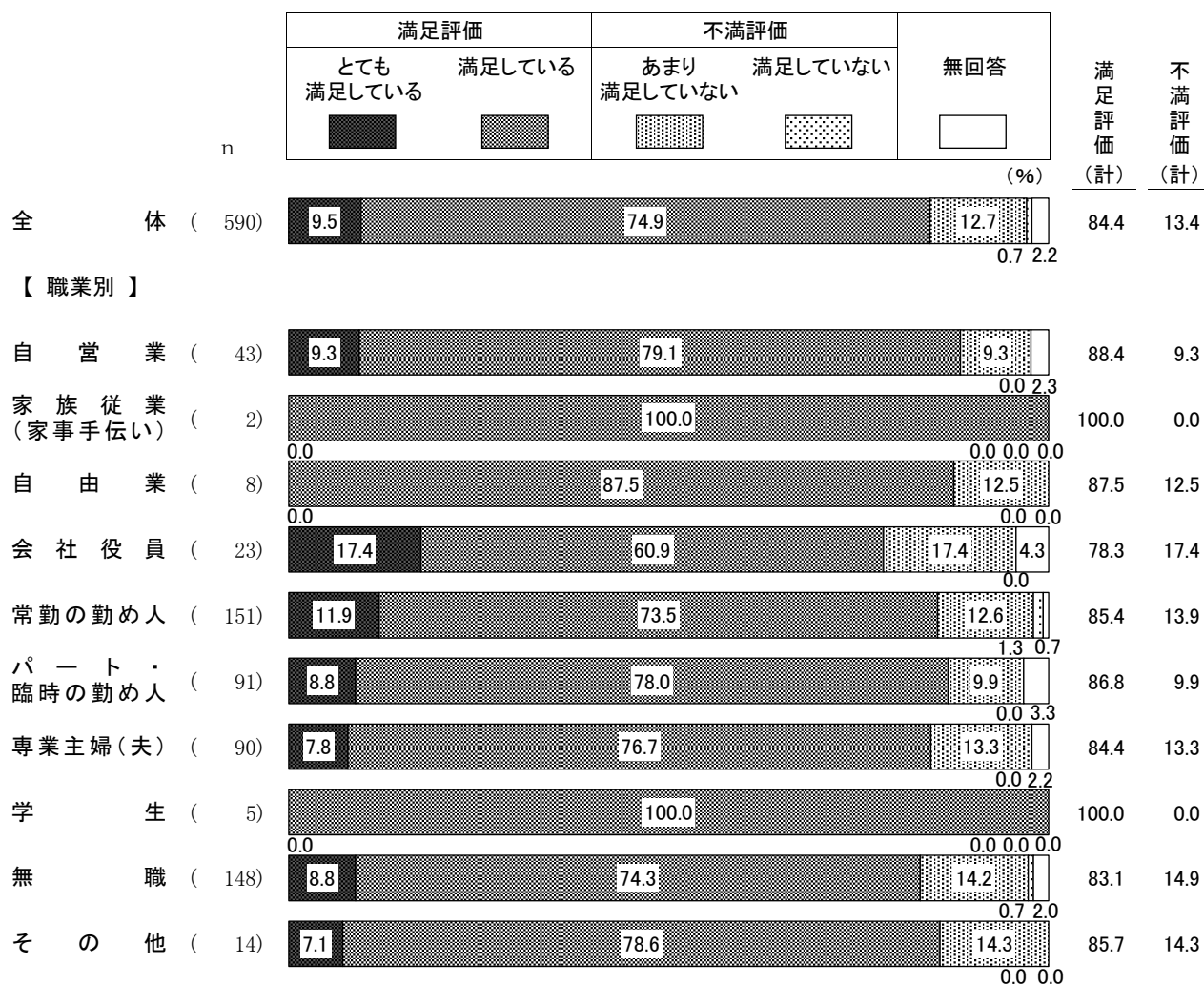


性別にみると、『ねりま区報』の満足度に大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、『満足評価』は女性50～59歳で9割を超えて多くなっている。

(図 1-10-7)

図 1-10-8 『ねりま区報』の満足度－職業別



職業別にみると、『満足評価』は自営業で9割近くと多くなっている。(図 1-10-8)

（10－2）『ねりま区報』の入手手段

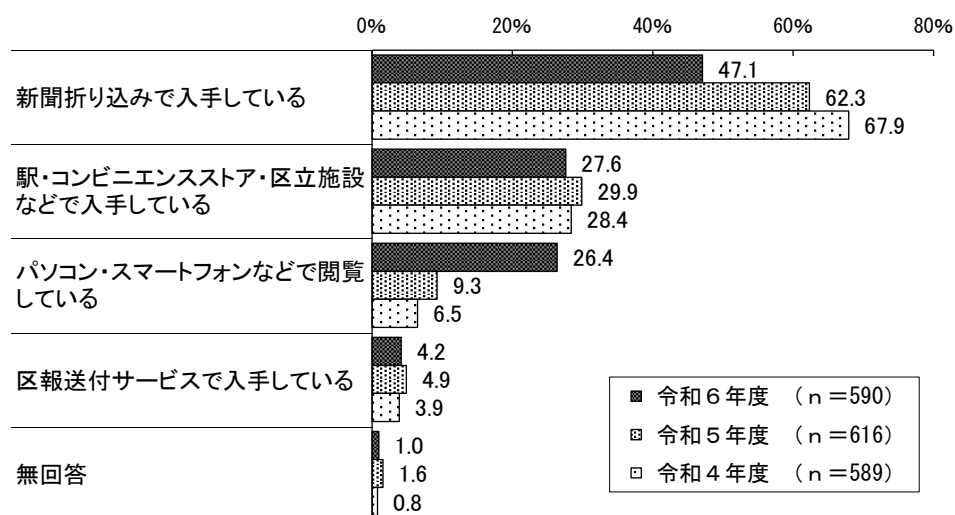
◇「新聞折り込みで入手している」が5割近く

【問13で「1 詳しく読んでいる」または「2 必要な記事は読んでいる」と答えた方へ】

問13－2 『ねりま区報』をどのような形で入手してご覧になっていますか。

（○はいくつでも）

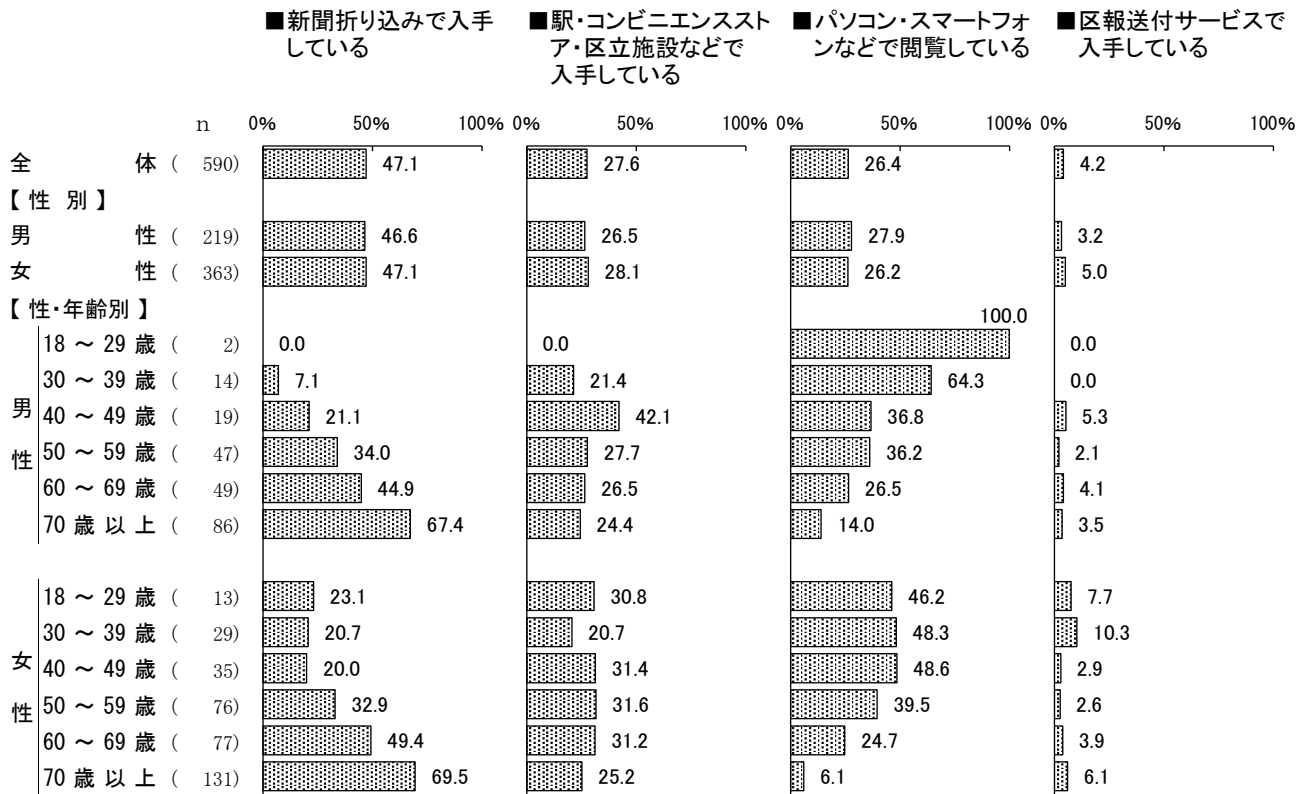
図1－10－9 『ねりま区報』の入手手段



『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方（590人）に、『ねりま区報』の入手手段を聞いたところ、「新聞折り込みで入手している」（47.1%）が5割近くと最も多く、次いで「駅・コンビニエンスストア・区立施設などで入手している」（27.6%）、「パソコン・スマートフォンなどで閲覧している」（26.4%）の順となっている。

過去の調査と比較すると、「パソコン・スマートフォンなどで閲覧している」は前回調査（令和5年度）より17.1ポイント増加している。一方、「新聞折り込みで入手している」は前回調査（令和5年度）より15.2ポイント減少している。（図1－10－9）

図 1-10-10 『ねりま区報』の入手手段－性別／性・年齢別



性別にみると、『ねりま区報』の入手手段に大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、「新聞折り込みで入手している」はおおむね年代が上がるほど割合が多くなっており、女性70歳以上で7割、男性70歳以上で7割近くと多くなっている。

(図 1-10-10)

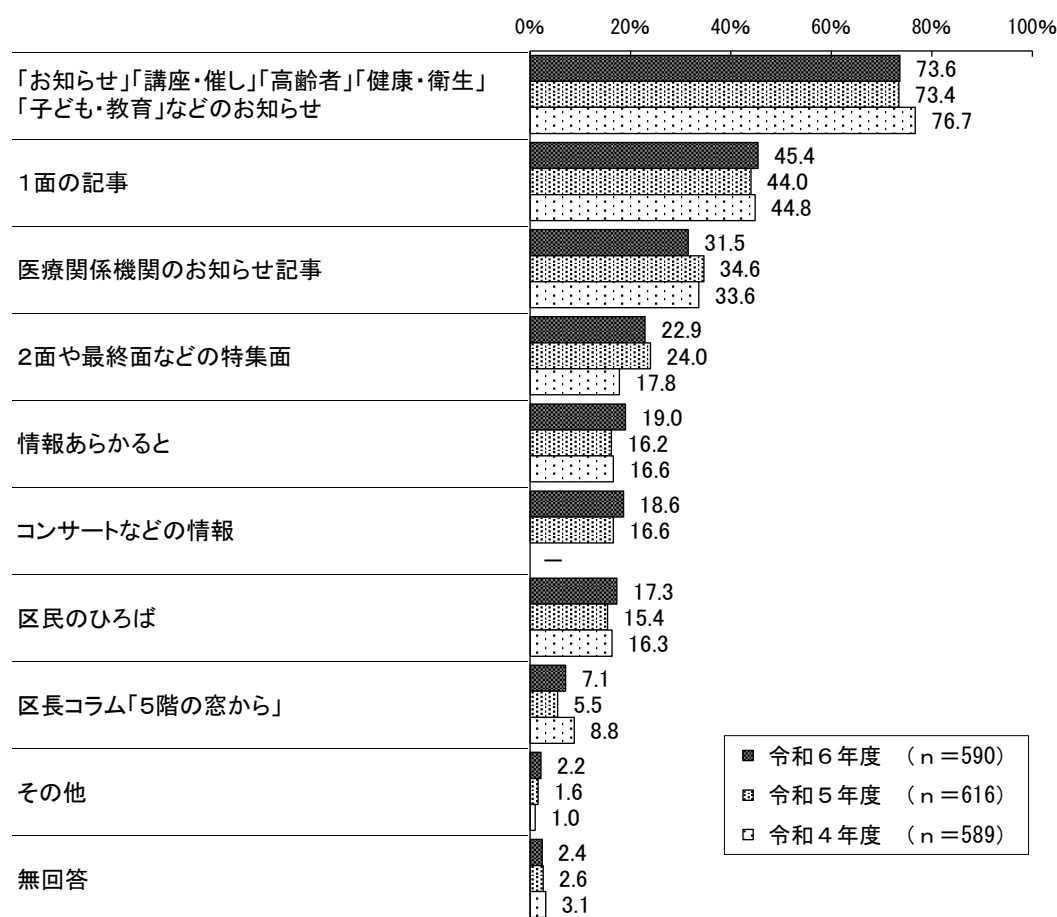
(10-3) 『ねりま区報』でよく閲覧している記事

◇「「お知らせ」「講座・催し」「高齢者」「健康・衛生」「子ども・教育」などのお知らせ」が7割を超える

【問13で「1 詳しく読んでいます」または「2 必要な記事は読んでいます」と答えた方へ】

問13-3 『ねりま区報』でよくご覧になる記事はどこですか。(〇は3つまで)

図1-10-11 『ねりま区報』でよく閲覧している記事

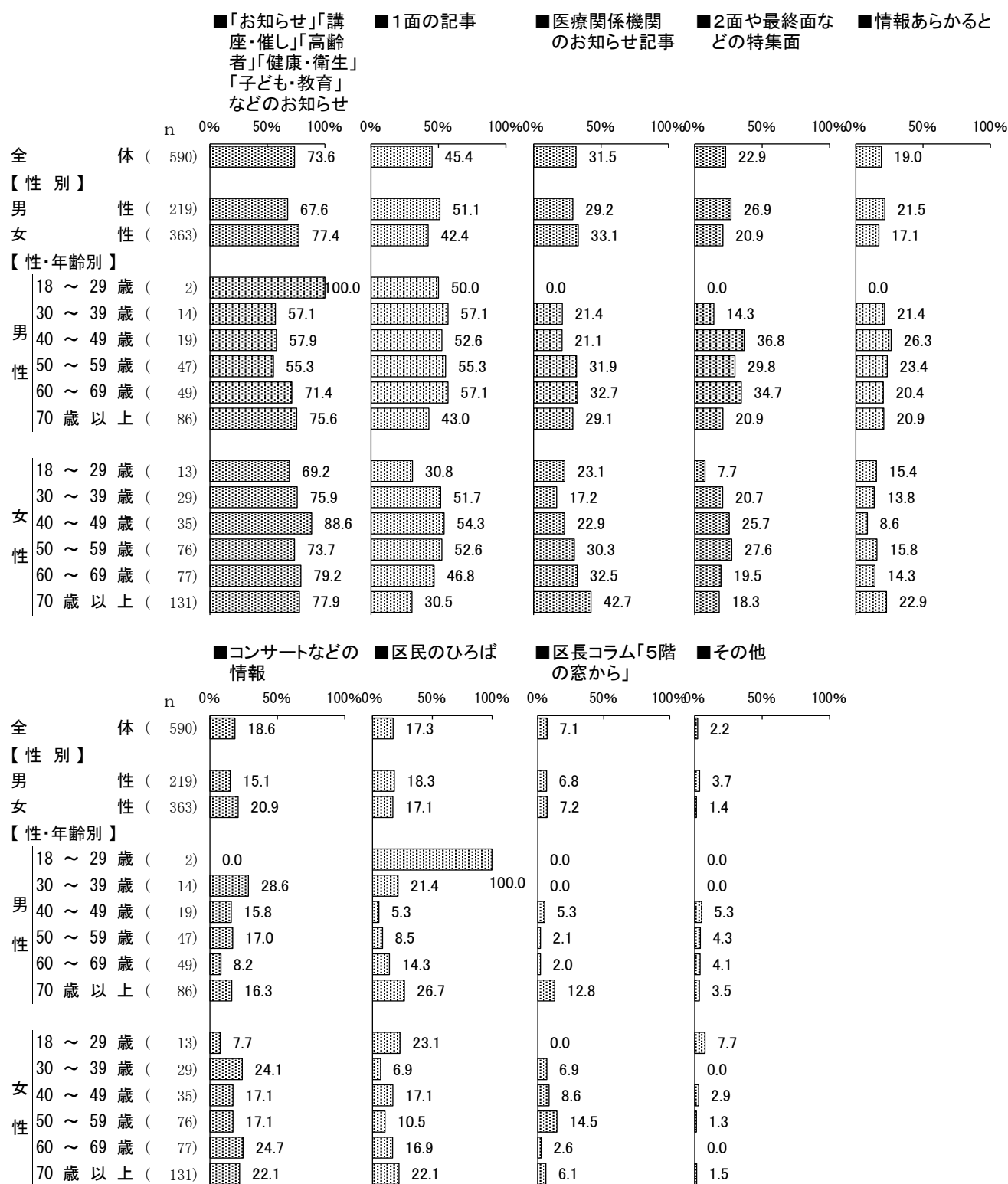


注1) 「コンサートなどの情報」は令和5年度から追加された選択肢。

『ねりま区報』を「詳しく読んでいます」または「必要な記事は読んでいます」と答えた方(590人)に、『ねりま区報』でよく閲覧している記事を聞いたところ、「「お知らせ」「講座・催し」「高齢者」「健康・衛生」「子ども・教育」などのお知らせ」(73.6%)が7割を超えて最も多く、次いで「1面の記事」(45.4%)、「医療関係機関のお知らせ記事」(31.5%)、「2面や最終面などの特集面」(22.9%)などの順となっている。

過去の調査と比較すると、「情報あらかると」は前回調査(令和5年度)より2.8ポイント増加している。一方、「医療関係機関のお知らせ記事」は前回調査(令和5年度)より3.1ポイント減少している。(図1-10-11)

図 1-10-12 『ねりま区報』でよく閲覧している記事－性別／性・年齢別



性別にみると、「「お知らせ」「講座・催し」「高齢者」「健康・衛生」「子ども・教育」などのお知らせ」は女性の方が男性より9.8ポイント、「コンサートなどの情報」は5.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「1面の記事」は男性の方が女性より8.7ポイント、「2面や最終面などの特集面」は6.0ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「「お知らせ」「講座・催し」「高齢者」「健康・衛生」「子ども・教育」などのお知らせ」は女性40～49歳で9割近くと多くなっている。（図 1-10-12）

(10-4) 『ねりま区報』を読んでいない理由

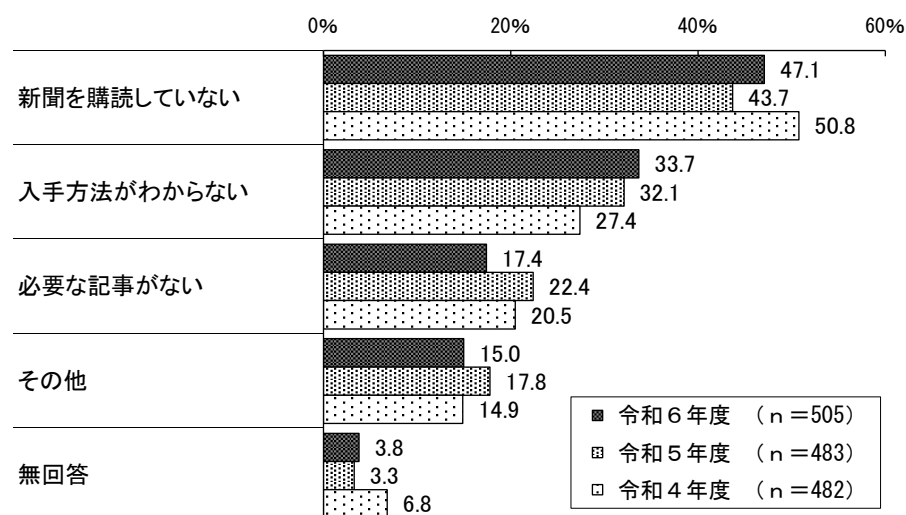
◇「新聞を購読していない」が5割近く

【問13で「3 あまり読んでいない」または「4 まったく読んでいない」と答えた方へ】

問13-4 あなたが、『ねりま区報』を読んでいない理由はなぜですか。

(○はいくつでも)

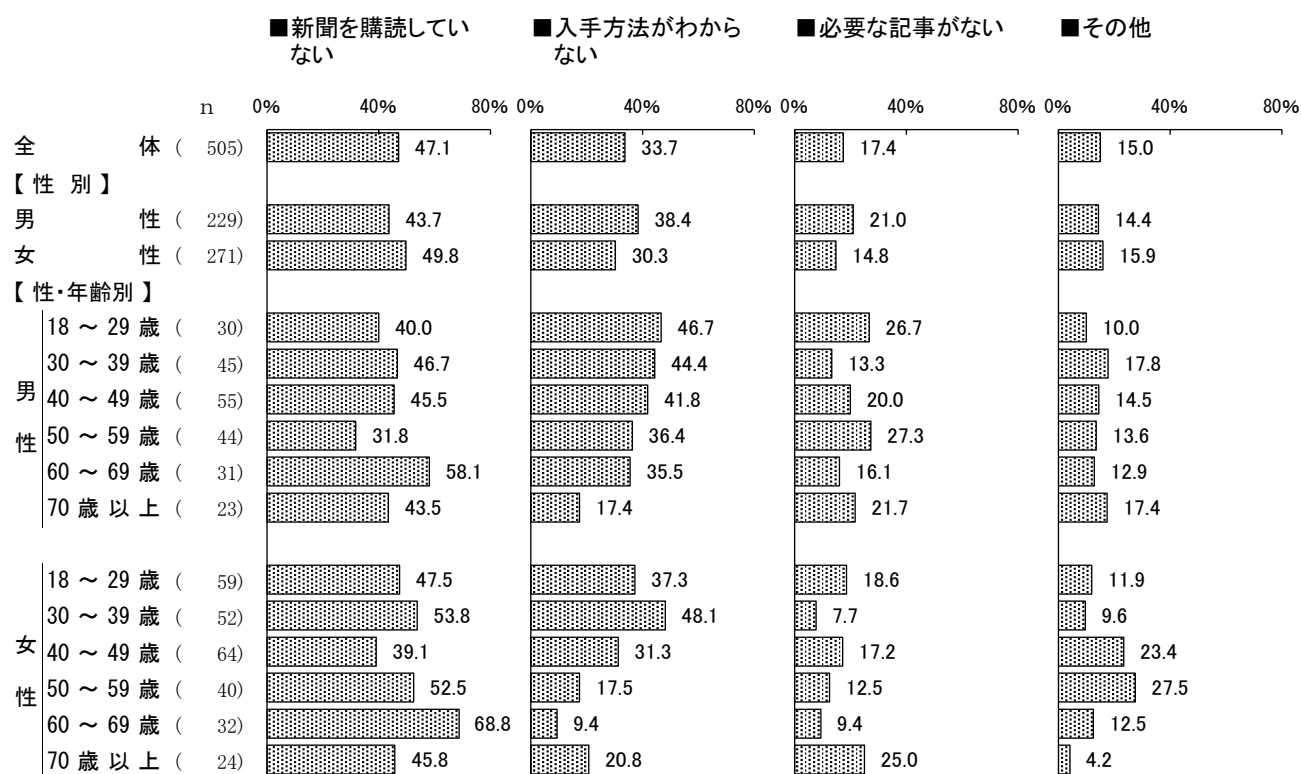
図1-10-13 『ねりま区報』を読んでいない理由



『ねりま区報』を「あまり読んでいない」または「まったく読んでいない」と答えた方（505人）に、その理由を聞いたところ、「新聞を購読していない」（47.1%）が5割近くと最も多く、次いで「入手方法がわからない」（33.7%）、「必要な記事がない」（17.4%）などの順となっている。

過去の調査と比較すると、「必要な記事がない」は前回調査（令和5年度）より5.0ポイント減少している。一方、「新聞を購読していない」は前回調査（令和5年度）より3.4ポイント増加している。（図1-10-13）

図 1-10-14 『ねりま区報』を読んでいない理由－性別／性・年齢別



性別にみると、「入手方法がわからない」は男性の方が女性より8.1ポイント、「必要な記事がない」は6.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「新聞を購読していない」は女性の方が男性より6.1ポイント高くなっている。

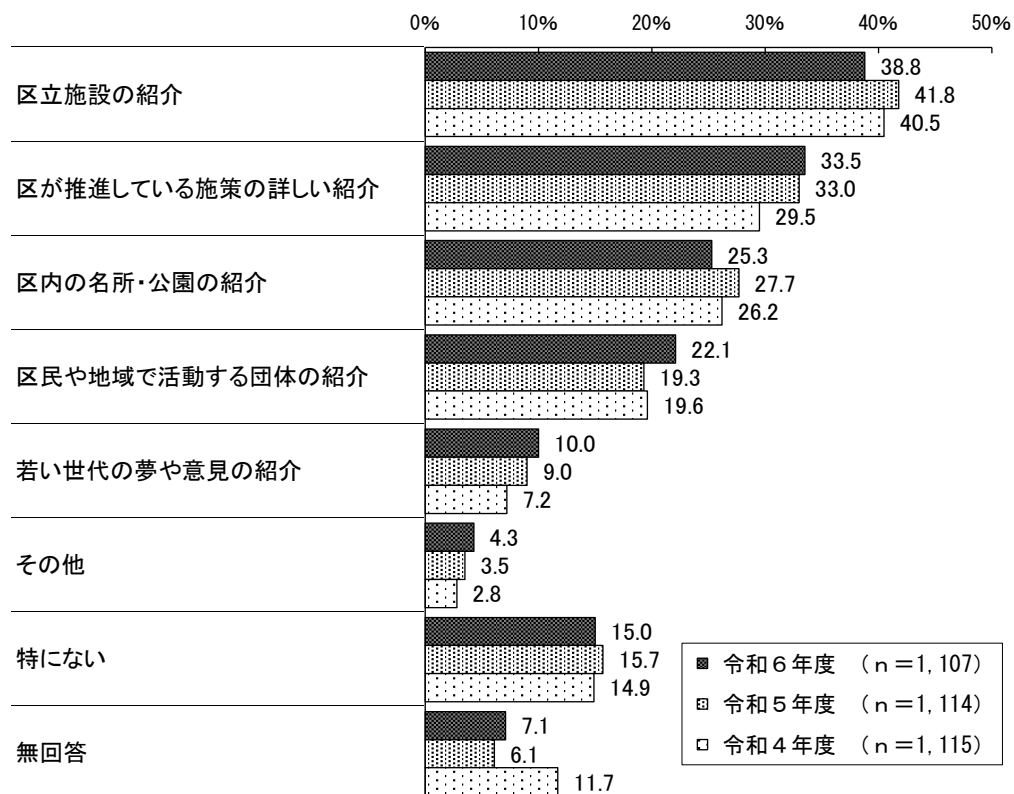
性・年齢別にみると、「新聞を購読していない」は女性60～69歳で7割近くと多くなっている。「入手方法がわからない」は女性30～39歳で5割近くと多くなっている。（図 1-10-14）

(11) 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）

◇「区立施設の紹介」が4割近く

問14 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）はありますか。
（○は2つまで）

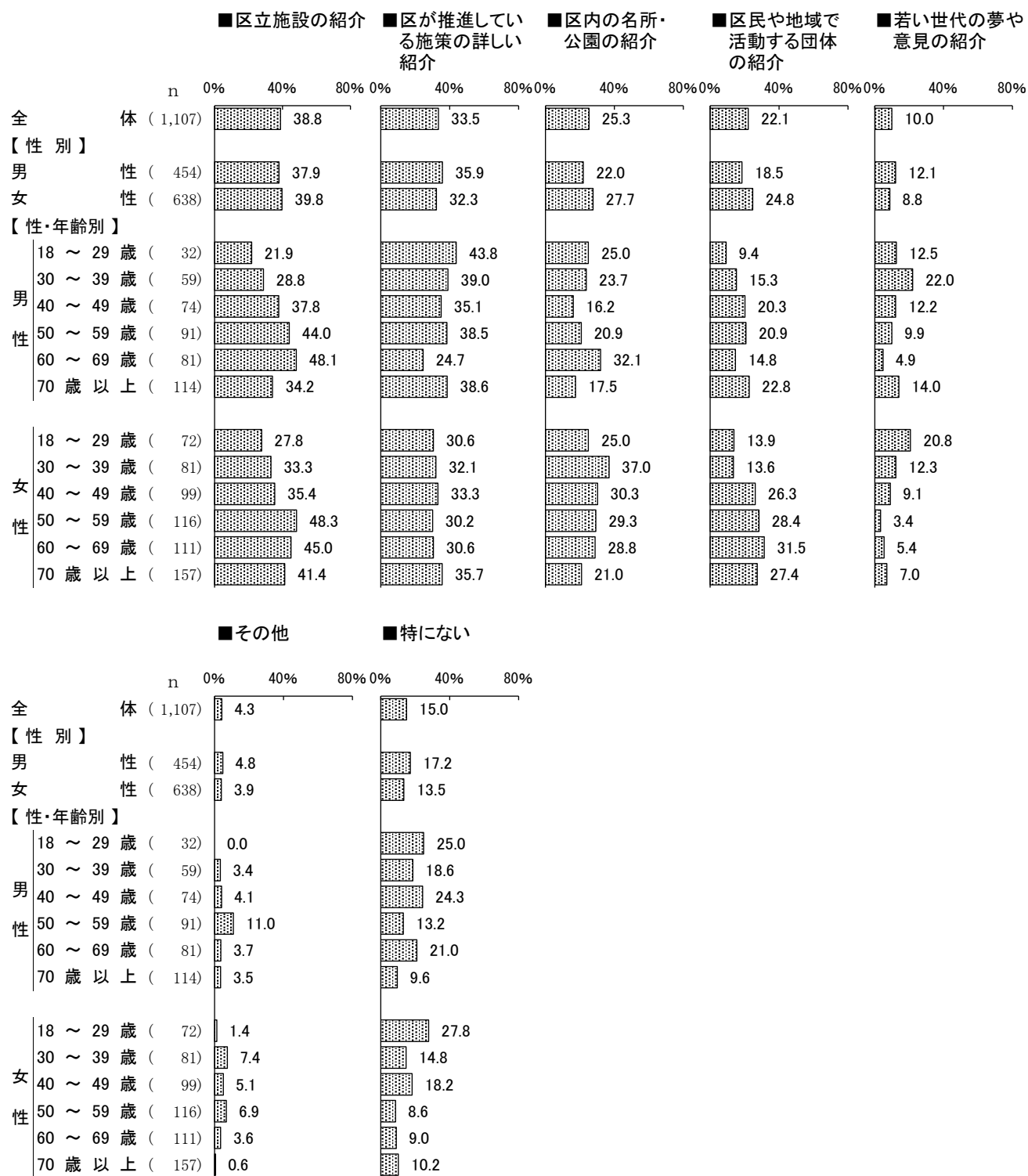
図1-11-1 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）



『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）を聞いたところ、「区立施設の紹介」（38.8%）が4割近くと最も多く、次いで「区が推進している施策の詳しい紹介」（33.5%）、「区内の名所・公園の紹介」（25.3%）、「区民や地域で活動する団体の紹介」（22.1%）などの順となっている。

過去の調査と比較すると、「区立施設の紹介」は前回調査（令和5年度）より3.0ポイント減少している。一方、「区民や地域で活動する団体の紹介」は前回調査（令和5年度）より2.8ポイント増加している。（図1-11-1）

図 1-11-2 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）－性別／性・年齢別

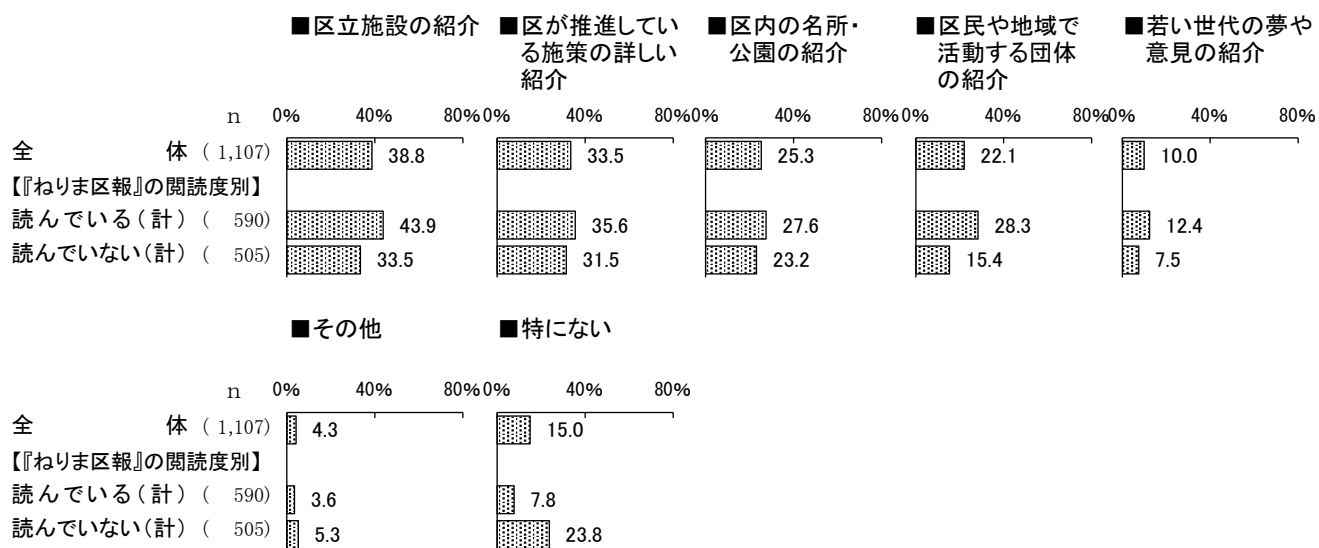


性別にみると、「区民や地域で活動する団体の紹介」は女性の方が男性より6.3ポイント、「区内の名所・公園の紹介」は5.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「区立施設の紹介」は男性60～69歳、女性50～59歳で5割近くと多くなっている。「区が推進している施策の詳しい紹介」は男性18～29歳で4割を超えて多くなっている。「区内の名所・公園の紹介」は女性30～39歳で4割近くと多くなっている。

(図 1-11-2)

図 1-11-3 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）－『ねりま区報』の閲読度別



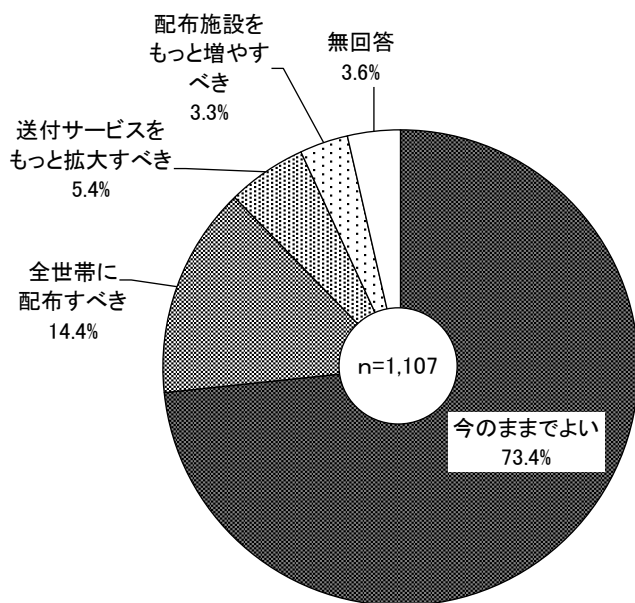
『ねりま区報』の閲読度別にみると、ほとんどの項目で『ねりま区報』を読んでいる人の方が読んでいない人より高くなっており、「区民や地域で活動する団体の紹介」で12.9ポイント、「区立施設の紹介」で10.4ポイント、それぞれ高くなっている。（図 1-11-3）

(12) 『ねりま区報』の配布方法の意向

◇「今のままでよい」が7割を超える

問15 『ねりま区報』は新聞折り込みに加え、区立施設、区内の全駅、コンビニエンスストアなどで配布しています。また、新聞を未購読で、前記の施設に取りに行くのが難しい方に送付サービスを行っています。区報の配布方法についてどう思いますか。（○は1つ）

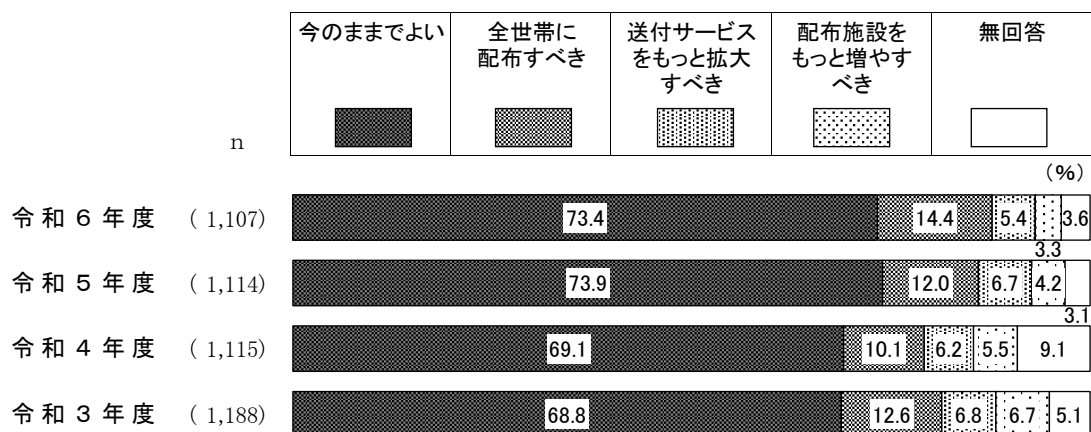
図1-12-1 『ねりま区報』の配布方法の意向



『ねりま区報』の配布方法の意向を聞いたところ、「今のままでよい」（73.4%）が7割を超えて最も多く、次いで「全世帯に配布すべき」（14.4%）、「送付サービスをもっと拡大すべき」（5.4%）、「配布施設をもっと増やすべき」（3.3%）の順となっている。

（図1-12-1）

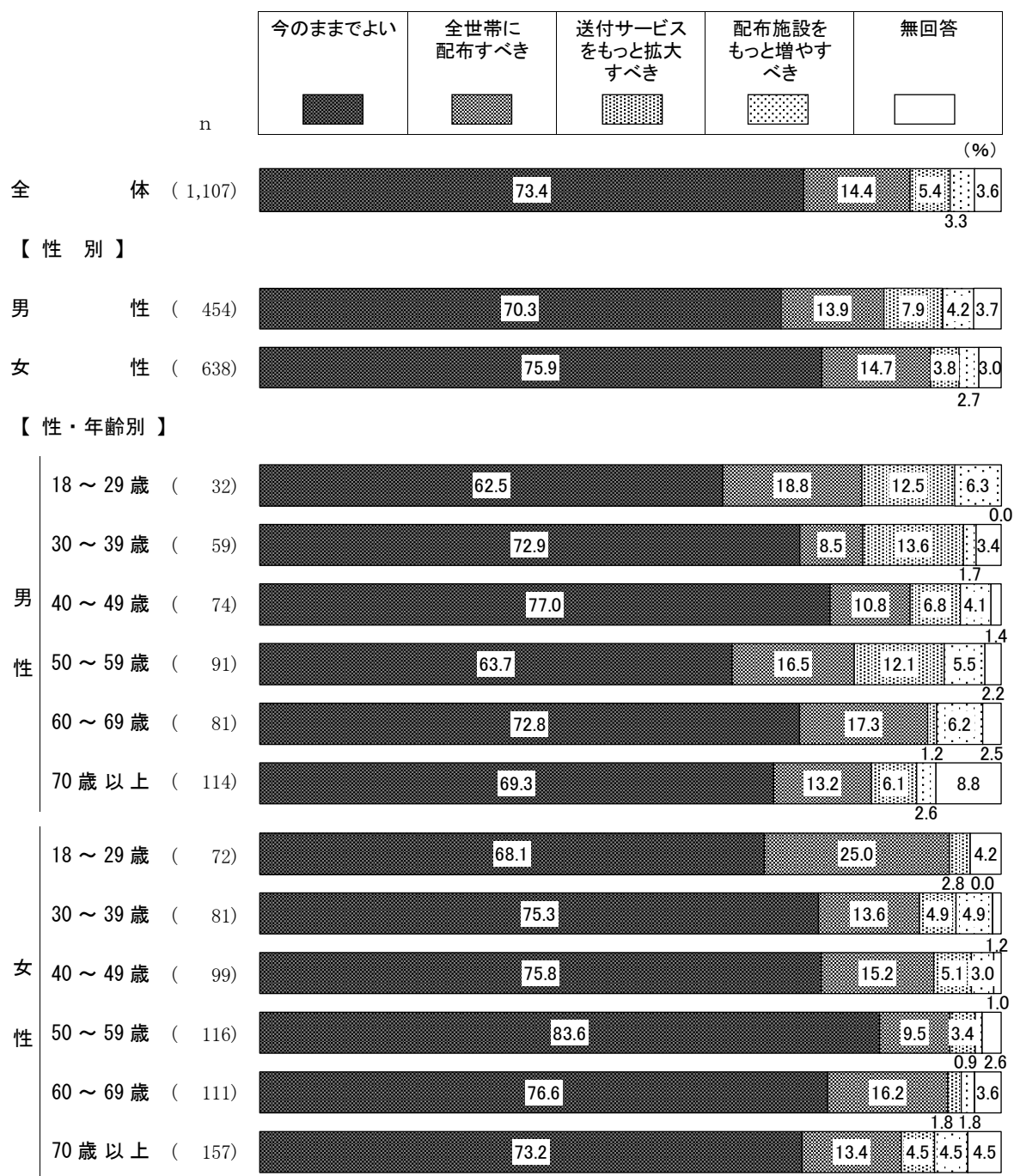
図1-12-2 『ねりま区報』の配布方法の意向一過年度比較



過去の調査と比較すると、前回調査（令和5年度）と大きな傾向の違いはみられない。

（図1-12-2）

図 1-12-3 『ねりま区報』の配布方法の意向－性別／性・年齢別

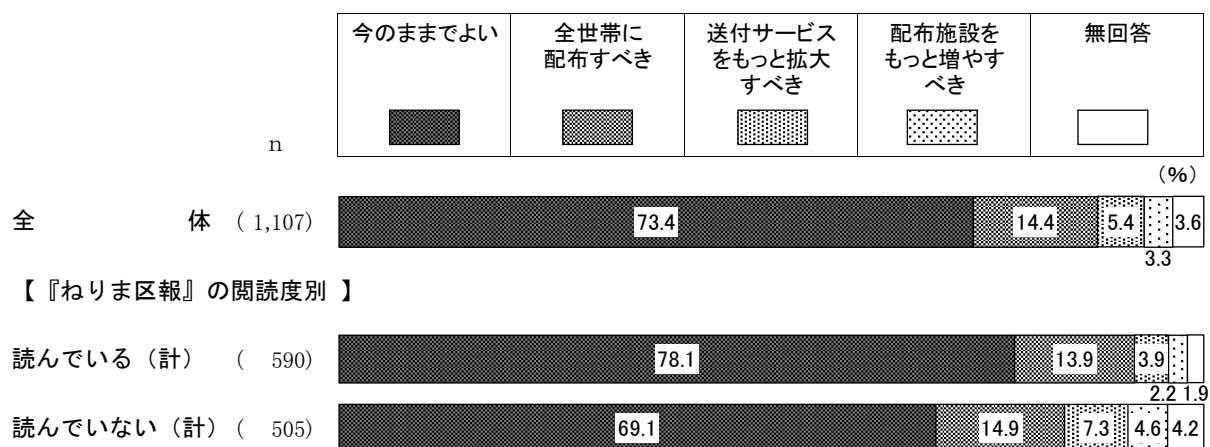


性別にみると、「今のままでよい」は女性の方が男性より5.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「今のままでよい」は女性50～59歳で8割を超えて多くなっている。「全世帯に配布すべき」は女性18～29歳で2割半ばと多くなっている。「送付サービスをもっと拡大すべき」は男性18～29歳、男性30～39歳、男性50～59歳で1割を超えている。

(図 1-12-3)

図 1-12-4 『ねりま区報』の配布方法の意向－『ねりま区報』の閲読度別



『ねりま区報』の閲読度別にみると、「今のままでよい」は『ねりま区報』を読んでいる人の方が読んでいない人より9.0ポイント高くなっている。一方、「送付サービスをもっと拡大すべき」は『ねりま区報』を読んでいない人の方が読んでいる人より3.4ポイント高くなっている。

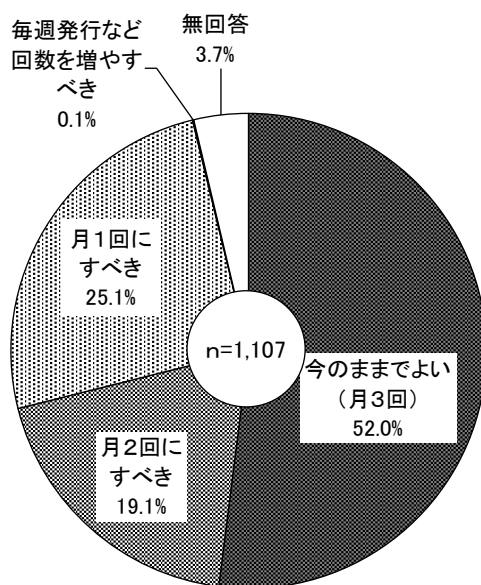
(図 1-12-4)

(13) 『ねりま区報』の発行回数の意向

◇「今のままでよい（月3回）」が5割を超える

問16 『ねりま区報』は月3回発行しています。東京23区では月3回、月2回が主流ですが、都外では月1回の発行が多くなっています。区報の発行回数についてどう思いますか。（○は1つ）

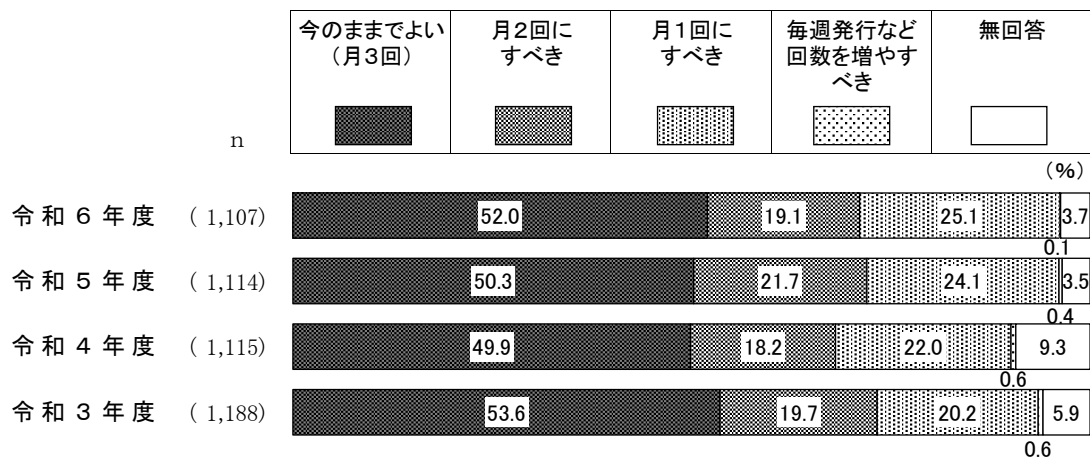
図1-13-1 『ねりま区報』の発行回数の意向



『ねりま区報』の発行回数の意向を聞いたところ、「今のままでよい（月3回）」（52.0%）が5割を超えて最も多く、次いで「月1回にすべき」（25.1%）、「月2回にすべき」（19.1%）、「毎週発行など回数を増やすべき」（0.1%）の順となっている。

(図1-13-1)

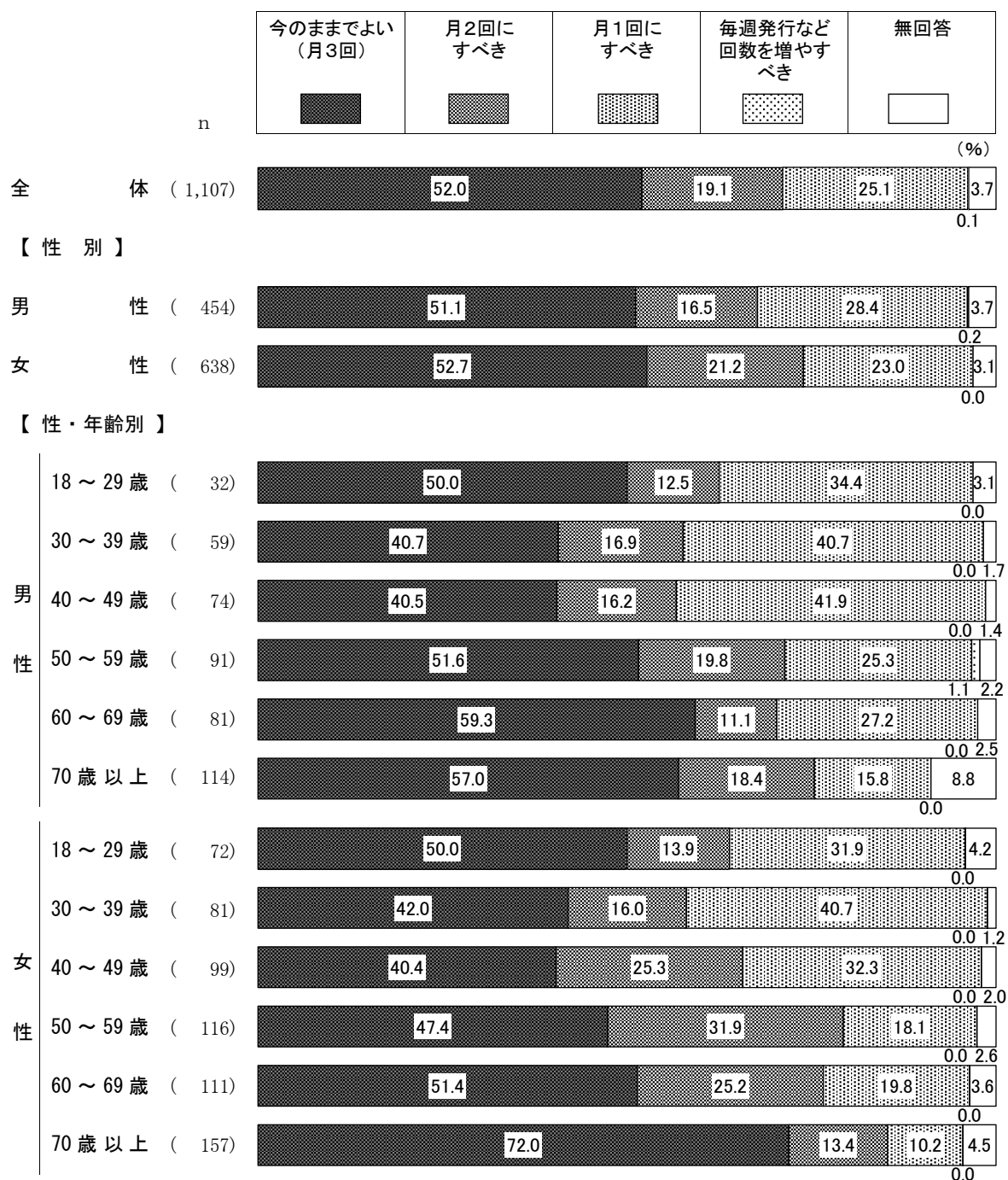
図1-13-2 『ねりま区報』の発行回数の意向一過年度比較



過去の調査と比較すると、前回調査（令和5年度）と大きな傾向の違いはみられない。

(図1-13-2)

図 1-13-3 『ねりま区報』の発行回数の意向－性別／性・年齢別

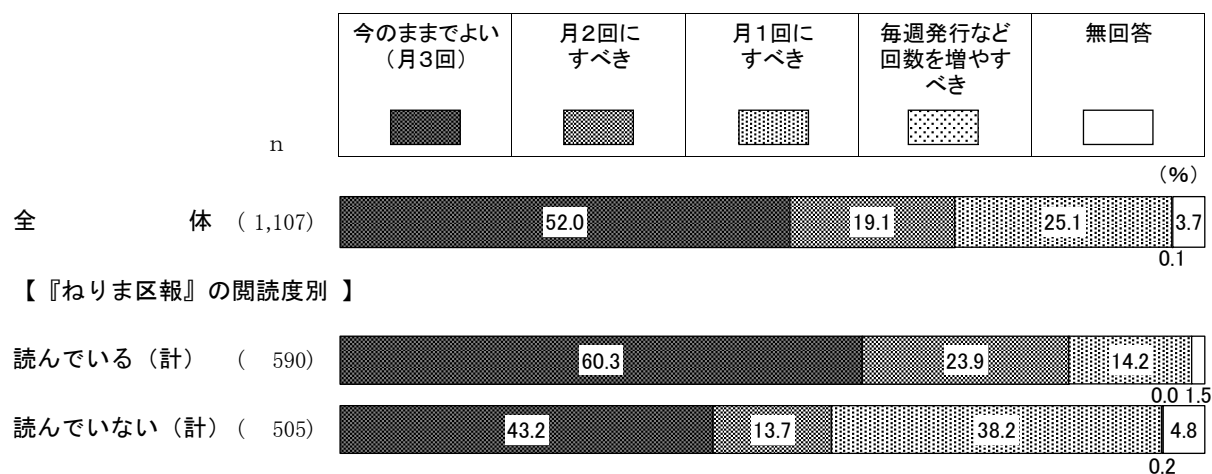


性別にみると、「月1回にすべき」は男性の方が女性より5.4ポイント高くなっている。一方、「月2回にすべき」は女性の方が男性より4.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「今のままでよい（月3回）」は女性70歳以上で7割を超えて多くなっている。「月2回にすべき」は女性50～59歳で3割を超えて多くなっている。「月1回にすべき」は男性40～49歳で4割を超え、男性30～39歳、女性30～39歳で約4割と多くなっている。

(図1-13-3)

図 1-13-4 『ねりま区報』の発行回数の意向－『ねりま区報』の閲読度別



『ねりま区報』の閲読度別にみると、「今のままでよい（月3回）」は『ねりま区報』を読んでいる人の方が読んでいない人より17.1ポイント高くなっている。一方、「月1回にすべき」は『ねりま区報』を読んでいない人の方が読んでいる人より24.0ポイント高くなっている。

(図 1-13-4)

(14) 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の認知度

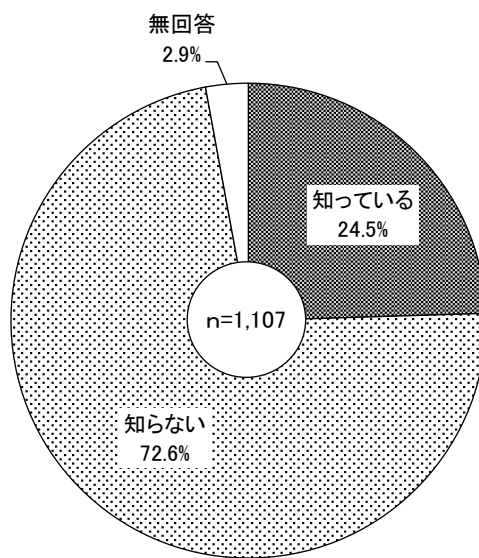
◇「知っている」が2割半ば

問17 あなたは、練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を知っていますか。

(○は1つ)

※練馬区情報番組『ねりまほっとライン』は、ケーブルテレビJ：COM東京（デジタル：11チャンネル）およびYouTube練馬区公式チャンネルで、区の事業やできごとなどを紹介する情報番組です。
※放送時間は、毎日午前9時、正午の2回です（1回10分）。

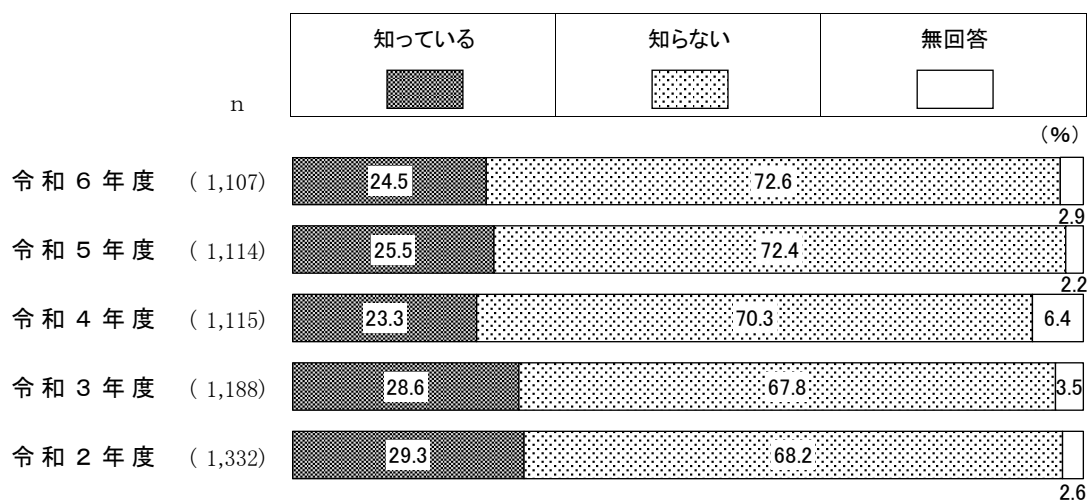
図1-14-1 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の認知度



練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を知っているか聞いたところ、「知っている」(24.5%)が2割半ばとなっている。一方、「知らない」(72.6%)は7割を超えている。

(図1-14-1)

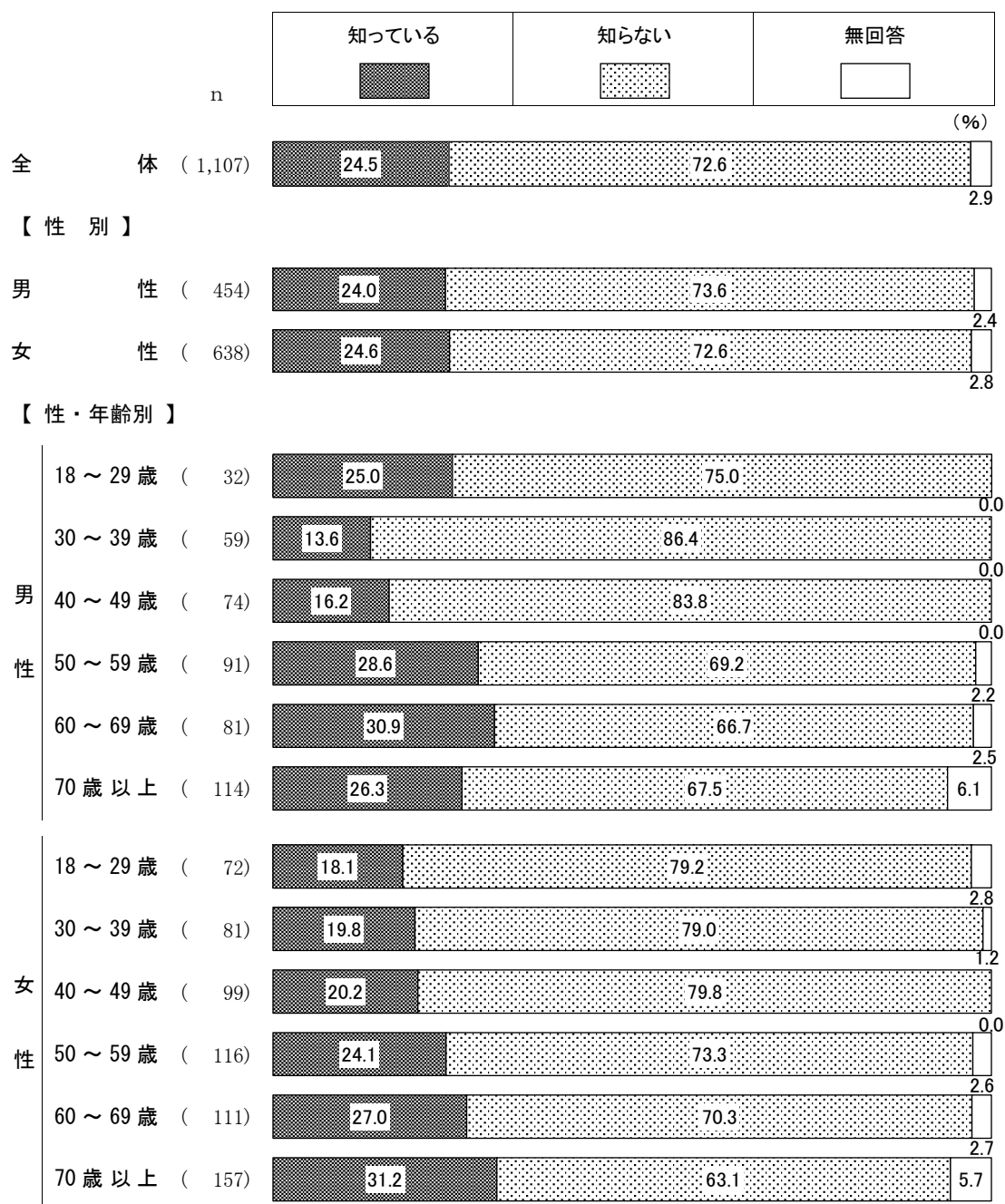
図1-14-2 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の認知度一過年度比較



過去の調査と比較すると、前回調査（令和5年度）と大きな傾向の違いはみられない。

(図1-14-2)

図 1-14-3 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の認知度－性別／性・年齢別



性別にみると、練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の認知度に大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、「知っている」は女性70歳以上で3割を超えて多くなっている。一方、「知らない」は男性30～39歳で8割半ばと多くなっている。（図1-14-3）

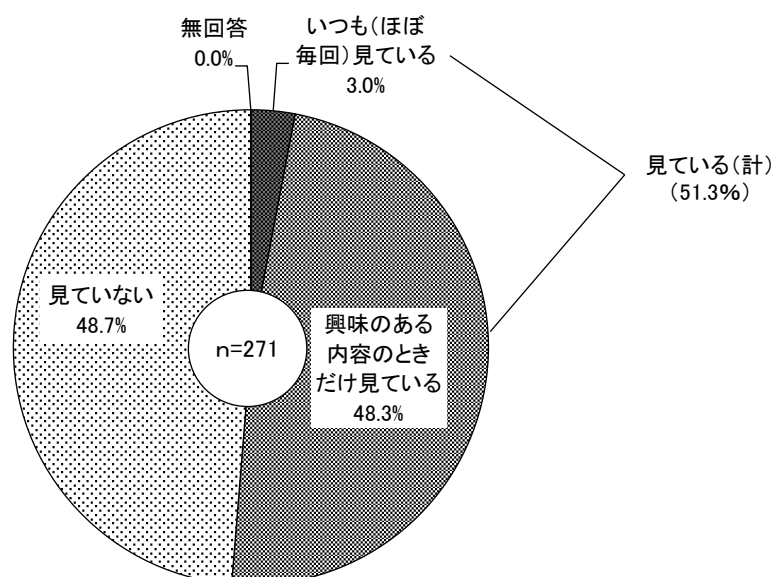
(14-1) 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の視聴度

◇『見ている』が5割を超える

【問17で「1 知っている」と答えた方へ】

問17-1 あなたは、練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を見ていますか。
(○は1つ)

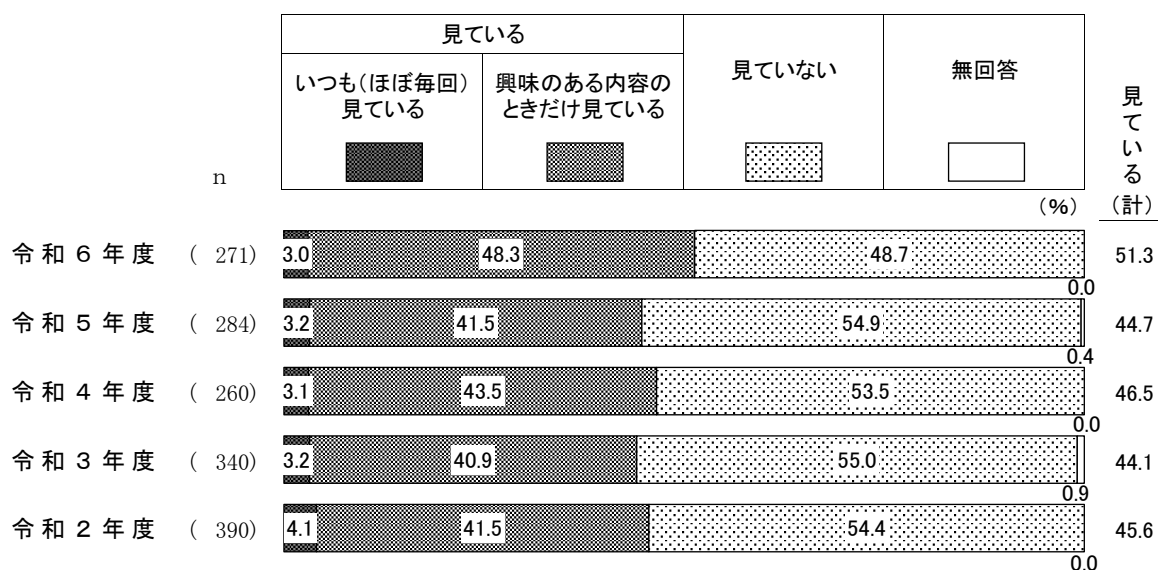
図1-14-4 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の視聴度



練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を「知っている」と答えた方(271人)に、番組の視聴度を聞いたところ、「いつも(ほぼ毎回)見ている」(3.0%)と「興味のある内容のときだけ見ている」(48.3%)を合わせた『見ている』(51.3%)が5割を超えている。

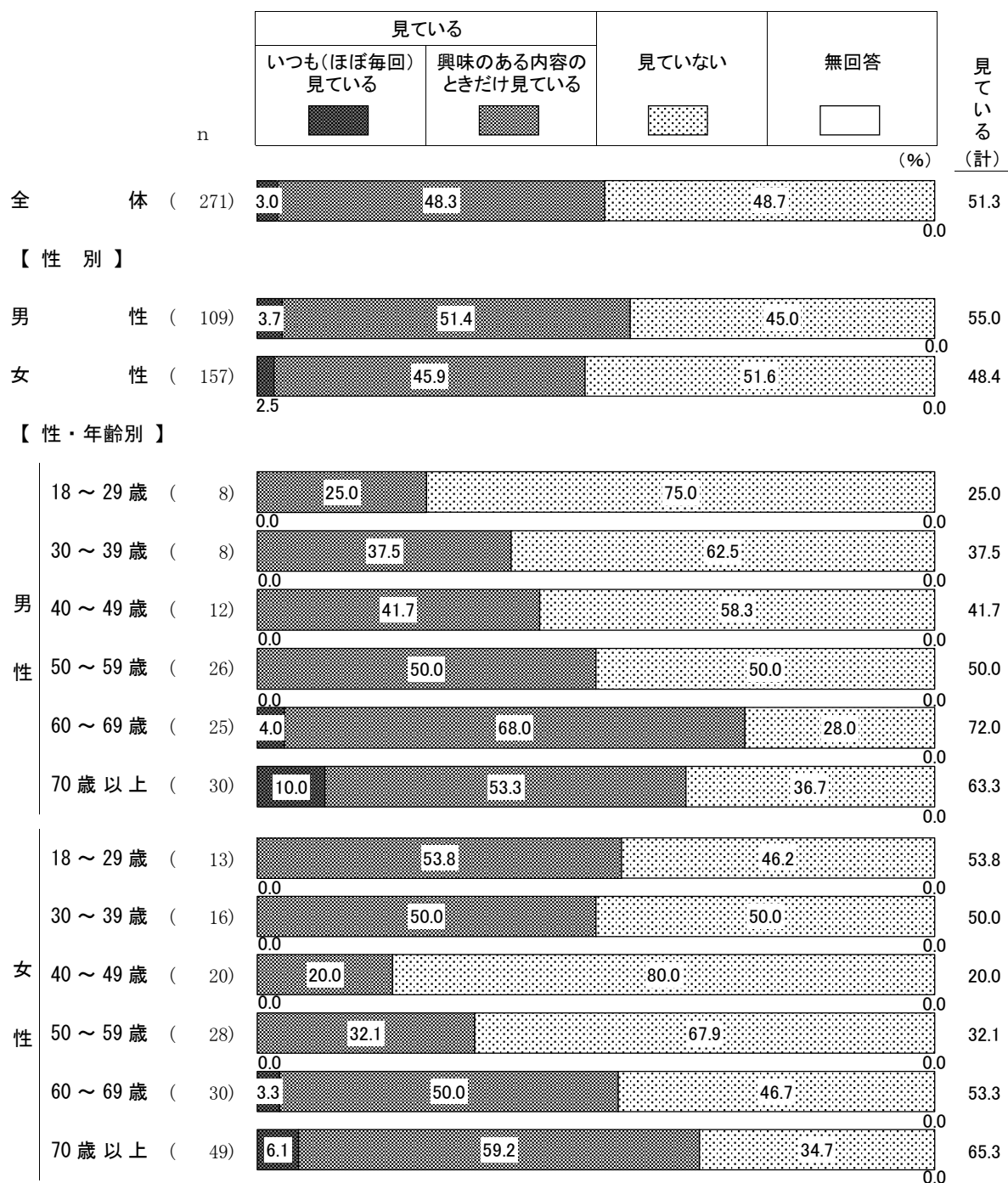
(図1-14-4)

図1-14-5 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の視聴度—過年度比較



過去の調査と比較すると、『見ている』は前回調査(令和5年度)より6.6ポイント増加している。(図1-14-5)

図 1-14-6 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の視聴度－性別／性・年齢別



性別にみると、『見ている』は男性の方が女性より6.6ポイント高くなっている。

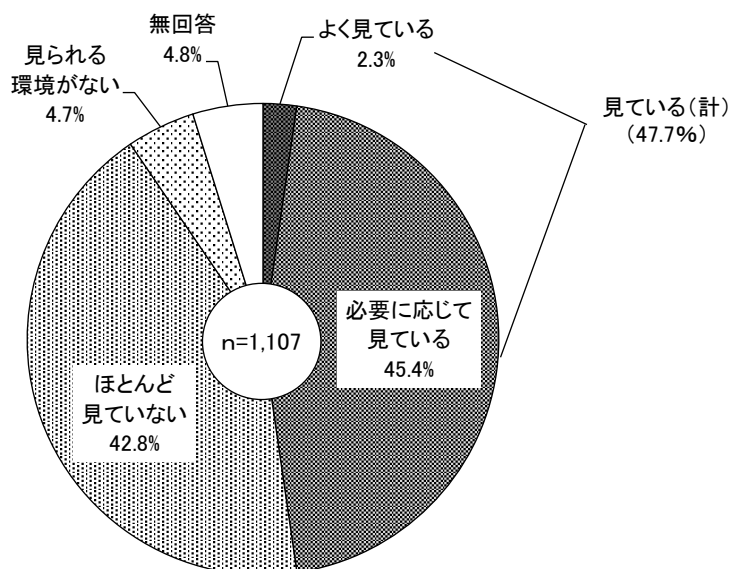
性・年齢別はn数が少ないので参考に図示する。(図 1-14-6)

(15) 『区ホームページ』の閲覧状況

◇『見ている』が5割近く

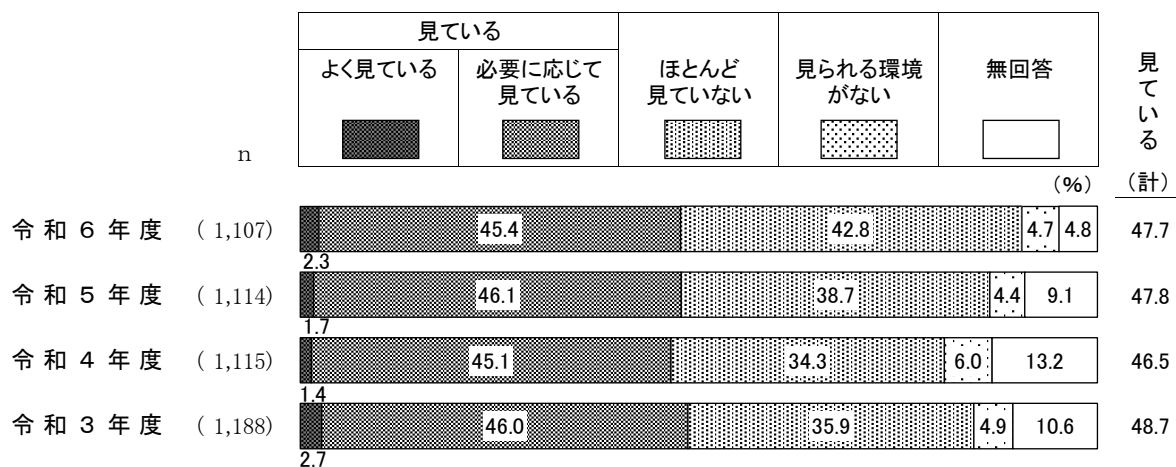
問18 あなたは、『区ホームページ』をどの程度閲覧していますか。(○は1つ)

図1-15-1 『区ホームページ』の閲覧状況



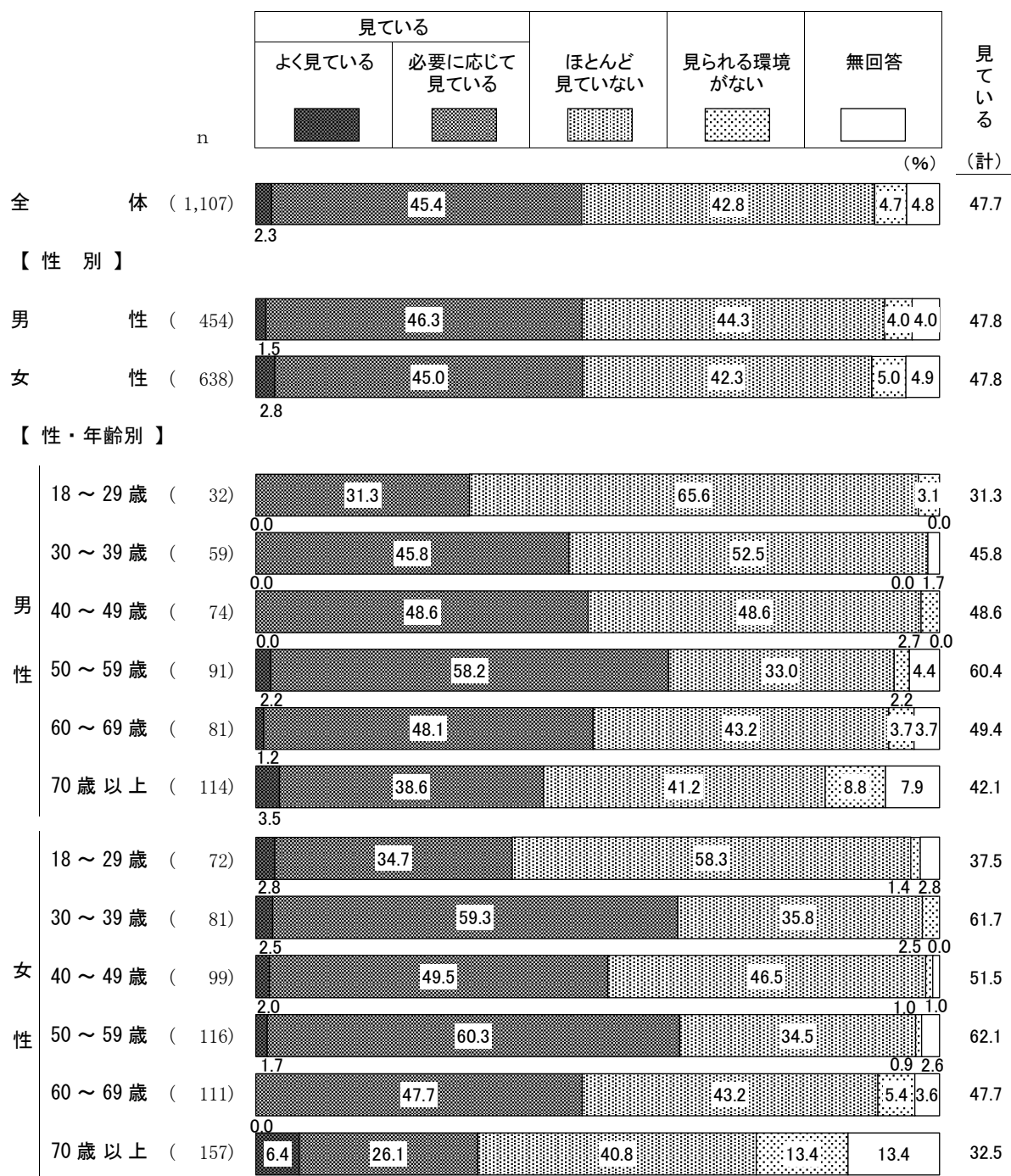
『区ホームページ』の閲覧状況を聞いたところ、「よく見ている」(2.3%)と「必要に応じて見ている」(45.4%)を合わせた、『見ている』(47.7%)が5割近くとなっている。一方、「ほとんど見ていない」(42.8%)は4割を超えている。また、「見られる環境がない」(4.7%)はわずかとなっている。(図1-15-1)

図1-15-2 『区ホームページ』の閲覧状況－過年度比較



過去の調査と比較すると、「ほとんど見ていない」は前回調査(令和5年度)より4.1ポイント増加している。(図1-15-2)

図 1-15-3 『区ホームページ』の閲覧状況－性別／性・年齢別



性別にみると、『区ホームページ』の閲覧状況に大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、『見ている』は女性30～39歳、女性50～59歳で6割を超えて多くなっている。一方、「ほとんど見ていない」は男性18～29歳で6割半ばと多くなっている。

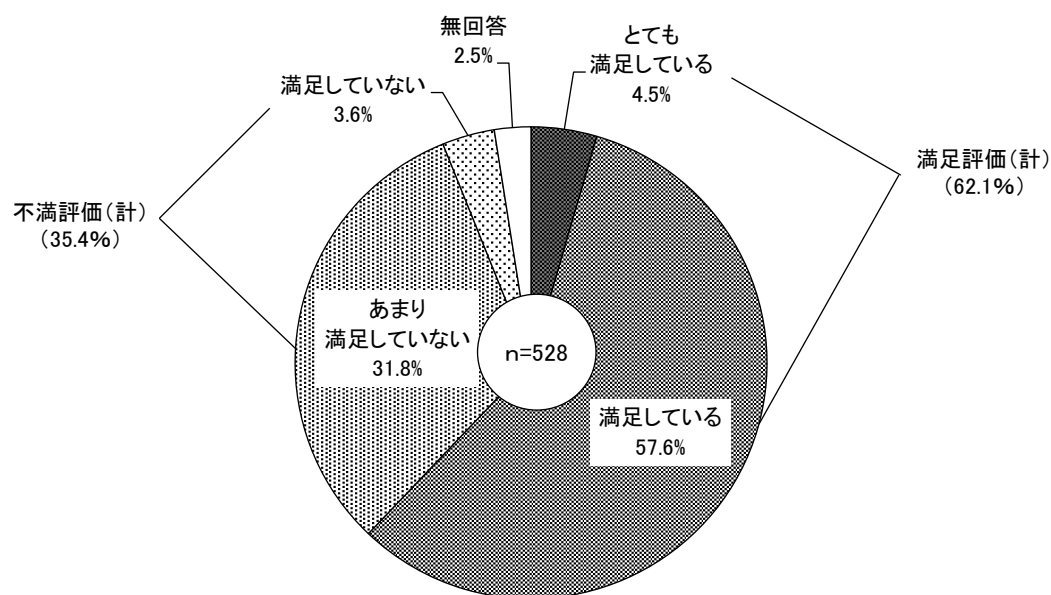
(図 1-15-3)

(15-1) 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度

◇『満足評価』が6割を超える

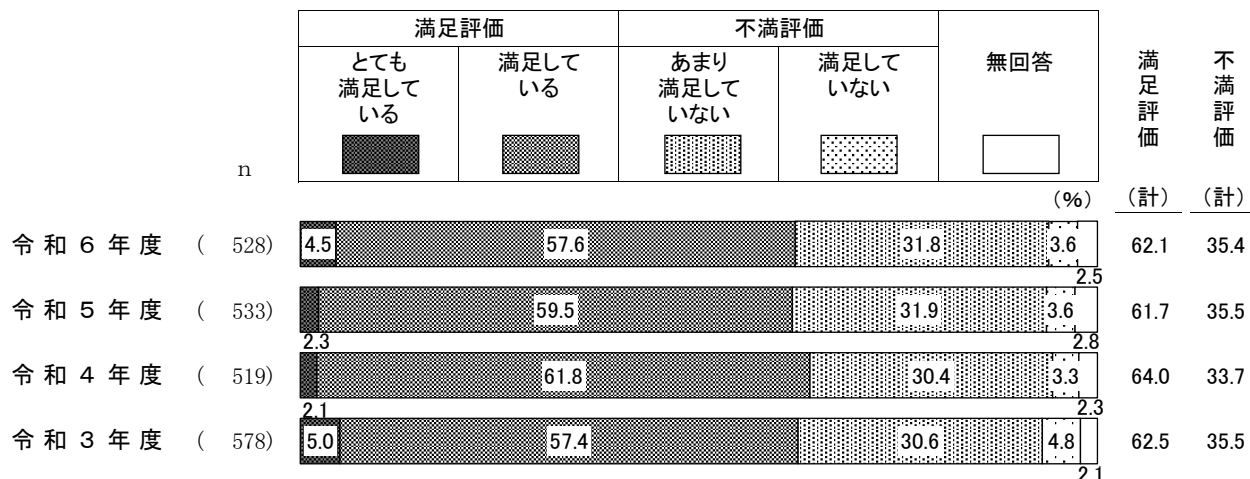
【問18で「1 よく見ている」「2 必要に応じて見ている」と答えた方へ】
問18-1 『区ホームページ』で閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度はどの程度ですか。(〇は1つ)

図1-15-4 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度



『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(528人)に閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度を聞いたところ、「とても満足している」(4.5%)と「満足している」(57.6%)を合わせた『満足評価』(62.1%)が6割を超えている。一方、「あまり満足していない」(31.8%)と「満足していない」(3.6%)を合わせた『不満評価』(35.4%)は3割半ばとなっている。(図1-15-4)

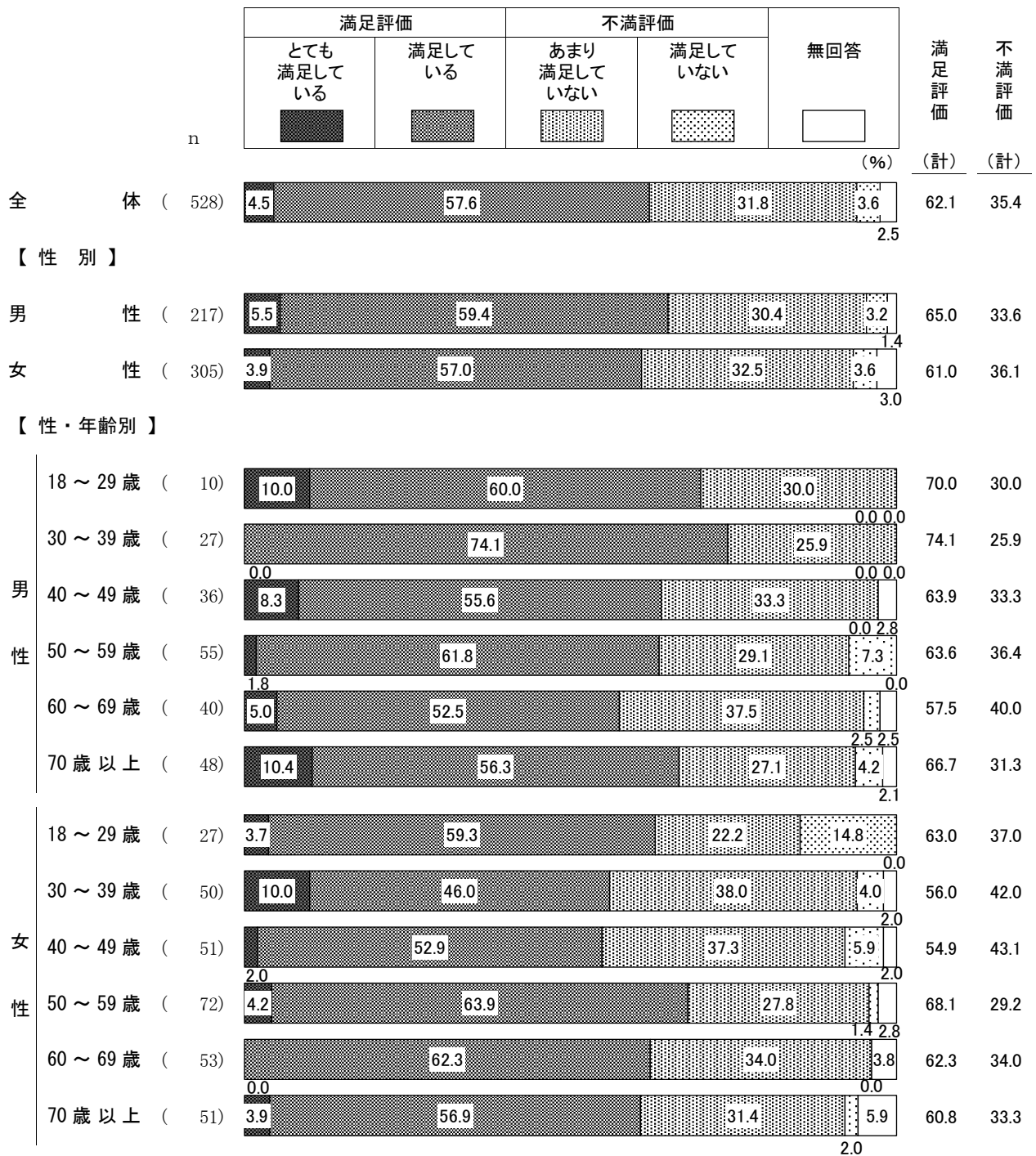
図1-15-5 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度一過年度比較



過去の調査と比較すると、前回調査(令和5年度)と大きな傾向の違いはみられない。

(図1-15-5)

図 1-15-6 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度－性別／性・年齢別



性別にみると、『満足評価』は男性の方が女性より4.0ポイント高くなっている。

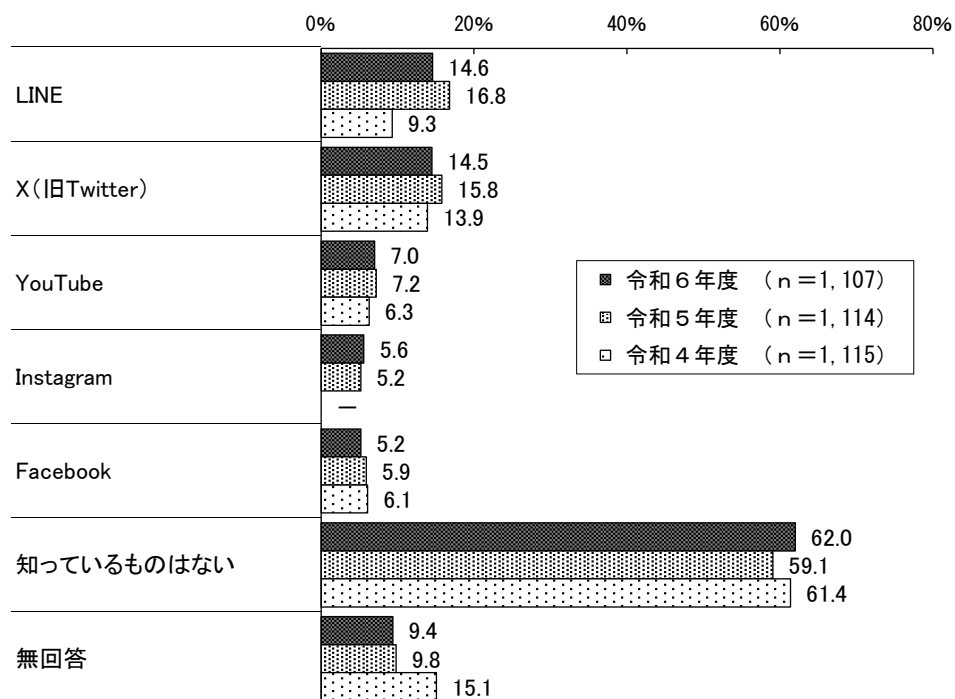
性・年齢別にみると、『満足評価』は女性50～59歳で7割近くと多くなっている。一方、『不満評価』は女性30～39歳、女性40～49歳で4割を超えて多くなっている。(図1-15-6)

(16) 知っている練馬区公式SNSアカウント

◇「LINE」、「X(旧Twitter)」が1割半ば

問19 あなたが知っている練馬区公式SNSアカウントをお選びください。
(〇はいくつでも)

図1-16-1 知っている練馬区公式SNSアカウント

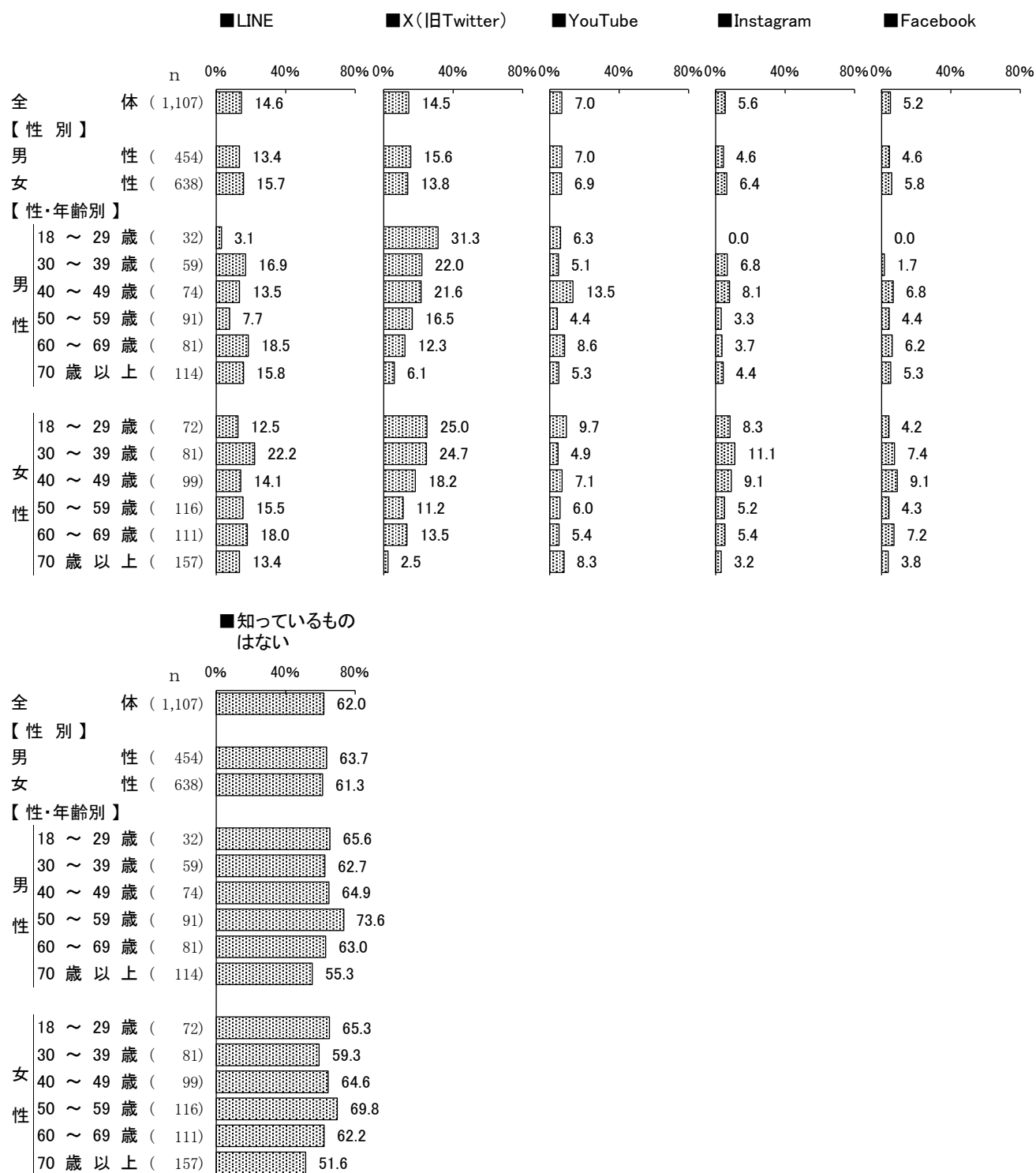


注1) 「Instagram」は令和5年度から追加された選択肢。

知っている練馬区公式SNSアカウントを聞いたところ、「LINE」(14.6%)が1割半ばと最も多く、次いで「X(旧Twitter)」(14.5%)、「YouTube」(7.0%)、「Instagram」(5.6%)などの順となっている。一方、「知っているものはない」(62.0%)は6割を超えている。

過去の調査と比較すると、「LINE」は前回調査(令和5年度)より2.2ポイント減少している。
(図1-16-1)

図 1-16-2 知っている練馬区公式SNSアカウントー性別／性・年齢別



性別にみると、「LINE」は女性の方が男性より2.3ポイント高くなっている。一方、「知っているものはない」は男性の方が女性より2.4ポイント高くなっている。

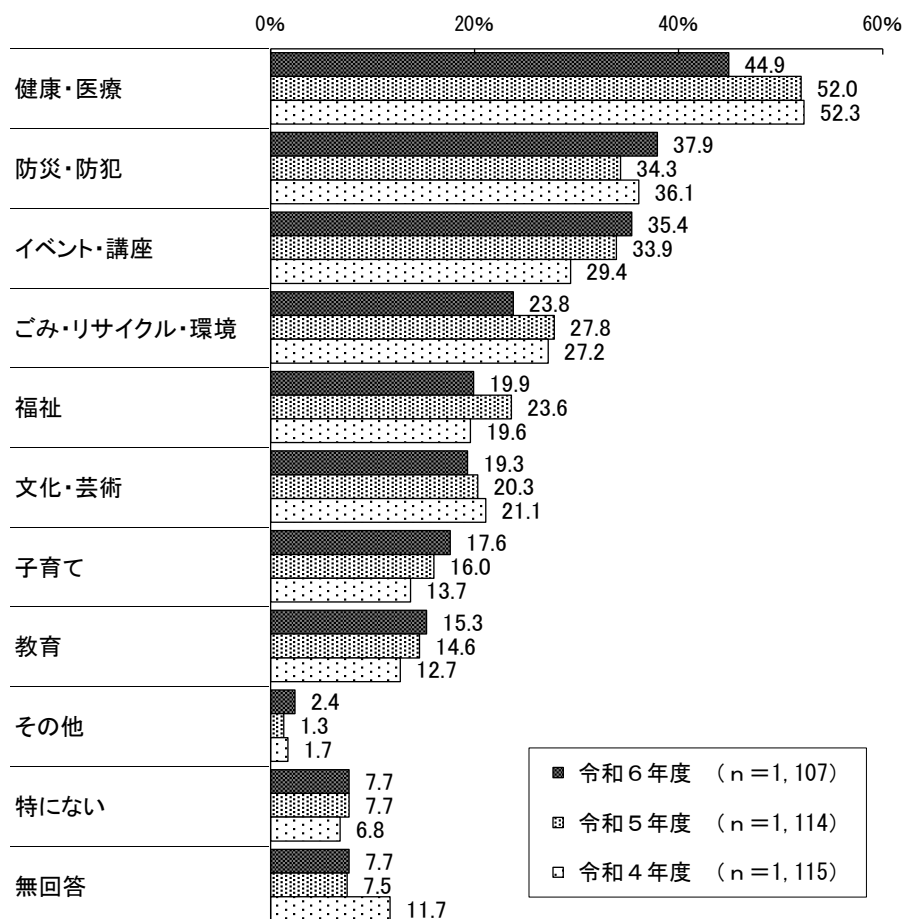
性・年齢別にみると、「X(旧Twitter)」は、男女ともにおおむね年代が下がるほど割合が多くなっており、男性18～29歳で3割を超えている。一方、「知っているものはない」は男性50～59歳で7割を超えて多くなっている。(図1-16-2)

(17) SNS等で区から受け取りたい情報

◇「健康・医療」が4割半ば

問20 区がSNS等を使用して情報発信をする場合、あなたが受け取りたいと思う情報は何か。（〇は3つまで）

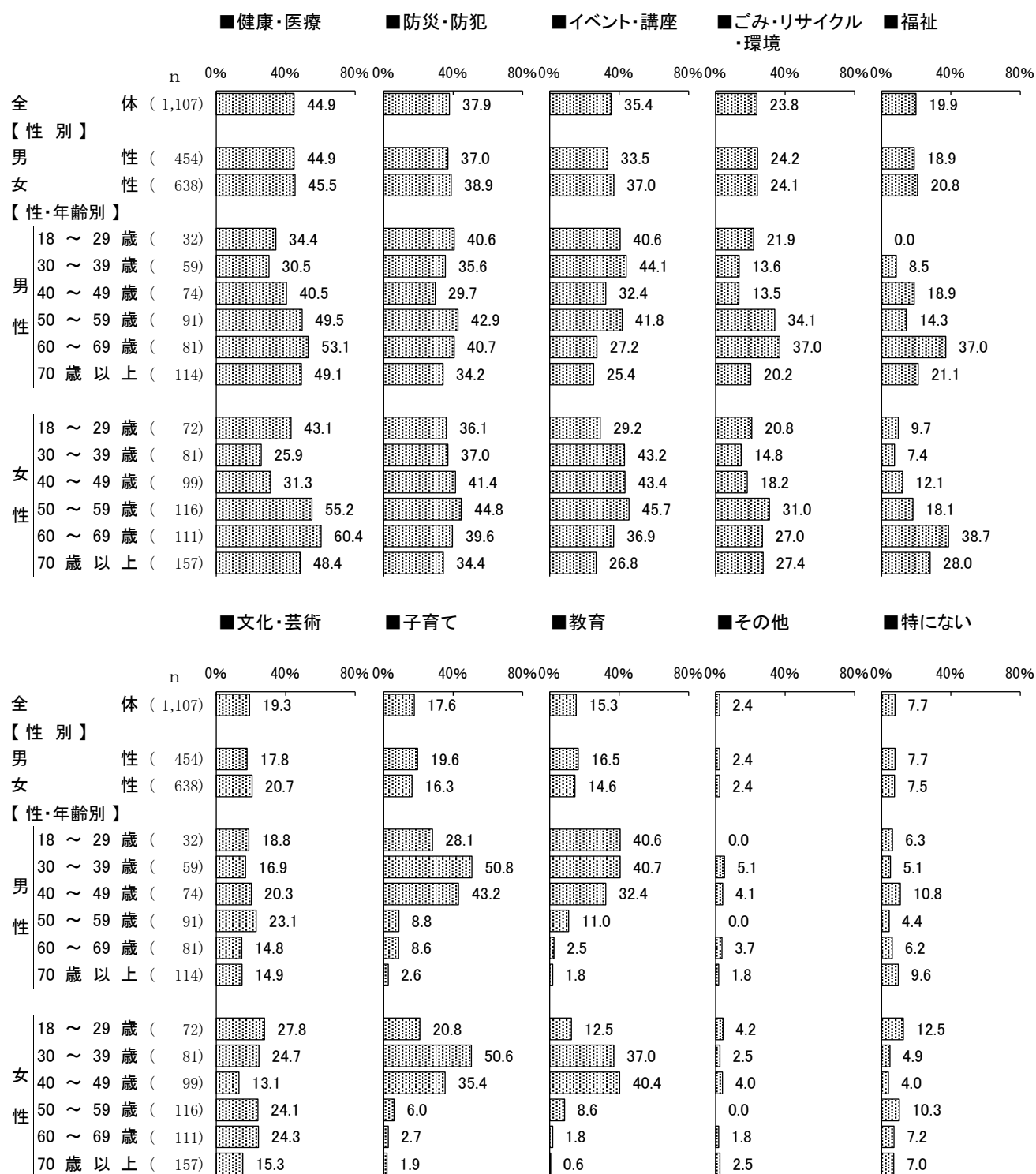
図1-17-1 SNS等で区から受け取りたい情報



SNS等で区から受け取りたい情報について聞いたところ、「健康・医療」（44.9%）が4割半ばと最も多く、次いで「防災・防犯」（37.9%）、「イベント・講座」（35.4%）、「ごみ・リサイクル・環境」（23.8%）などの順となっている。

過去の調査（令和5年度）と比較すると、「防災・防犯」は3.6ポイント増加している。一方、「健康・医療」は7.1ポイント、「ごみ・リサイクル・環境」は4.0ポイント、「福祉」は3.7ポイント、それぞれ減少している。（図1-17-1）

図1-17-2 SNS等で区から受け取りたい情報－性別／性・年齢別



性別にみると、「イベント・講座」は女性の方が男性より3.5ポイント高くなっている。一方、「子育て」は男性の方が女性より3.3ポイント高くなっている。

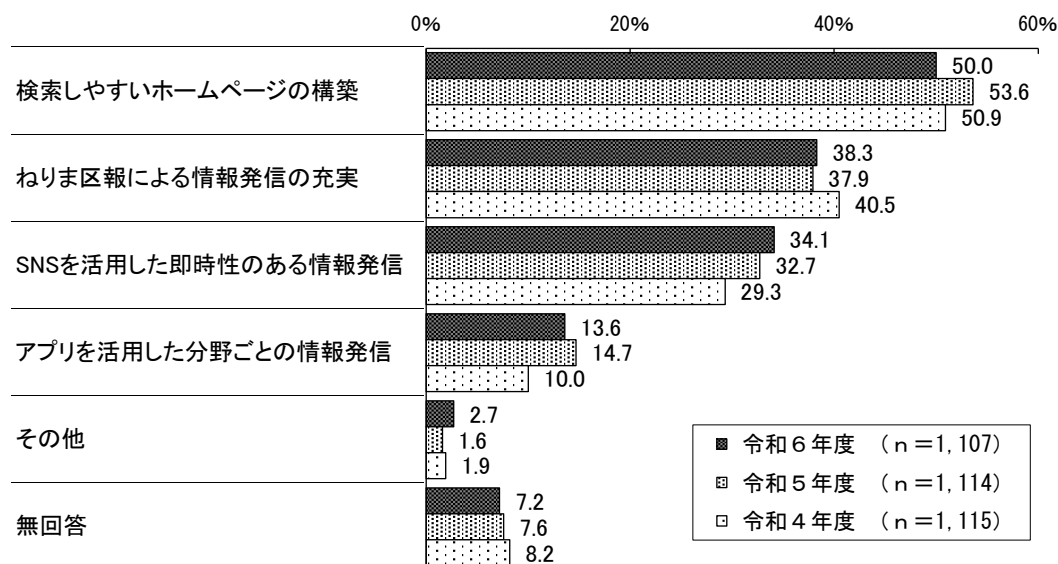
性・年齢別にみると、「健康・医療」は女性60～69歳で6割と多くなっている。「子育て」は男性30～39歳、女性30～39歳で約5割と多くなっている。（図1-17-2）

(18) 今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきこと

◇「検索しやすいホームページの構築」が5割

問21 今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきことは次のうち何だと思えますか。（○は2つまで）

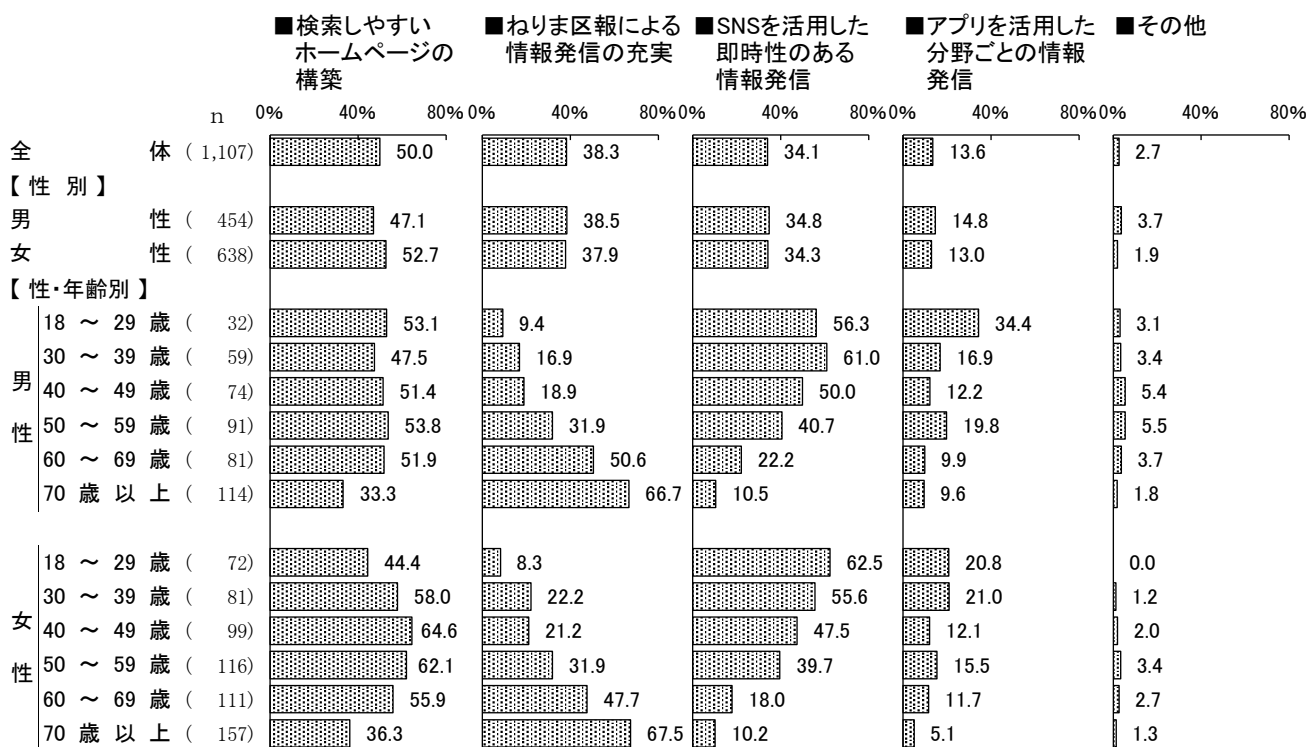
図1-18-1 今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきこと



今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきことについて聞いたところ、「検索しやすいホームページの構築」（50.0%）が5割と最も多く、次いで「ねりま区報による情報発信の充実」（38.3%）、「SNSを活用した即時性のある情報発信」（34.1%）、「アプリを活用した分野ごとの情報発信」（13.6%）などの順となっている。

過去の調査（令和5年度）と比較すると、「検索しやすいホームページの構築」は3.6ポイント減少している。（図1-18-1）

図 1-18-2 今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきこと－性別／性・年齢別



性別にみると、「検索しやすいホームページの構築」は女性の方が男性より5.6ポイント高くなっている。

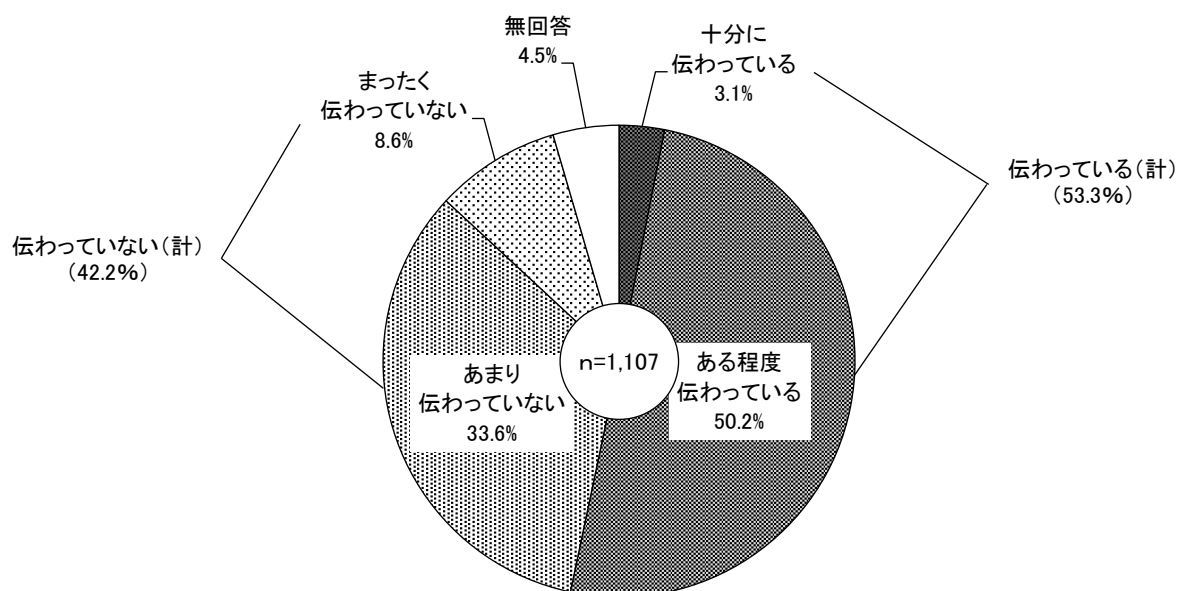
性・年齢別にみると、「検索しやすいホームページの構築」は女性40～49歳で6割半ばと多くなっている。「ねりま区報による情報発信の充実」は男性70歳以上、女性70歳以上で7割近くと多くなっている。また、「SNSを活用した即時性のある情報発信」は、おおむね年代が下がるほど割合が多くなっており、男性30～39歳、女性18～29歳で6割を超えている。(図1-18-2)

(19) 知りたい区政情報がどの程度伝わっているか

◇『伝わっている』が5割を超える

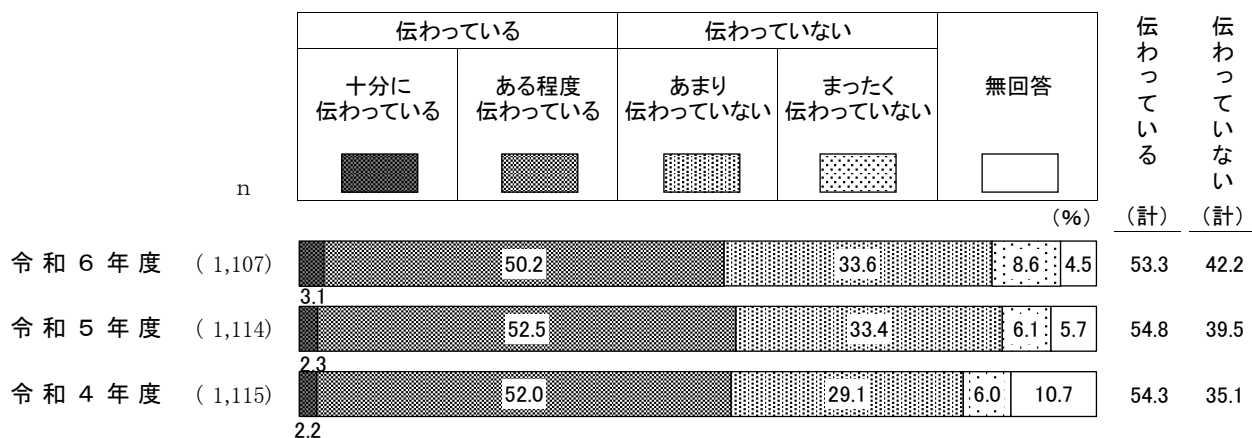
問22 あなたが知りたい区政の情報は、あなたにどの程度伝わっていますか。
(○は1つ)

図1-19-1 知りたい区政情報がどの程度伝わっているか



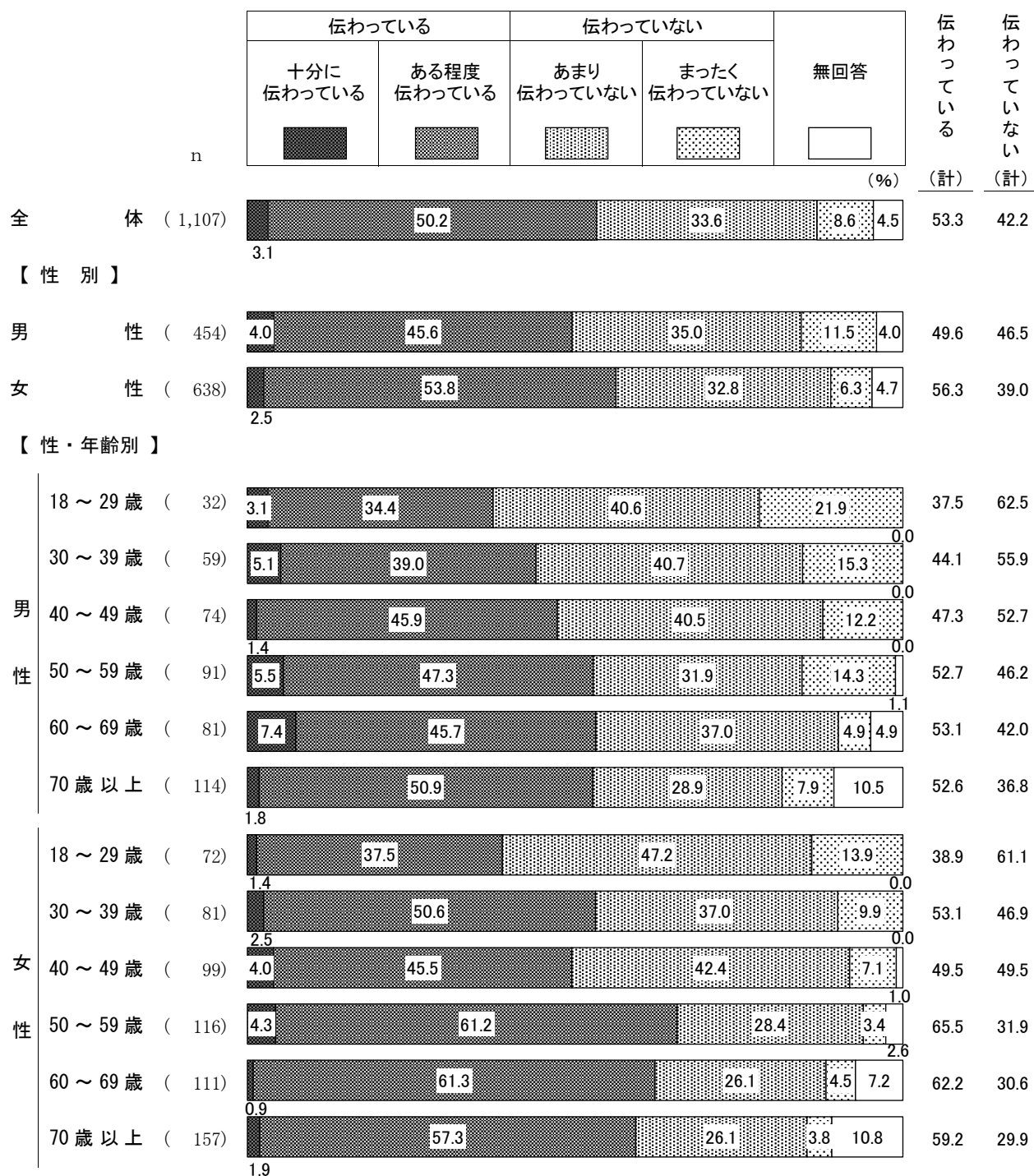
知りたい区政情報がどの程度伝わっているか聞いたところ、「十分に伝わっている」(3.1%)と「ある程度伝わっている」(50.2%)を合わせた、知りたい区政情報が『伝わっている』(53.3%)が5割を超えている。一方、「あまり伝わっていない」(33.6%)と「まったく伝わっていない」(8.6%)を合わせた、知りたい区政情報が『伝わっていない』(42.2%)は4割を超えている。(図1-19-1)

図1-19-2 知りたい区政情報がどの程度伝わっているかー過年度比較



過去の調査(令和5年度)と比較すると、『伝わっている』に大きな変化はみられない。
(図1-19-2)

図 1-19-3 知りたい区政情報がどの程度伝わっているかー性別／性・年齢別



性別にみると、『伝わっている』は女性の方が男性より6.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『伝わっている』は女性50～59歳で6割半ばと多くなっている。一方、『伝わっていない』は男性18～29歳、女性18～29歳で6割を超えて多くなっている。

(図 1-19-3)

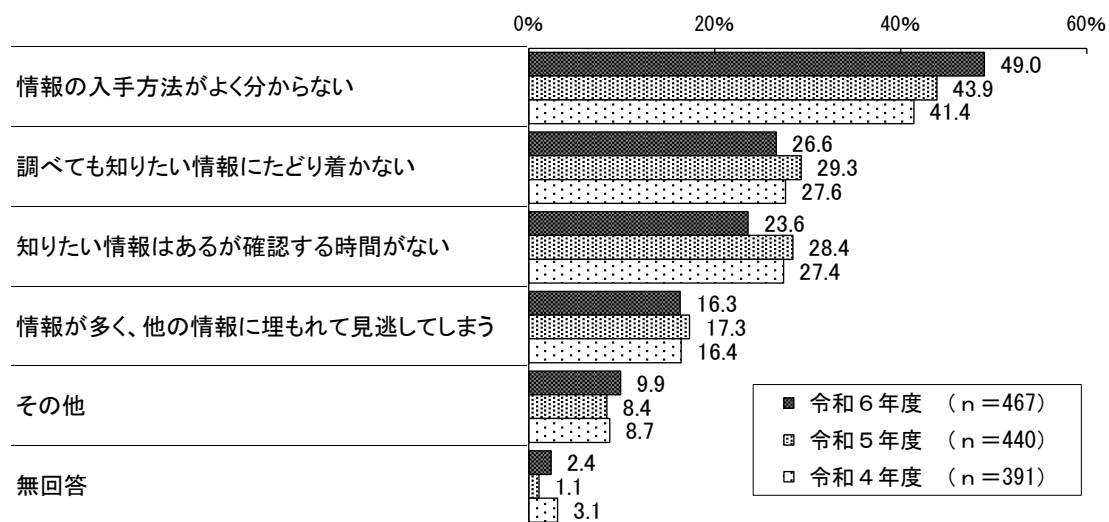
(19－1) 区政情報が伝わっていないと思う主な理由

◇「情報の入手方法がよく分からない」が約5割

【問22で「3 あまり伝わっていない」または「4 まったく伝わっていない」と答えた方へ】

問22－1 区政の情報が伝わっていないと思う主な理由は何ですか。(〇は2つまで)

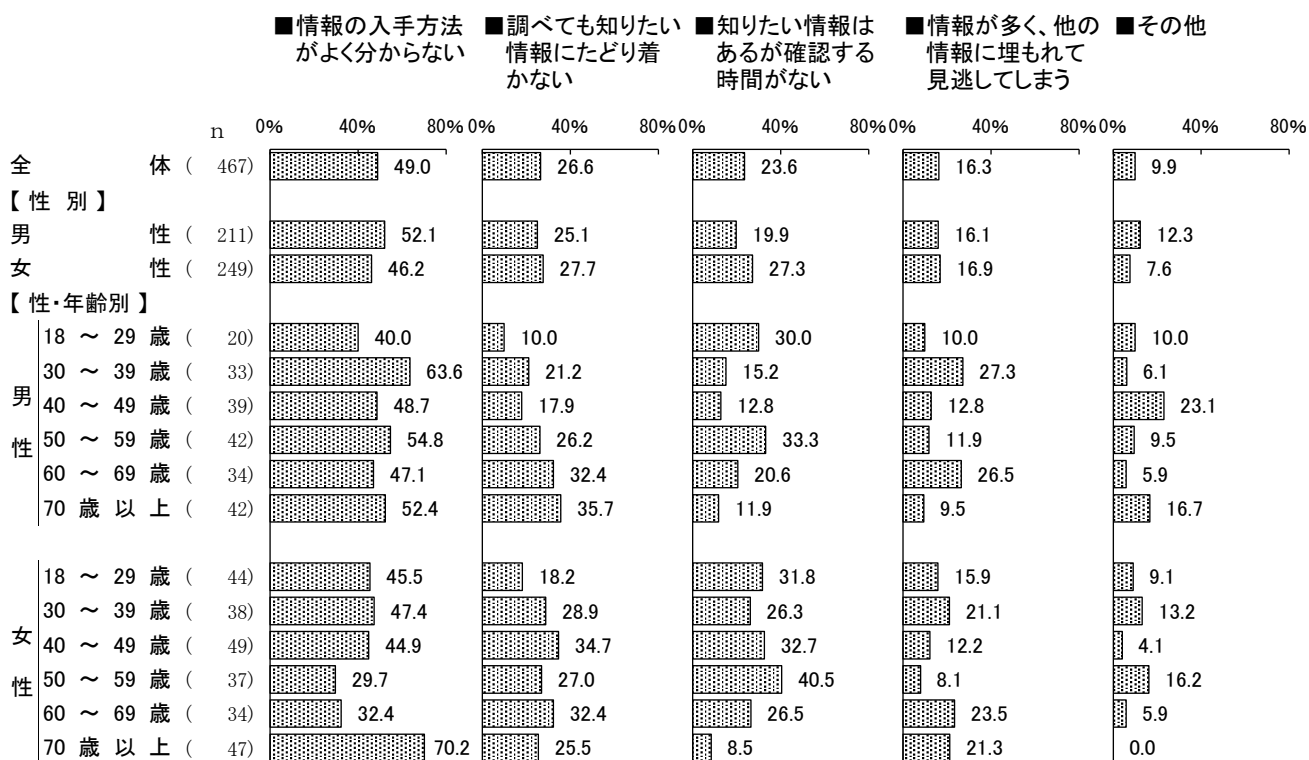
図1－19－4 区政情報が伝わっていないと思う主な理由



知りたい区政情報が「あまり伝わっていない」または「まったく伝わっていない」と答えた方(467人)に、伝わっていないと思う主な理由について聞いたところ、「情報の入手方法がよく分からない」(49.0%)が約5割と最も多く、次いで「調べても知りたい情報にたどり着かない」(26.6%)、「知りたい情報はあるが確認する時間がない」(23.6%)、「情報が多く、他の情報に埋もれて見逃してしまう」(16.3%)などの順となっている。

過去の調査(令和5年度)と比較すると、「情報の入手方法がよく分からない」は5.1ポイント増加している。(図1－19－4)

図 1-19-5 区政情報が伝わっていないと思う主な理由—性別／性・年齢別



性別にみると、「情報の入手方法がよく分からない」は男性の方が女性より5.9ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「情報の入手方法がよく分からない」は女性70歳以上で7割と多くなっている。「調べても知りたい情報にたどり着かない」は男性70歳以上、女性40～49歳で3割半ばと多くなっている。（図 1-19-5）